

取扱説明書及び部品表

Takakita

細断型コンビラップ

MW1231



本製品を安全に、また正しくお使いいただくために
必ず本取扱説明書をお読みください。
お読みになった後も大切に保管してください。
本取扱説明書はお手持ちのスマートフォンや
タブレットからアクセスすることができます。



株式会社 **タカキタ**

は じ め に

このたびは本製品をお買い上げいただき、ありがとうございました。

この取扱説明書は、**細断型コンビラップ**の取扱方法と使用上の注意事項について記載してあります。ご使用前には必ず、この取扱説明書を熟知するまでお読みの上、正しくお取扱いただき最良の状態でご使用ください。

- お読みになったあとも必ず製品に近接して保存してください。
- 製品を貸与または譲渡される場合は、この取扱説明書を製品に添付してお渡しください。
- この取扱説明書を紛失または損傷された場合は、速やかにお買い上げの販売店または当社にご注文ください。
- 本書は、**注意**として知っておくとお得な製品の性能や、製品自体の損傷防止に関する留意事項を書いています。
- なお、本製品については不断の研究成果を新しい技術として直ちに製品に取り入れておりますので、お手元の製品と本書の内容が一致しない場合もありますので、あらかじめご了承ください。
- ご不明なことやお気付のことがございましたら、お買い上げの販売店または当社にご相談ください。

⚠ 警 告 サ イ ン

⚠ 印付きの下記マークは安全上、特に重要な項目ですので、よく読んで必ずお守りください。

⚠ 危険 その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。

⚠ 警告 その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。

⚠ 注意 その警告に従わなかった場合、ケガを負うおそれのあるものを示します。

目 次

 安全に作業するために	1
本製品の使用目的とサービスについて	22
各部の名称とはたらき	23
トラクタへの装着	29
1. 装着のしかた	29
2. セーフティーチェーンの接続	30
3. ユニバーサルジョイントの取付け	30
4. コントロールボックスの接続	31
運転に必要な装着の取扱い	32
1. タイトチェーン注油装置の取扱い	32
2. 満了感知装置の取扱い	32
3. シリンダストップバルブの取扱い	32
4. コントロールボックス 1 の取扱い	33
5. コントロールボックス 2 の取扱い	38
6. 使用できるネット	41
7. ネット装置の取扱い	41
8. ネットの通し方	42
9. ブレーキの調整方法	43
10. ネット装置の作業前点検	43
11. 使用時にこれだけは守りましょう	44
12. フィルムをセットする	44
13. フィルムセンサボックスの取扱い	46
14. 車幅灯ベースの取扱い	47
15. パトライトの取扱い	47
作 業 方 法	48
1. 作業前作業の流れ	48
2. 作業の流れ	49
3. 作業を中断する場合	52
作業前の点検について	53
点検一覧表	53
簡単な手入れと処置	54
1. タイヤの空気圧調節及び摩擦、損傷	54
2. ヒューズの交換	54
3. シェアボルトの交換	55
4. フィルムの取扱いについて	55
5. チェーンの注油	56
6. ミッション給油	57
7. 車輪止め	57
8. ゴムロール	57
9. 送信機	58
10. 長期格納時の手入れ	58
11. タイトバーボルト・ナットの点検	58
12. 油圧作動油	59
13. オイルクーラー	59
14. リヤチャンバーの掃除	60
15. コンベアチェーンの張り調整	61
16. ローラチェーンの張り調整	61
17. タイトチェーンの張り調整	62
18. Vベルトの張り調整	63
19. コンベアベルトの張り調整	64
20. センサの調整	64
21. リモコンの設定方法	66
22. 各部の注油・グリスアップ	67
不 調 診 断	68
付 表	72
1. 主要諸元	72
2. 主な消耗品	73
3. オイル	74
4. 油圧回路図	75
5. 電気回路図（コントロールボックス 1）	76
6. 電気回路図（コントロールボックス 2）	77



安全に作業するために

取扱説明書と本機に貼ってある**!**表示ラベルをよく読み、機械の使い方をよく理解した上で使用してください。また、機械を点検して異常がないかを確認してから使用してください。

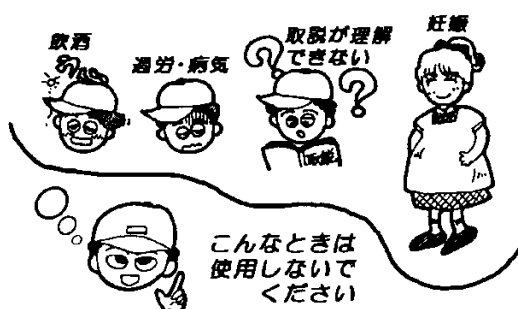
機械を他人に貸すとき、または他人に運転をさせるときは、運転の仕方を教え、本書も貸与し必ず読んでもらってください。

1. 本機を使用するにあたって

(1) 使用する人の条件

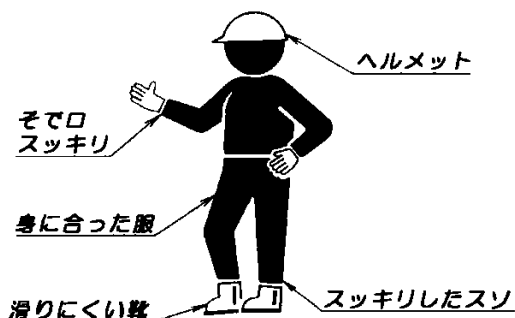
次の項目に該当する場合は本機を使用しないでください。

- 飲酒したとき。
- 過労・病気・薬物の影響・その他の理由により正常な運転ができないとき。
- 妊娠しているとき。
- 取扱方法を熟知していない人。



(2) 使用する人の服装

機械に巻き込まれたり、滑って転倒したりする事故を予防するため、首巻き・腰タオルをしないで、ヘルメット・滑り止めの付いた靴を着用し、だぶつきのない作業に適した服装で安全な作業をしてください。



(3) 適応トラクタ以外への装着厳禁

下記の装着条件に合致するトラクタ以外には装着しないでください。

● 適応トラクタ馬力kW (PS)

適 応 ト ラ ク タ
44.1～95.6 (60～130)

- 装着方式 : ドローバ
- PTO回転速度 : 400min⁻¹(rpm)
- 電源用バッテリー : DC12V

(4) 装着時の前後のバランス確認

トラクタに装着（連結）した作業機の最大積載状態において、トラクタ前輪にかかる荷重は、総重量の20%以上前輪に作用している必要があります。

もし、不足するときはトラクタ指定のフロントウエイトを取付けて、20%以上を確保するか、できなければ装着（連結）しないでください。

(5) バランスウエイトの取付け

トラクタのバランスウエイトは指定された部分に指定されたウエイト以外は取付けしないでください。



安全に作業するために

(6) 機械の改造厳禁

純正部品や指定以外の部品を取付けないでください。

また、改造をしないでください。

(7) 使用目的以外への使用禁止

本機は、細断されたコーン及び牧草をロール成形する作業を目的として作られた機械です。

他の目的には使用しないでください。

(8) 機械を他人に貸すとき

取扱方法をよく説明して、使用前には『取扱説明書』を必ず読むように指導してください。



2. 点検・整備をしてください

(1) 1年毎の定期点検・整備を

整備不良による不具合や事故を防止するために、1年毎に定期点検・整備を受け、機械が最良の状態で作業ができるようにしてください。



(2) 作業前の点検・整備を忘れずに

ご使用になる前と後には必ず点検・整備を行ってください。

(3) 点検・整備・掃除をするとき

点検・整備・修理・掃除をするときは、交通の危険がなく、機械が転倒したり、動いたりしない平坦で安定した場所で、P T Oを切り、トラクタのエンジンを停止させ、駐車ブレーキまたは車止めをしてから行ってください。

(4) ナイフに注意すること

ナイフ類は、絶対に素手で触れないでください。必ず手袋などの保護具を着用してください。



(5) 機械を常にきれいに

火災予防と性能維持のため、回転部への草などの巻付きやたまりを取除き、機械を常にきれいにしてください。

(6) 排気ガスには十分注意

屋内などでエンジンを始動するときはエンジンの排気ガスによる一酸化炭素中毒の恐れがあります。

エンジンの始動は、風通しのよい場所で行い、やむをえず屋内で始動する場合には、十分換気を行ってください。

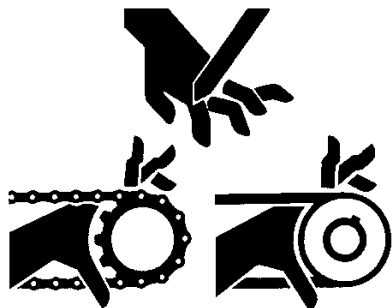




安全に作業するために

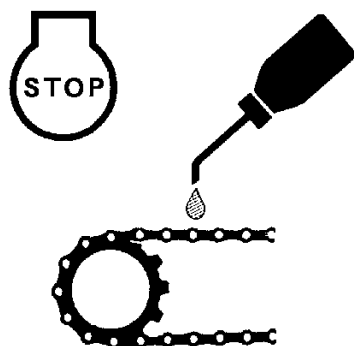
(7) カバー類を必ず取付ける

カバー類などの防護装置を取外すときは、必ずP T Oを切り、エンジンを止めてから行ってください。
また、取外したカバー類は必ず元どおりに取付けてください。守らないと、傷害事故を引き起こす恐れがあります。



(8) 注油・給油するときは

チェーンへの注油は、必ずP T Oを切り、エンジンを止めてから行ってください。

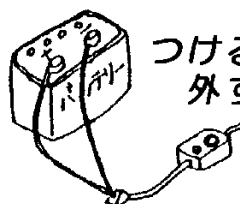


注 意

各チェーン、各回転部分や摩擦しゅう動部分には十分注油してください。また、部品が摩耗したまま使い続けると、摩擦による加熱の原因となり、場合によっては火災となります。

(9) コントロールボックスの電源脱・着は

トラクタのバッテリーより電源を取り出します。
その取付け方法は、(+) 側から行ってください。
外す時は、(-) 側から行ってください。逆にすると火花が飛び危険です。

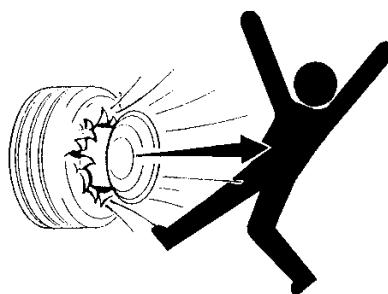


つける時は (+) 側から
外す時は (-) 側から



(10) タイヤの点検・修理をするときは

- ①タイヤの空気圧は、規定の空気圧を必ず守ってください。
- ②空気の入れ過ぎはタイヤ破損の恐れがあり、死傷事故を引き起こす原因になります。
- ③タイヤに傷があり、その傷がコード(糸)に達している場合は使用しないでください。
タイヤ破損の恐れがあります。
- ④タイヤ・チューブ・ホイールなどに関する交換・修理などは十分な整備施設をもち、特別教育を受けた人がいるタイヤショップ等の専門店で依頼してください。





安全に作業するために

(11) 長期格納するときは

機械を清掃し、回転部及びチェーンには十分注油して、屋内の平坦な場所に保管してください。

3. 作業・移動をするときは

(1) 人や動物を近づけない

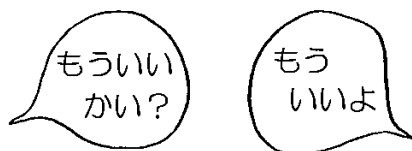
特に子供には十分注意し、近づけないようにしてください。

(2) PTO回転中は危険です

回転部には近寄らない、触らないを守ってください。

(3) 二人以上で作業するときは

二人以上の共同作業では、お互いに声を掛け合うなどして、安全を確かめ合いながら作業してください。



(4) エンジンを始動するときは

PTOを切り、変速レバーを中立にし周囲の人に合図をして安全を確かめてからエンジンを始動してください。
守らないと傷害事故を引き起こす恐れがあります。



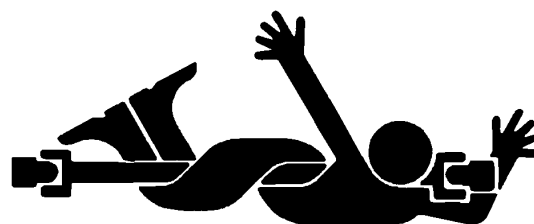
(5) 急な発進・停止・旋回・スピードの出しすぎ禁止

スピードの出しすぎ、急な発進・停止・旋回は、事故の原因となるだけでなく、機械の寿命も縮めますので行わないでください。

また、起伏の多いほ場や傾斜地は、危険です。作業スピードは極力落として作業を行ってください。

(6) 回転中のユニバーサルジョイントには触れない

回転しているユニバーサルジョイントに、手や足で絶対に触れないでください。巻き込まれ重傷を負うことがあります。



(7) 傾斜地を移動するときは

次のことを必ず守ってください。

①斜面の等高線に平行、または斜めに走行すると横転の危険があります。

斜面の作業は、必ず等高線に直角方向に走行してください。

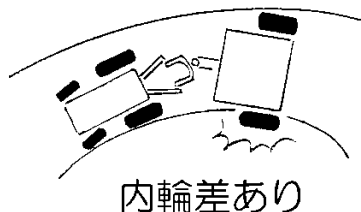
②傾斜地で旋回するときは、速度を落とし、急ハンドルを切らないでください。
守らないと、転倒する危険があります。



安全に作業するために

(8) 移動及び作業の旋回の際は

トラクタに本機をけん引して旋回するときは、内輪差が生じるので十分注意してください。急旋回は危険ですので行わないでください。



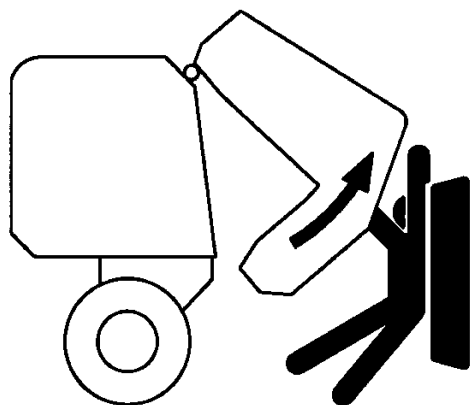
(9) シェアボルトの交換のときは

P T Oを切り、エンジンを必ず止め、回転部が完全に停止してから行ってください。



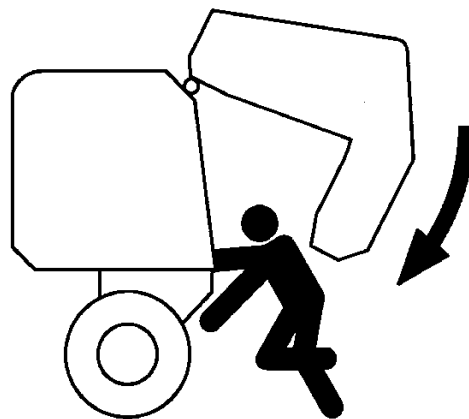
(10) ロールベールを放出するときは

ロールベールの放出は、後方に人がいないことや、障害物のないことを十分確認し、放出距離を考慮して放出してください。



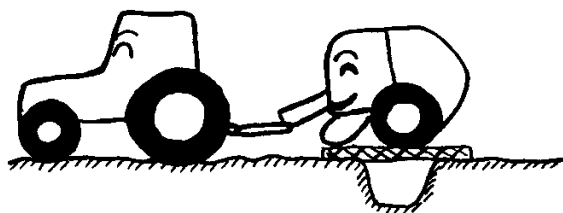
(11) チャンバーを開けて作業するときは

シリンダーバルブを必ず左右共にロックしてください。おこたると重大な傷害発生のおそれがあります。



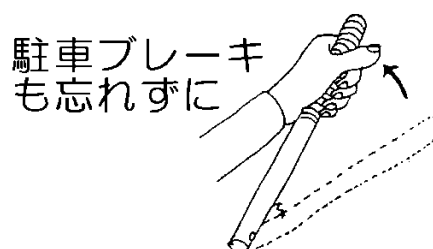
(12) 溝や畦を横断したり軟弱な所を通るときは

スリップや転倒による事故を防ぐために、幅・長さ・強度が十分あるスリップしないアユミ板をかけ、最低速度で通ってください。



(13) 作業途中で運転席より離れるときは

平坦な場所に停止し、P T Oを切りエンジンを止め、駐車ブレーキを掛け、本作業機側に車止めをしてください。

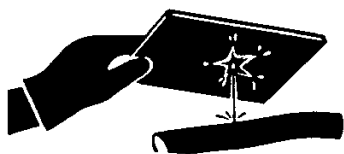




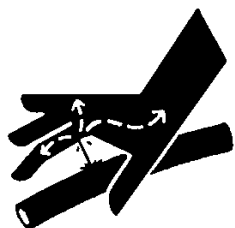
安全に作業するために

(14) 高圧油に注意してください

- ①圧力がかかり噴出した油は、皮膚に浸透する程の力があり、傷害の原因になります。
- ②高圧油による傷害を防止するために配管・ホースなどの取り外し前には必ず残圧を抜いてください。
- ③圧力をかける前に配管・ホースなどは正しく確実に締め付けてください。
- ④非常に小さな穴からの油漏れは、ほとんど目に見えないことがあります。手で油漏れを探すことは止めてください。必ず、保護メガネをかけ、紙などを使用して調べてください。



- ⑤万一、油が皮膚に浸透したときは、強度のアレルギーを起こす恐れがあるので、すぐ医師の診療を受けてください。



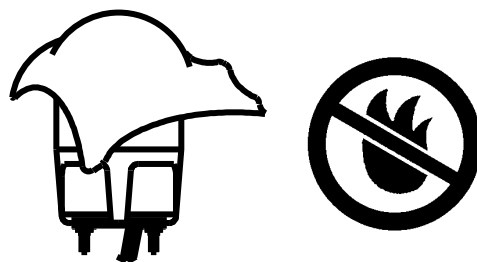
(15) 高温油に注意してください

- ①高温油による傷害を防止するために、作業直後の注油やミッションのオイル交換はしないでください。作業前か十分温度が冷えてから行ってください。
- ②火傷やケガを負った場合は、速やかに医師の診療を受けてください。



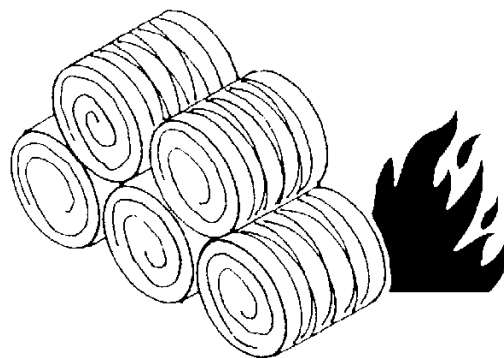
(16) 回転灯が点灯している時は

紙や布などの燃えやすいものをかぶせないでください。
発火の原因となります。



(17) 乾草に注意

乾燥不十分な牧草をロールベールに成形すると、ロールベール内部からの発火により火災が発生する危険性があります。ロールベール成形後 2～3 日間は、風通しの良い屋外に仮置きした後、屋内に収納してください。



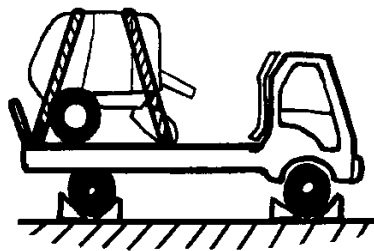


安全に作業するために

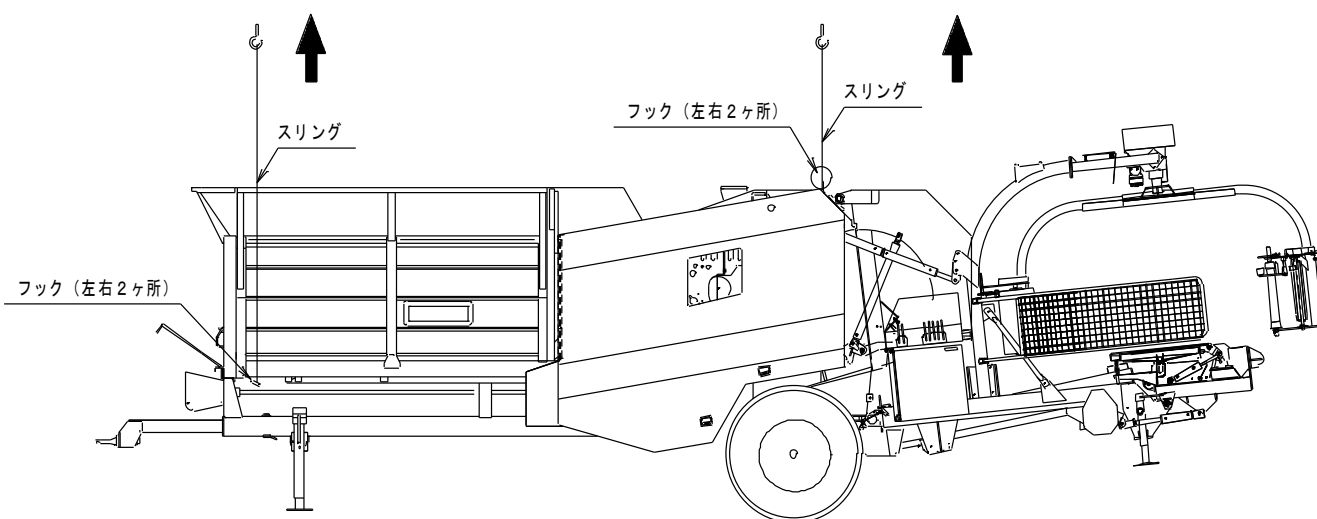
4. 輸送するときは

(1) トラックなどへの積み込み・積降ろし

平坦な場所でトラックが移動しないようエンジンを止め、サイドブレーキをかけ、車止めをしてください。積込んだ機械は車止めをし、強度が十分にあるロープで確実に固定してください。



(2) 機材の吊り上げは必ず指定の要領に基づいて行ってください。



- ・ 指定の箇所を吊り上げてください。
- ・ 2台のクレーンで吊り上げてください。

以上、機械の取扱で注意していただく主だった事項を記載しましたが、これ以外にも本文の中で  印を付けて安全上の注意事項を表記しております。



安全に作業するために

5. 公道走行するときは

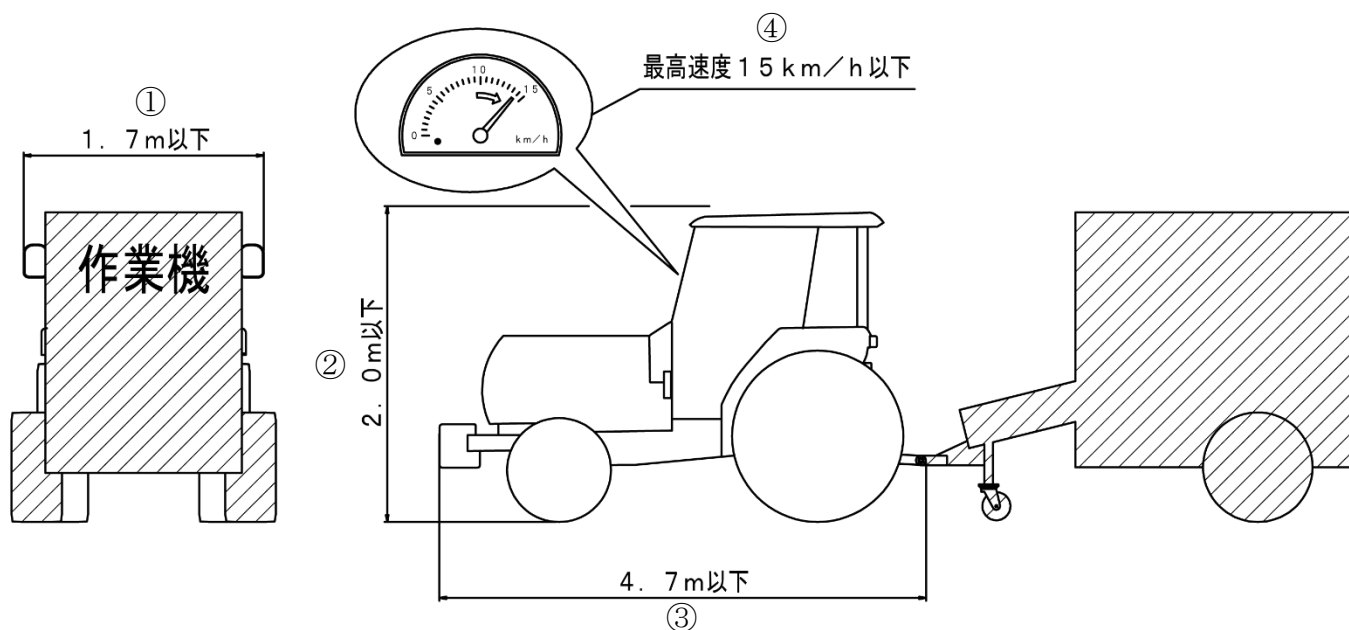
農耕用トラクタに関わる道路運送車両法の運用が見直され、保安基準に緩和措置が設けられました。必要な対応をすることで、けん引タイプの作業機で公道走行を行うことができます。公道走行をする際は、下記項目を確認した上で必要な対応を行い、法令遵守して走行してください。

(1) 必要な運転免許証について

トラクタの寸法が下表①～③の数値以内で④最高速度15km/h以下の場合は小型特殊免許で運行可能になりますが、下表①～④の数値をひとつでも上回る場合、大型特殊免許(農耕用に限る、も含む)とけん引免許(農耕用に限る、も含む)が必要となります。ただし、車両総重量 750kgを超えない農耕作業用トレーラをけん引する場合、けん引免許(農耕用に限る、も含む)は必要ありません。

- | | |
|----------|-----------------------------|
| ① 幅1.7m | ② 全高2.0m(安全キャブや安全フレームは2.8m) |
| ③ 全長4.7m | ④ 最高速度15km/h以下 |

下図を参考にご確認ください。





安全に作業するために

(2) 保安基準への適合性確認

自動車の種類と大きさにより、申請や検査登録が必要になります。

いずれの場合も農耕作業用トレーラ、農耕トラクタの使用者が保安基準適合性を確保する必要があります。

けん引車の農耕トラクタの種別	農耕作業用トレーラの種別と手続き
小型特殊自動車	[小型特殊自動車] ①一般的な大きさのもの ※1 ・個別に地方運輸局長から基準緩和の認定を、道路管理者から特殊車両通行許可を受ける必要はありません。
大型特殊自動車 (自動車検査証にけん引時の速度制限の基準緩和を受けた旨の記載があるもの)	②全幅が 2.5m を超えるもの ・道路管理者(地方整備局、各都道府県、各市町村等)に対し、個別に特殊車両通行許可を受ける必要があります。 ③長さが 12m または全高 3.8m を超えるもの ・個別に地方運輸局長から基準緩和の認定を、道路管理者から特殊車両通行許可を受ける必要があります。
大型特殊自動車 (上記以外のもの)	[大型特殊自動車] ①一般的な大きさのもの ※2 ・管轄の運輸支局等で検査登録が必要です。 ②長さが 12m または高さが 3.8m を超えるもの、その他オーバーハング等の基準を超えるもの ・管轄の運輸支局等で検査登録が必要です。 ・個別に地方運輸局長から基準緩和の認定を、道路管理者から特殊車両通行許可を受ける必要があります。

※1 全幅2.5m、全長12m、全高3.8mを超えない大きさのもの

※2 農耕トラクタと農耕作業用トレーラの連結全長が12mを超える場合、道路管理者(地方整備局、地方自治体等)から、特殊車両通行許可を受ける必要があります。



安全に作業するために

(3) 灯火器類・ステッカーの取付け

下記フローチャート①～③を全てそれぞれについてご確認ください、必要に応じて公道走行を行うための追加装備を取付けてください。

①トラクタの大きさ、最高速度による灯火器取付け位置

けん引をするトラクタは全長4.7m以下、全幅1.7m以下、全高2.0m以下、かつ最高速度15km/h以下か。

YES

NO

前面:A. 前部反射器

後面:B. 後部反射器

D. 方向指示器

を取り付ける必要があります。

※車幅灯、尾灯、制動灯、および後退灯は取付け義務がないので備える必要はありません。

次頁の取付け例1を参照してください。

前面:A. 前部反射器

C. 車幅灯

後面:B. 後部反射器

E. コンビネーションランプ

F. 後退灯

を取り付ける必要があります。

※トラクタと農耕作業用トレーラの連結全長が6m未満の場合は、農耕作業用トレーラの後面方向指示器は必要ありません。

次頁の取付け例2を参照してください。

A.前部反射器	B.後部反射器	C.車幅灯	D.方向指示器
E.コンビネーションランプ		F.後退灯	

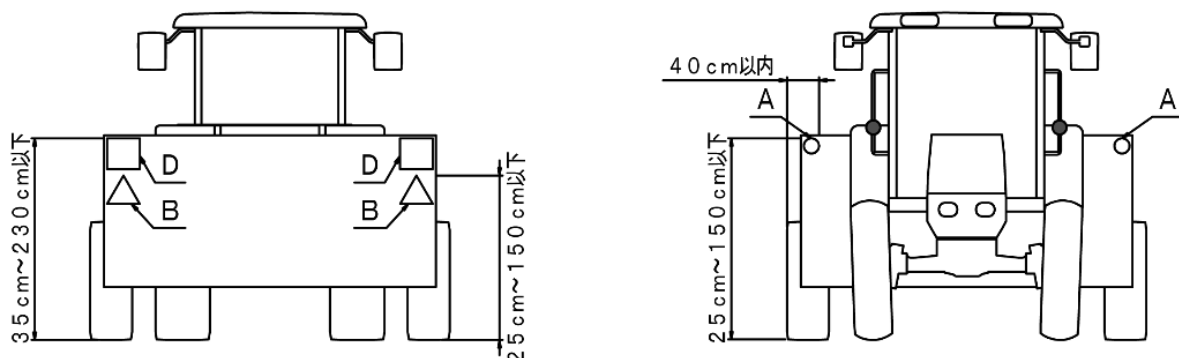


安全に作業するために

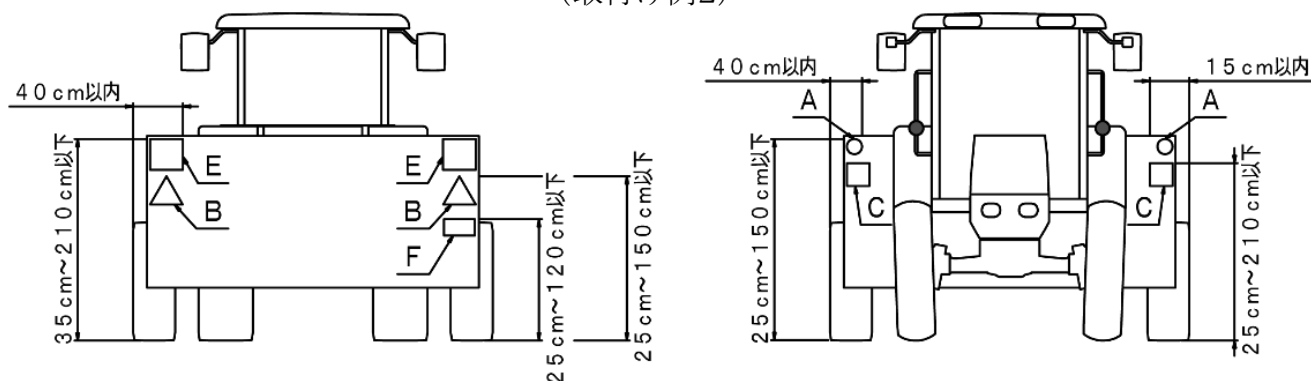
● 装備の取付け位置

- ・ 道路運送車両の保安基準により、各種灯火器類の取付け位置は定められています。
 - 前部反射器(リフレクター) 最外側から40cm 以内、高さは地上25cm 以上150cm 以下
 - 後部反射器(リフレクター) 最外側から40cm 以内、高さは地上25cm 以上150cm 以下
 - 車幅灯(ポジションランプ) 最外側から15cm 以内、高さは地上25cm 以上210cm 以下
 - 方向指示器(ウインカー) 最外側から40cm 以内、高さは地上35cm 以上230cm 以下
 - 尾灯(テールランプ) 最外側から40cm 以内、高さは地上35cm 以上210cm 以下
 - 制動灯(ブレーキランプ) 最外側から40cm 以内、高さは地上35cm 以上210cm 以下
 - 後退灯(バックランプ) 高さは可能な限り25cm 以上120cm 以下
- ・ 車幅灯は前方から確認(視認)できる位置に、上記条件を満たし、可能な限り左右対称になるように取付けてください。
- ・ コンビネーションランプは後方から確認(視認)できる位置に、上記条件を満たし、可能な限り左右対称になるように取付けてください。
- ・ 後退灯は後方から確認(視認)できる位置に上記条件を満たすように取付けてください。

(取付け例1)



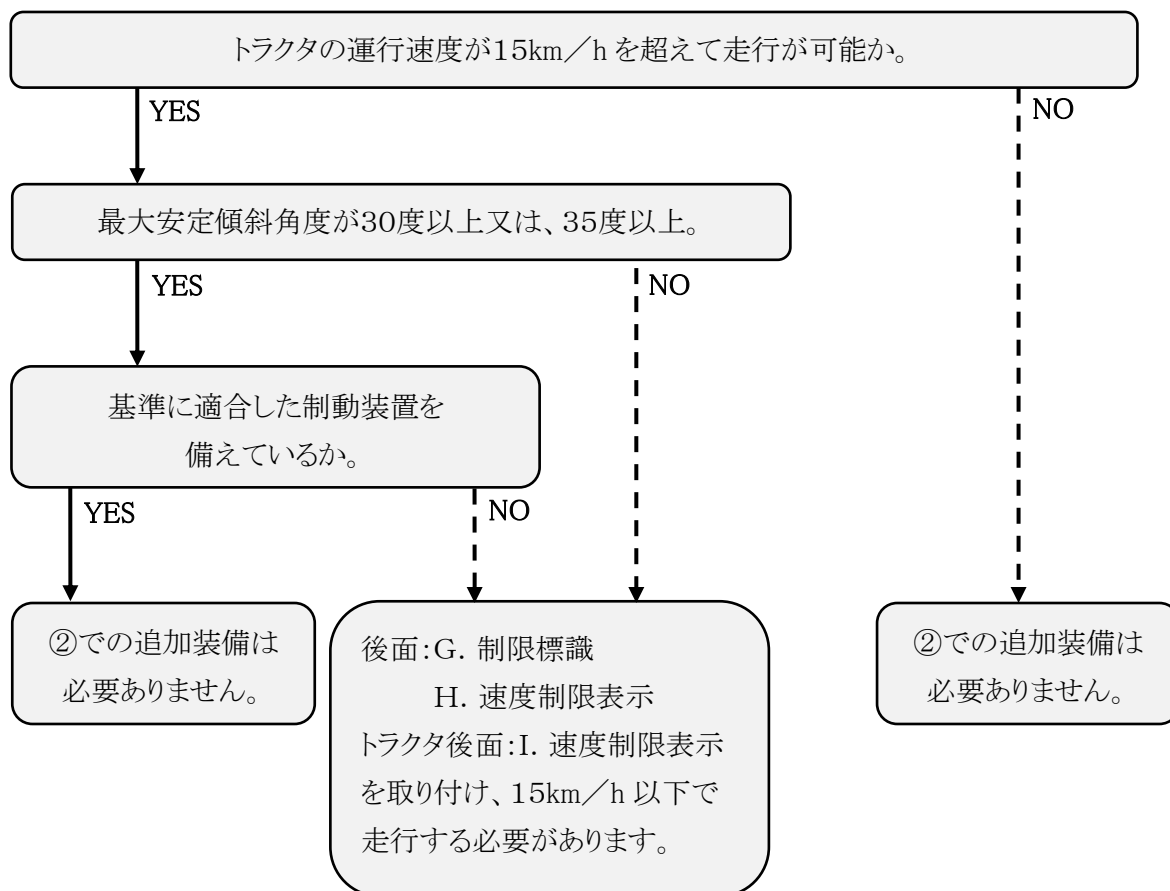
(取付け例2)





安全に作業するために

②トラクタの運行速度



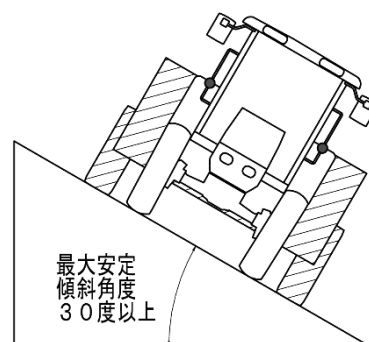
●最大安定傾斜角度が不明な場合は、運行速度15km/h以下で走行してください。

<安定性に関して>

作業機を装着した際に、最大安定傾斜角度が30度以上又は、35度以上(車両総重量が車両重量の1.2倍以上又は、積載により重心高さが上がるもの)であれば、通常の方法で道路走行できます。

上記条件を満たさない場合は、

- ・運行速度15km/h以下での道路走行
- ・道路走行をする際に、Gを作業機後面に表示、
Hを作業機後面に表示、
Iをトラクタ後面・運転席に表示
を行う必要があります。





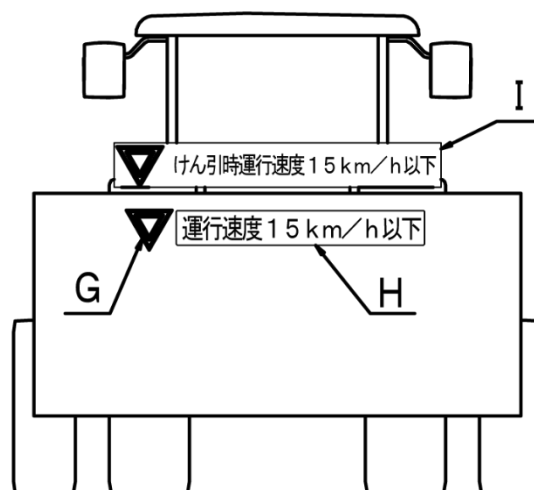
安全に作業するために

● 装備の取付け位置

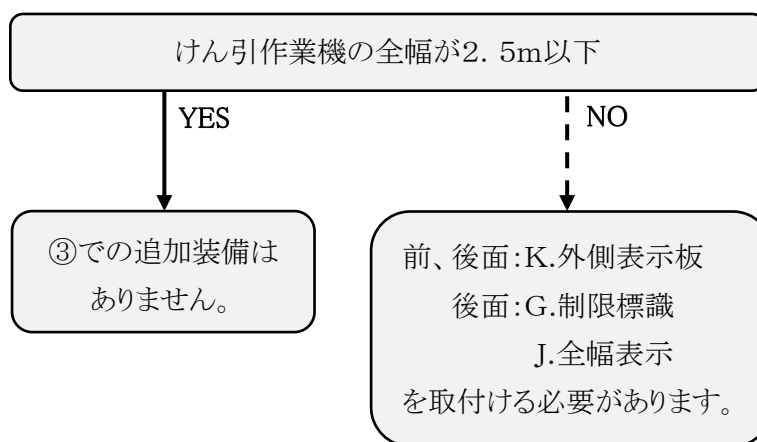
- ・ G、H、Iは後方から確認できる位置に取付けてください。
- ・ Hは運転席にも表示する必要があります。

G. 制限標識	H. 速度制限表示（作業機側）
I. 速度制限表示（トラクタ側）	

（取付け例）



③ 作業機装着時の全幅



G. 制限標識	J. 全幅表示	K. 外側表示板

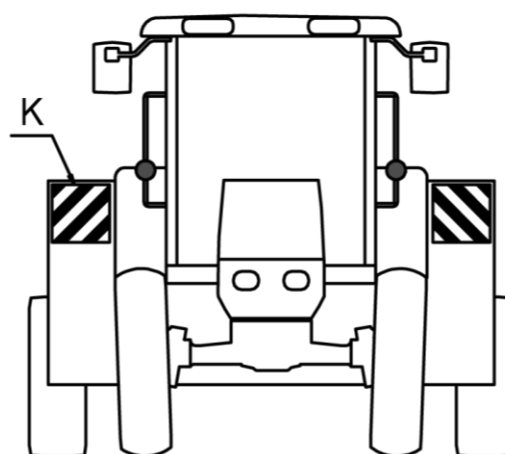
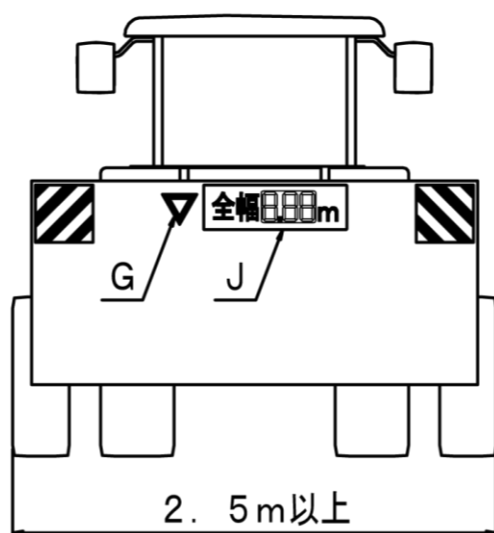


安全に作業するために

● 装備の取付け位置

- ・ G、Jは後方から見やすい位置に取付けてください。
- ・ Kは前後、両端に赤白ラインが「ハの字」になるように取付けてください。

(取付け例)





安全に作業するために

灯火器類・ステッカー取り付け例

灯火器取付け位置 車幅灯 前部反射器 尾灯 後部反射器 制動灯 方向指示器 後退灯	全長4.7m以下、 全幅1.7m以下、 全高2.0m以下、 最高速度15km/h 以下の場合	(ア)
	上記の寸法 または最高速度 15km/hを1つでも 上回る場合	(イ)
	全幅が2.5mを 超える場合	(ウ)

灯火器・ステッカー

A. 前部反射器



B. 後部反射器



C. 車幅灯



D. 方向指示器



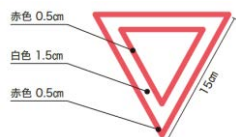
E. コンビネーションランプ



F. 後退灯



G. 制限標識



H. 速度制限表示
(作業機側)

運行速度15 km/h以下

I. 速度制限表示
(トラクタ側)

けん引時運行速度15 km/h以下

J. 全幅表示

全幅8.88m

K. 外側表示板



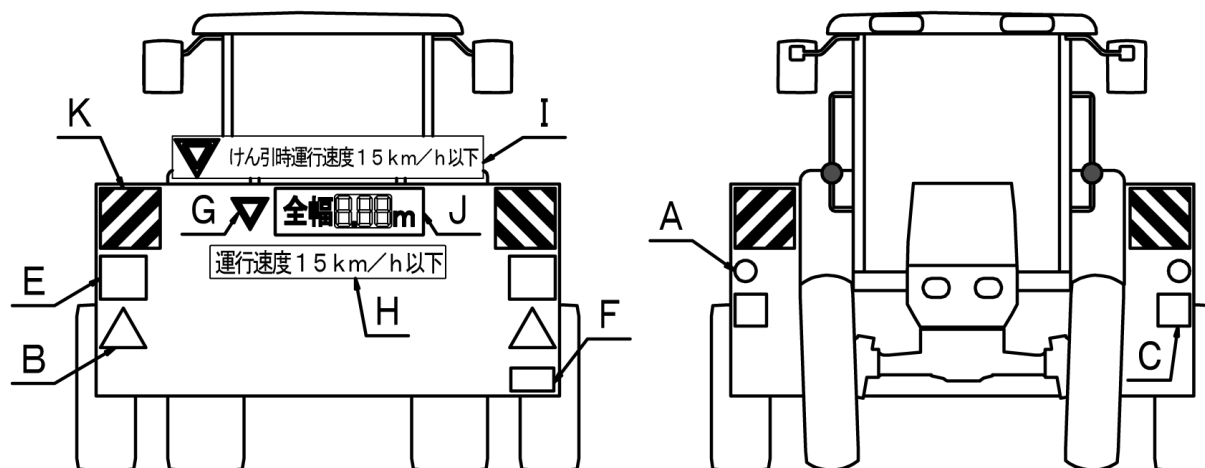
※全幅2.5mを超過する場合は、道路管理者(国道:地方道路局、県道:各都道府県、市道:各市町村)から特殊車両通行許可を得る必要があります。



安全に作業するために

●p.12「②トラクタの運行速度」を確認後、速度制限表示が必要な場合は取付けてください。

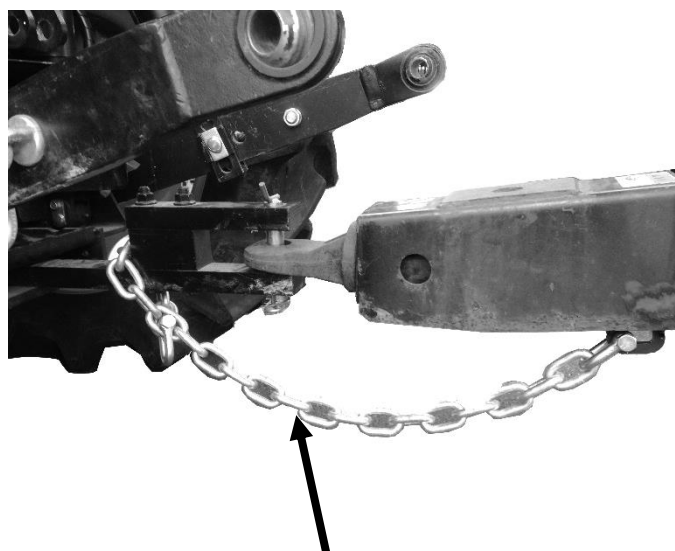
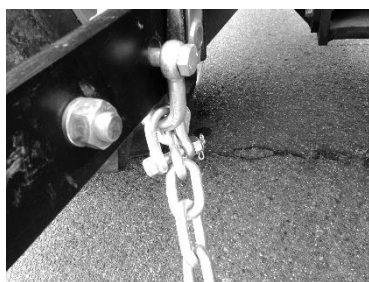
例: (ウ)に速度制限表示を追加



●灯火器類取付けの際には、トラクタの操作と連動して点灯することを確認後に公道走行を行ってください。また、灯火器類・ステッカーが汚れたときは視認できるように掃除をしてください。

(4) 農耕作業用トレーラの構造要件(分離時の連結維持構造)に関して

農耕トラクタが農耕作業用トレーラをけん引した際に、不意に連結装置(ドローバ等)が分離したときでも農耕トラクタと農耕作業用トレーラの連結を保つことができる構造でなければ道路走行できません。セーフティチェーン等を備え、けん引時にはセーフティチェーン等をねじ止め等でつないで道路を走行してください。



セーフティチェーン

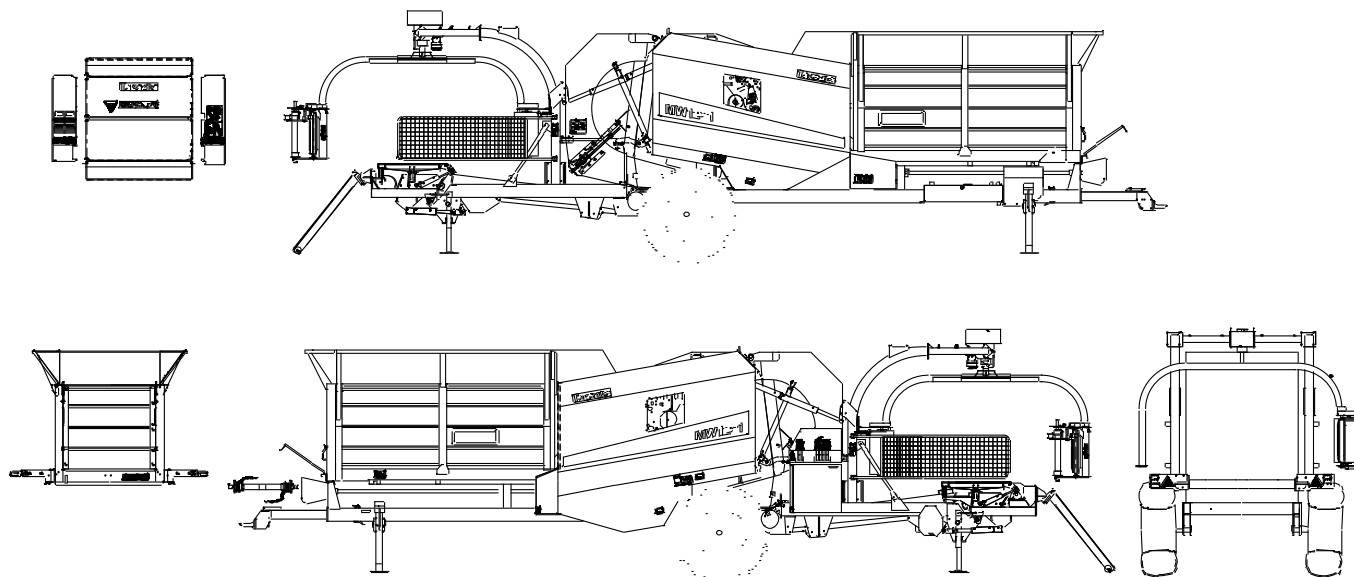
詳細は日農工「公道走行ガイドブック」(<http://www.jfnma.or.jp/kouido.html>)をご覧ください。
その他不明な点は、お買い上げいただいた販売店にご相談ください。



安全に作業するために

(5) 公道走行時の注意点

本機には、下記部品が標準装備されています。保安基準の緩和により運行速度 15 km/h 以下で公道走行することができます。



また、トラクタと作業機を連結するためのセーフティーチェーンと固定用のシャックルを付属しています。作業機をトラクタでけん引して公道走行する際は必ず取付けてください。取付方法については、P.30 の『セーフティーチェーンの接続』を参照してください。

公道走行する際はパトライトを取外す必要があります。パトライトのコネクタとノブボルトを取外し、パトライトベースごとパトライトを取外してから公道走行を行ってください。



安全に作業するために

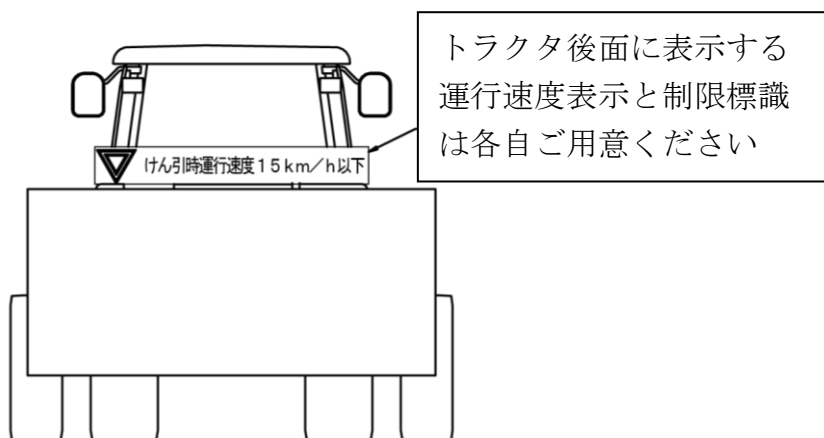
トラクタ運転席に表示する、運行速度表示が付属しています。

運行速度表示（トラクタ運転席用）

けん引時運行速度15km/h以下

00120620000

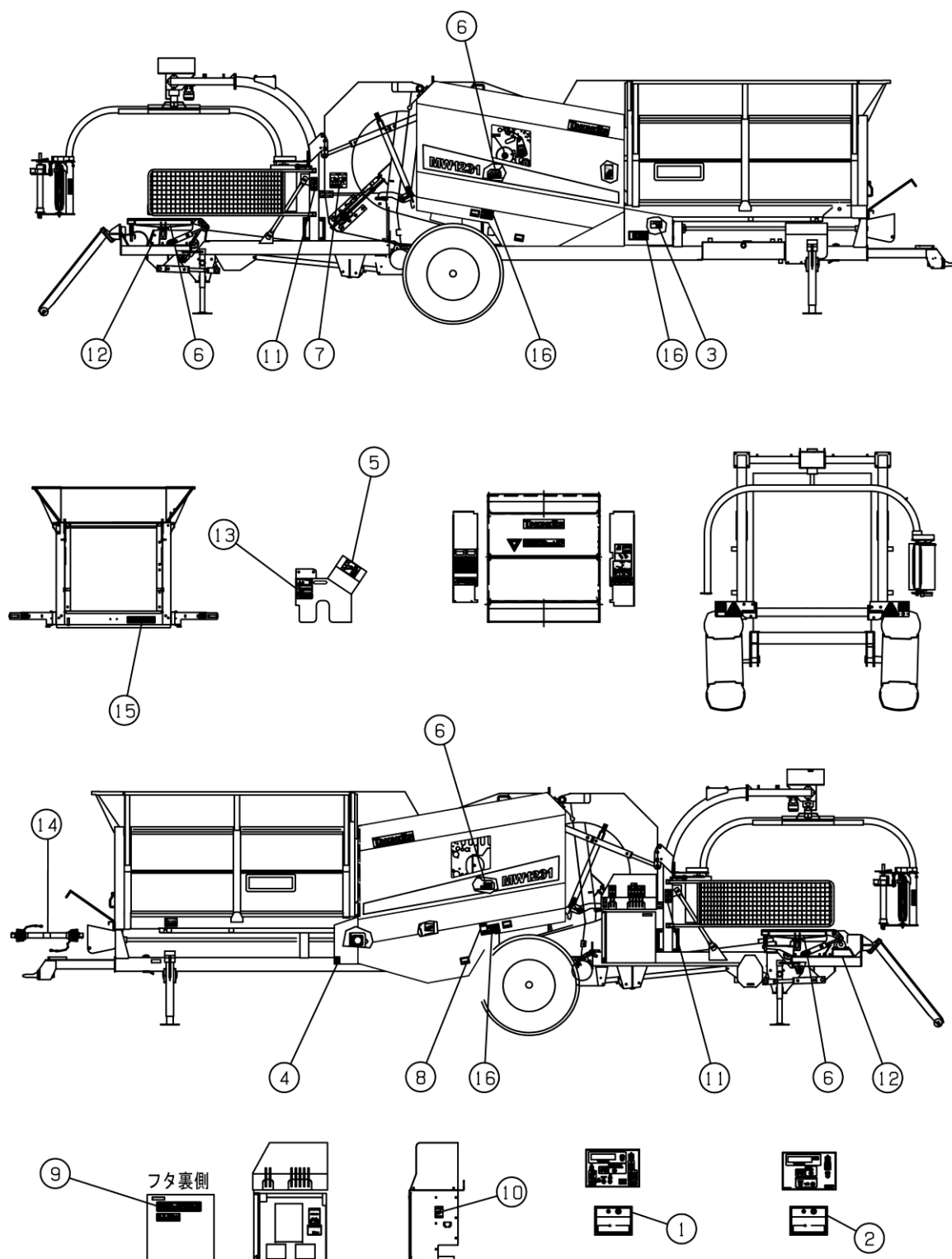
上記、運行速度表示は運転席から確認できる位置に表示してください。
ただし、トラクタ後面に表示する運行速度表示及び制限標識は付属されていません。
お客様ご自身でご用意ください。





安全に作業するために

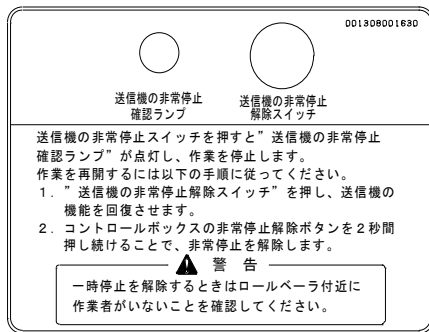
6. 警告ラベルの貼付け位置



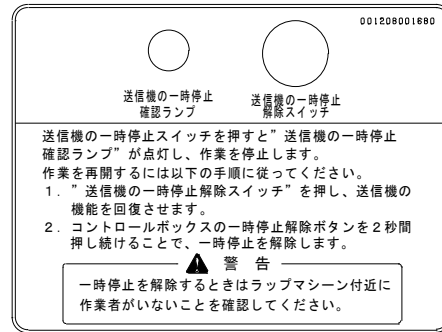


安全に作業するために

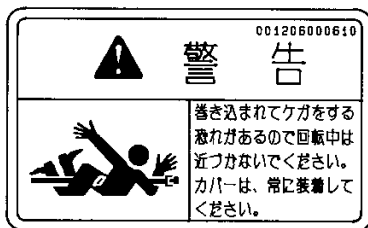
①部品コード 001308001630



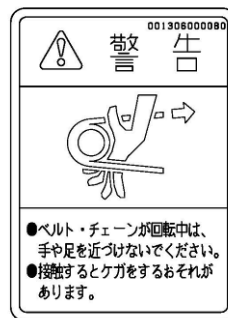
②部品コード 001208001680



③部品コード 001206000610



④部品コード 001306000080



⑤部品コード 001306000070



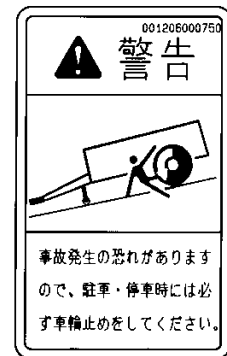
⑥部品コード 001206000561



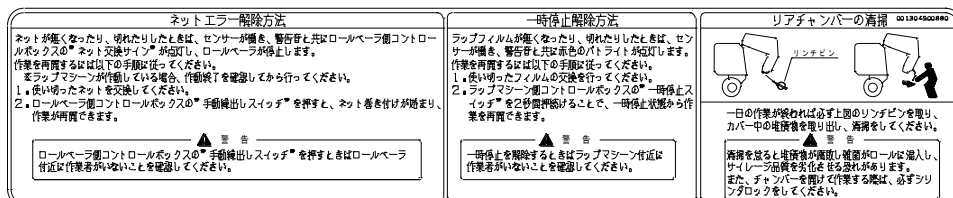
⑦部品コード 001206001350



⑧部品コード 001206000750



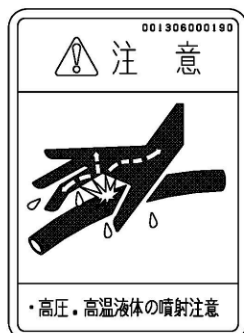
⑨部品コード 001304500880



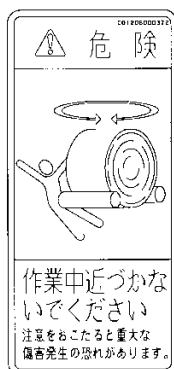


安全に作業するために

⑩部品コード 001306000190



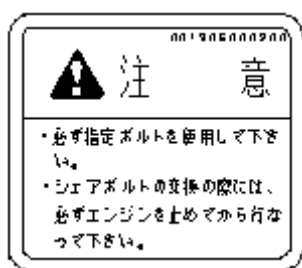
⑪部品コード 001206000372



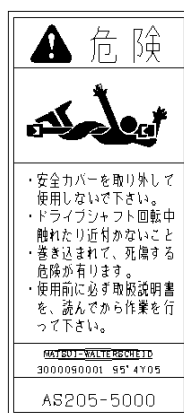
⑫部品コード 001306000790



⑬部品コード 001306000200



⑭部品コード 001306951010



⑯部品コード 001306200360



⑮部品コード 001306200541

注意		警告		危険
1. 取扱いや修理と業務や作業の用途となりませんので、必ず取扱説明書を熟読するまでも読みください。	エンジン停止後、駐車ブレーキをかけてください。	2. 全脚のフレームが所定範囲に動作しているようにしてください。	3. 点検・調整等はエンジンを止めて実施してください。	4. エンジン始動前に乗員の乗入らないことと確認してください。
5. 作業中は人や動物を近づけないでください。	6. 手・足等の身体を運動部分に近づけないようにしてください。	7. 点検・調整等はエンジンを止めて実施してください。	8. 手・足等の身体を運動部分に近づけないようにしてください。	9. 保安基準を満たさない乗り具を運行してはなりません。
PTO回転速度は400min ⁻¹ (rpm)以下で作業してください。		・巻き込まれてケガをする恐れがあるもので運転中は近づかないでください。		・カバーは、常に装着してください。
		作業範囲外の人や動物を近づけないこと。		・エンジンがかけたまま点検や整備をするときケガをするおそれがあります。
		・点検時エンジン停止		・必ずエンジン停止してから作業してください。
				・転落事故を防ぐためには足場や登降時にトラクタの前後が浮き上がらないよう充分な前後フットを確保下さい。

警告ラベルの取扱い注意事項

- (1) 警告ラベルはいつもきれいにして傷をつけないように、また汚れている場合、中性洗剤で洗い、軟らかい布で水気を拭いてください。
- (2) 傷ついたり、汚れたり、はがれた場合は、お買い上げの販売店又は当社に注文し新しいラベルを元の位置に貼ってください。
(ラベルをご注文の際は部品コードをご連絡ください。)
- (3) 警告ラベルが貼ってある部品を交換する場合は、新しいラベルを注文して元の位置に貼ってください。
- (4) 新しいラベルを貼る場合は、汚れを拭き取り、乾いた面に貼ってください。
気泡は隅の方へ押しながら抜いてください。

本製品の使用目的とサービスについて

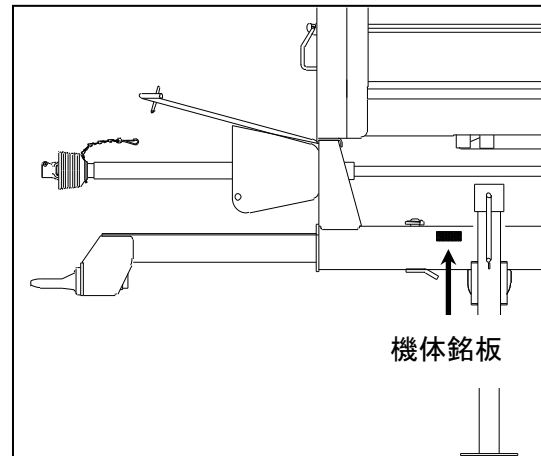
本製品の使用目的について

本製品は、細断されたコーン及び牧草の梱包にご使用ください。
使用目的以外の作業や改造などは、決して行わないでください。
使用目的以外の作業や改造をした場合は、保証の対象になりません。

(機体銘板貼付け位置図)

アフターサービスについて

機械の調子が悪いとき、不調診断に従って点検・処置しても、なお不具合があるときは、お買い上げいただいた販売店、農協、または、お近くの当社営業所までご連絡ください。



【連絡していただきたい内容】

- 品名と型式
- 機体 No. (S E R - N o)
- ご使用状況は？ (どんな条件でどんな作業をしていたときに)
- どれくらい使用されましたか？ (約〇〇アール、または約〇〇時間使用後)
- 不具合が発生したときの状況をできるだけ詳しく教えてください。

※機体No.は、上図に示す機体銘板に打刻しております。

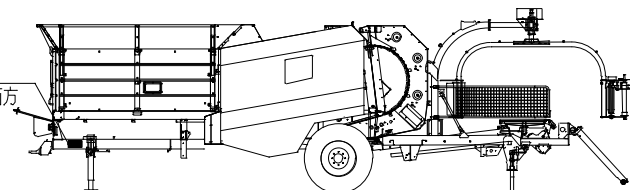
【今後参考のため、次の空欄に機体 No. などを記入しておいてください。】

品 名	細断型コンビラップ
型 式	MW 1 2 3 1
機 体 No. (SER-No.)	
購入年月日	年 月 日
販売店名	TEL : ()

車台番号について

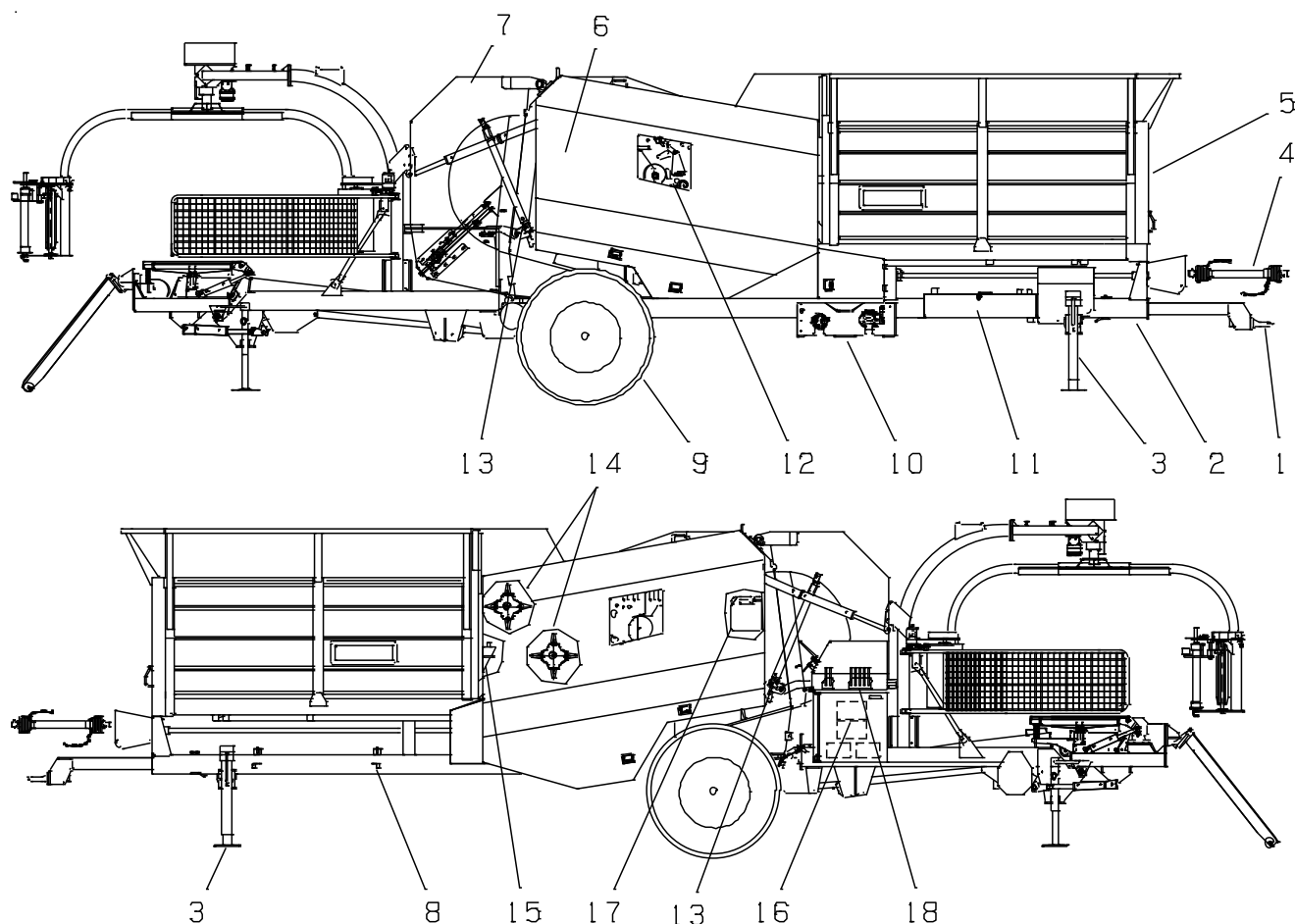
本製品には、上記機体 No.と関連させて機械の同一性を管理する車台番号が打刻されています。
打刻位置と打刻形式は右図を参照ください。

車台番号打刻位置
ケンインフレームの左側面前方



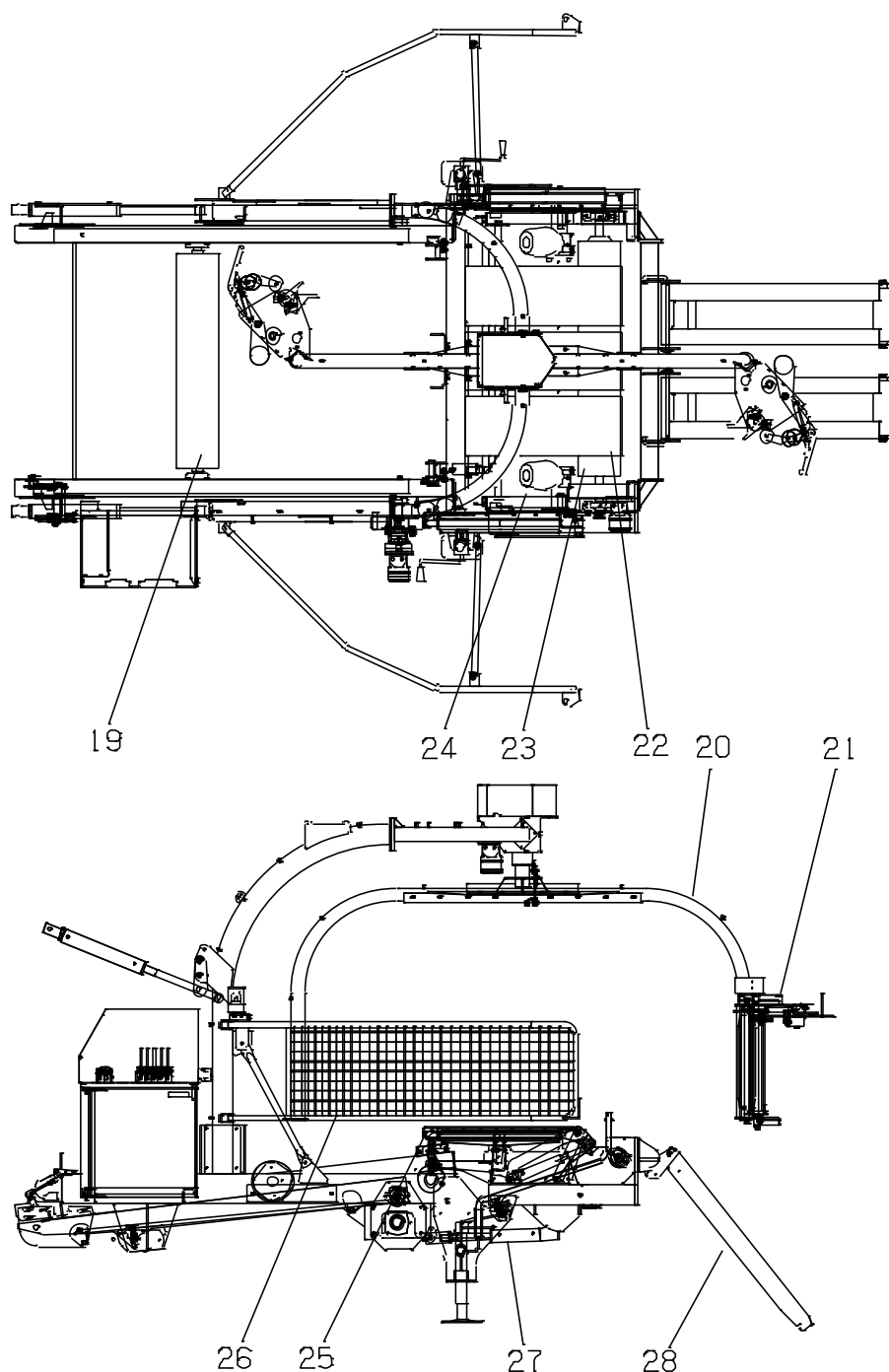
型式	MW1231
車台番号	MW1230- * * * *

各部の名称とはたらき



番号	名 称	は た ら き
1	ヒッチ	トラクタと連結します。
2	けん引フレーム	全体の構造部を保持します。
3	スタンド	トラクタの脱着時及び保管時に使用します。
4	ユニバーサルジョイント	トラクタからの動力を伝えます。
5	ホッパー	収穫物を投入します。
6	フロントチャンバー	ロールベールの成形を行います。
7	リアチャンバー	ロールベールを放出するために開放します。
8	キッカー収納場所	キッカーを収納します。
9	タイヤ	ほ場を傷めにくい低圧広幅タイヤです。
10	油圧ポンプ	トラクタの動力より油圧を発生させます。
11	油圧タンク	油圧作動油を入れます
12	ネット装置	ネットでベールを梱包します。
13	シリンダストップバルブ	リアチャンバーを上げて点検するときシリンダストッパーで固定します。
14	アジテータ	ホッパー内の収穫物を成形室に送り込みます。
15	車輪止め	駐車時にタイヤの歯止めをします。
16	コントロールボックス	ロールベールおよびラップマシンの操作を行います。
17	注油タンク	タイトチェーンへ給油するオイルを入れます。 (エンジンオイル5W-30又は10W-30を4ℓ)
18	バルブ操作レバー	本機側でストレッチアームなどを操作します。

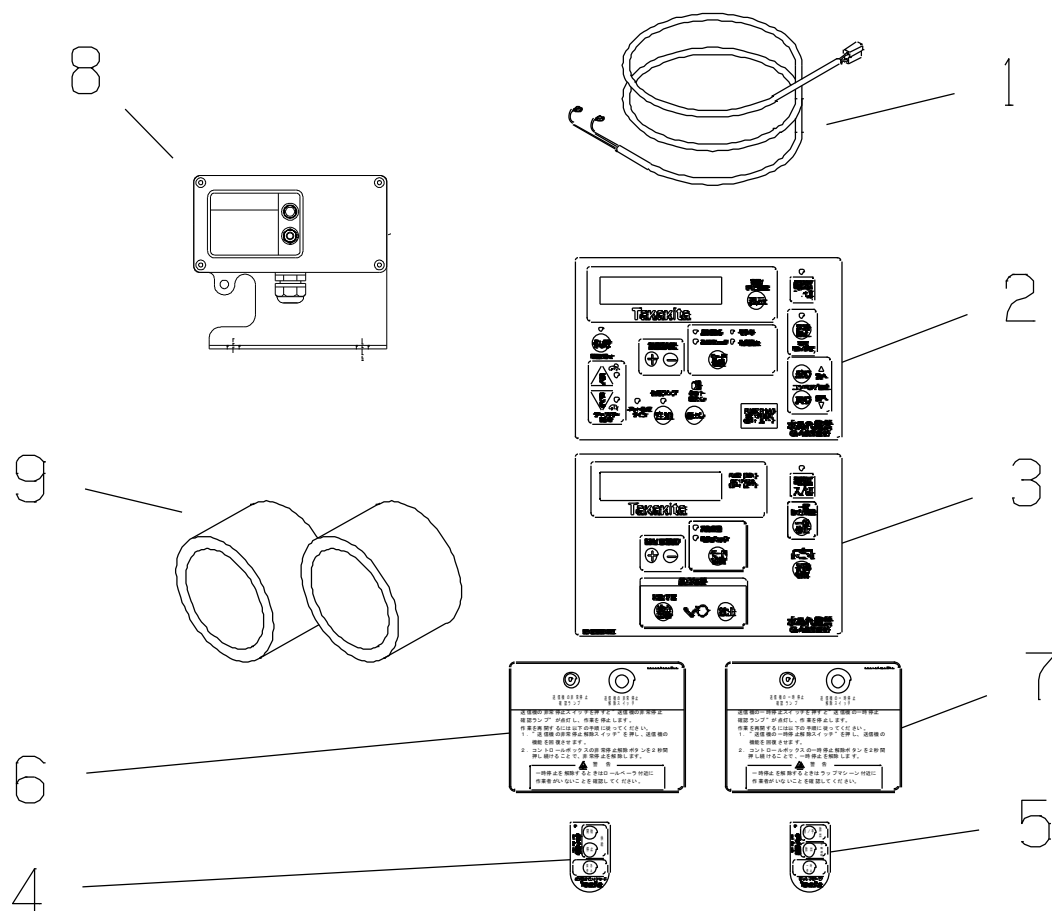
各部の名称とはたらき



番号	名 称	は た ら き
19	搬送ローラ	ロールベールをラップマシーンへ搬送します。
20	ストレッチアーム	回転して、フィルムをロールベールに巻付けます
21	ストレッチブラケット	フィルムをセット、及びフィルムを引き伸ばします。
22	テーブルベルト	ロールベールを回転させます。
23	テーブルローラ	テーブルベルトを回転させます。
24	サイドローラ	ロールベールの横ずれを防止します。
25	グリップカッタ	フィルムをつかみ、切断します。
26	安全ガード	ストレッチアーム回転範囲への立入を禁止します。
27	ダンプ油圧シリンダ	テーブルを傾斜させ、ロールベールをおろします。
28	キッカー	ロールベールを機体後方へ転がします。

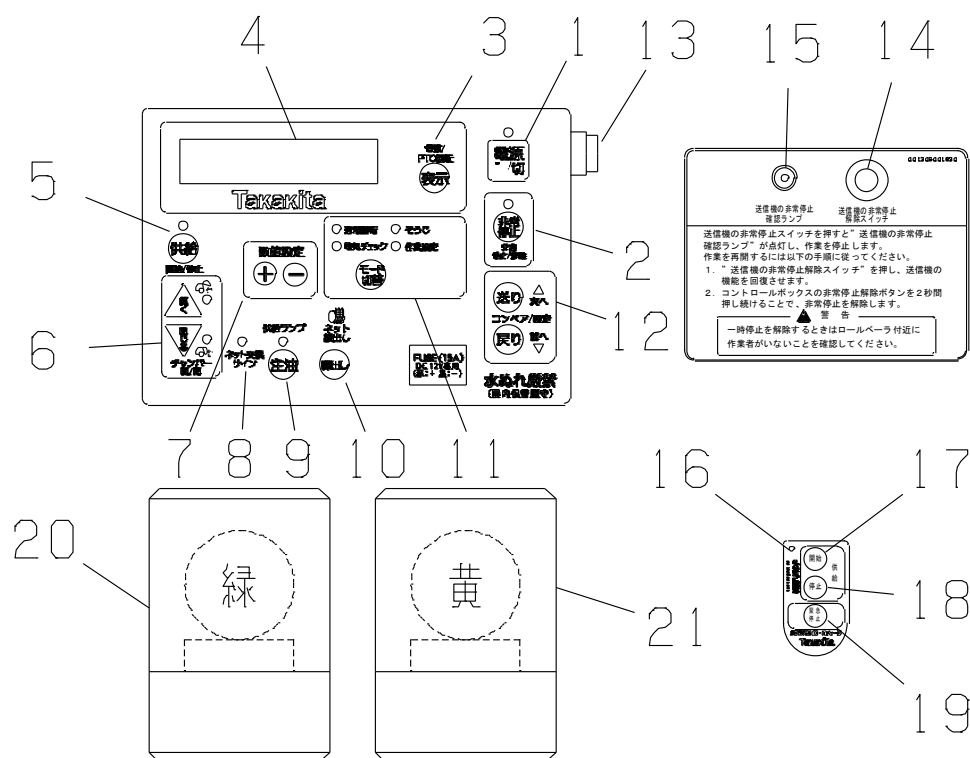
各部の名称とはたらき

付属品



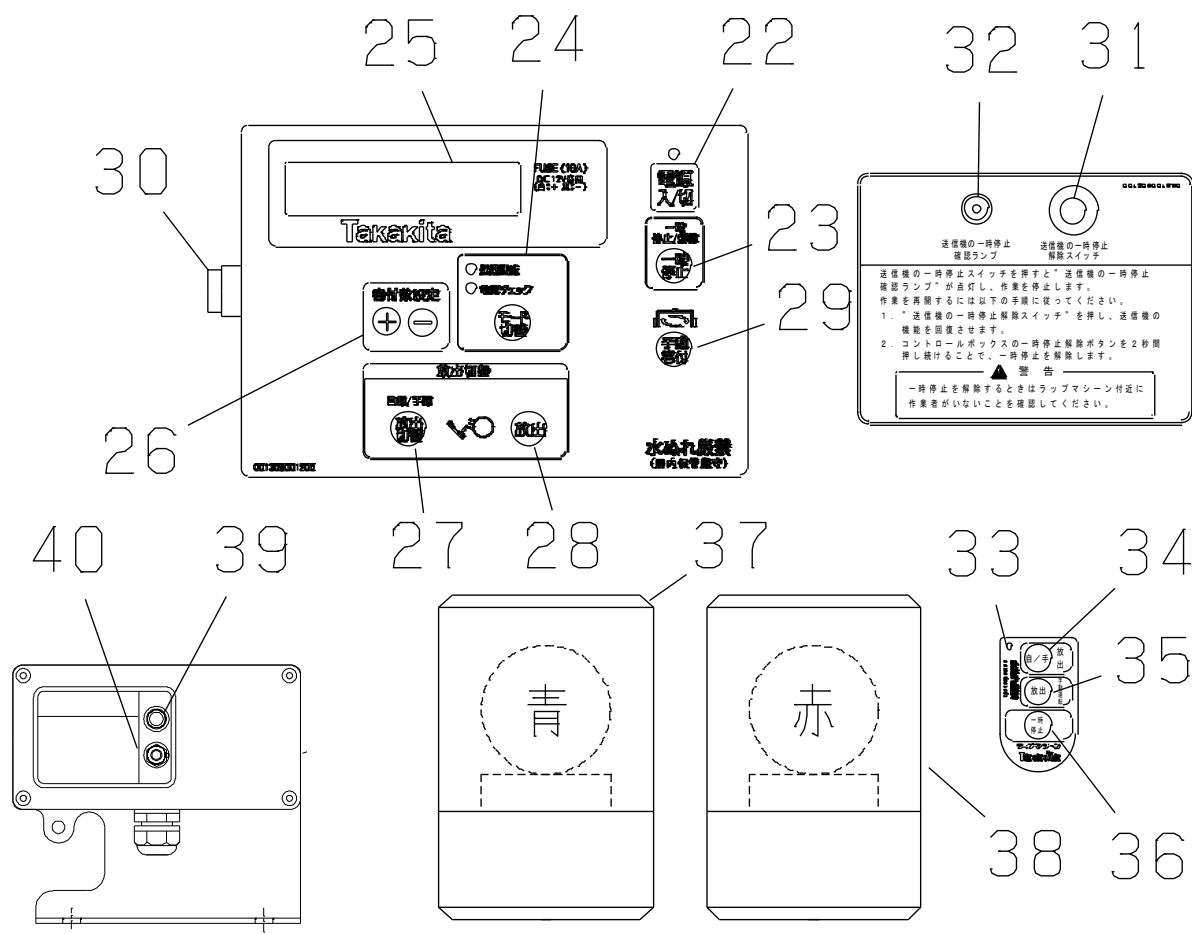
番号	名 称	は た ら き
1	電源コード	バッテリーより電源を取出します。30Aヒューズ付。
2	コントロールボックス1	ロールペーラの作動を制御します。
3	コントロールボックス2	ラップマシーンの作動を制御します。
4	リモコン送信機1	コントロールボックス1を遠隔操作する際に使用します。
5	リモコン送信機2	コントロールボックス2を遠隔操作する際に使用します。
6	リモコン受信機1 (非常停止解除スイッチ)	リモコン送信機1の電波を受信します。非常停止を解除します。
7	リモコン受信機2 (一時停止解除スイッチ)	リモコン送信機2の電波を受信します。一時停止を解除します。
8	フィルムセンサボックス	フィルム切れを検知します。
9	ネット用カバー	ネットを取り付ける際に使用します。

各部の名称とはたらき（コントロールボックス 1）



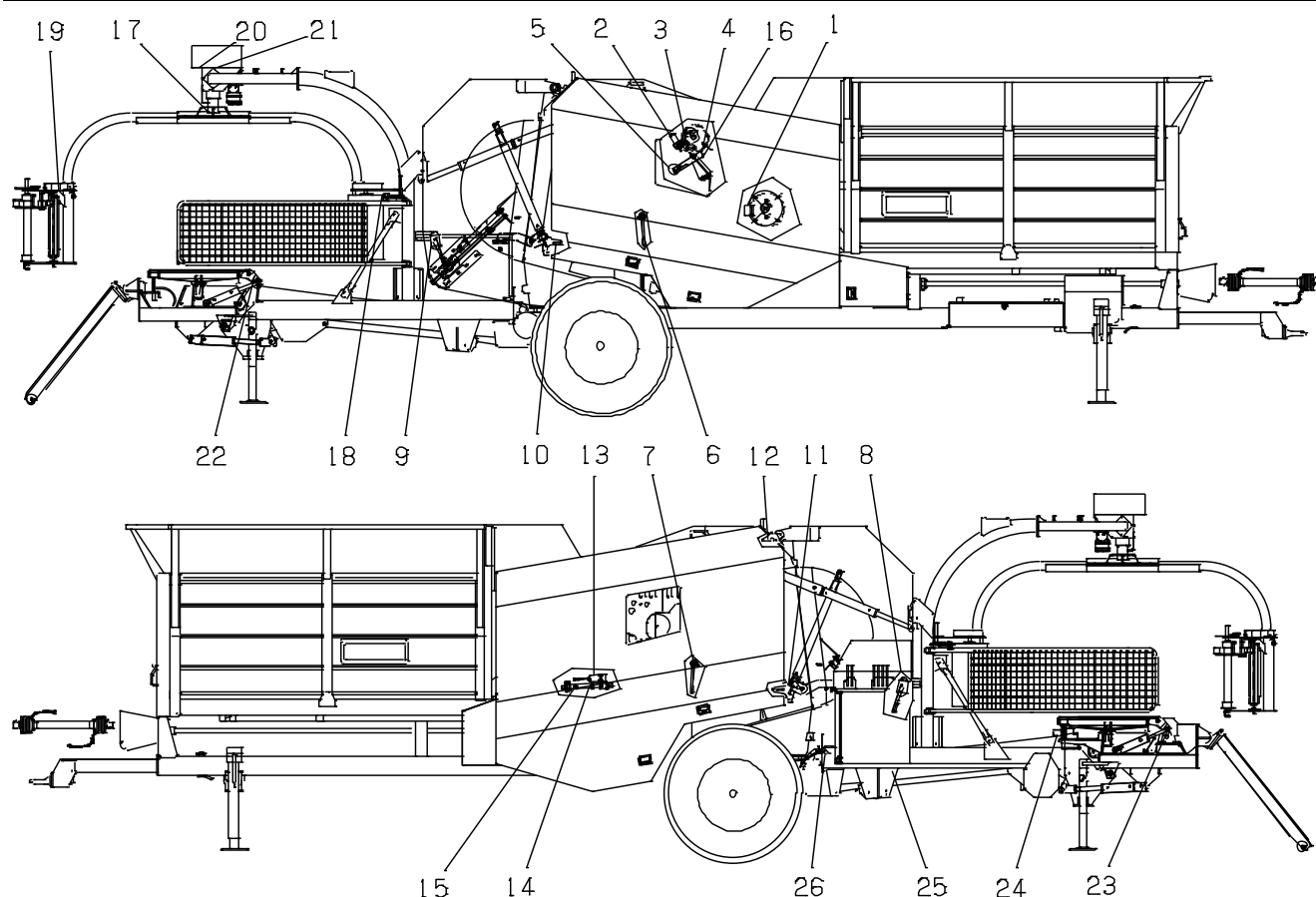
番号	名 称	は た ら き
1	電源ボタン	コントロールボックス 1 の電源を入切します。
2	非常停止ボタン	一度押すと非常停止状態になり、ロールベアラの動作を停止させます。 長押しすることで解除できます。 ランプ点灯：非常停止中
3	表示ボタン	押している間、4 にロール作成個数と PT0 回転数を表示します。
4	液晶画面	作業状態、エラー内容を表示します。
5	供給ボタン	一度押すとロール成形を始め、もう一度押すと中断します。
6	開くボタン・ 閉じるボタン	押している間、リアチャンバーを開閉します。 ランプ点灯：全開または全閉
7	+ボタン・-ボタン	「作業設定」、「メーカー設定」のときに押すと、設定値が増減します。
8	ネット交換サイン	ランプ点灯：ネットが残り少ない
9	注油ボタン	押すと一定の時間タイトチェーンへ注油します。
10	手動繰出ボタン	ネットを強制的に繰出します。
11	モード切替ボタン	押す度にモードを「通常運転」、「そうじ」、「作業設定」、「電気チェック」に切り替えます。 ・通常運転：作業時 ・そうじ：5 秒後にベアラ部に動力を供給 ・作業設定：作業の設定値を確認・変更 ・電気チェック：センサの状態を確認
12	送りボタン・戻りボタン	押している間、コンベアを正・逆転します。
13	ヒューズ	異常に高い電流が流れたとき、コントロールボックスを保護します。 15 A のヒューズが入っています。
14	非常停止解除ボタン	19 で非常停止状態になった時の解除をします。
15	非常停止ランプ	19 を押した時に点灯し、14 を押すと消灯します。
16	送信ランプ	送信機のボタンを押すと点灯します。暗くなると電池交換が必要です。
17	供給開始ボタン	5 供給ボタン(非供給時)と同じです。
18	供給停止ボタン	5 供給ボタン(供給時)と同じです。
19	非常停止ボタン	非常停止状態になり 15 が点灯します。14 を押すと解除されます。
20	パトライト（緑）	ロール成形中に回転（2 供給ランプと同じ）します。
21	パトライト（黄）	ネットを巻いている間回転し、ネットが切断されると停止します。

各部の名称とはたらき（コントロールボックス 2）



番号	名 称	は た ら き
2 2	電源ボタン	コントロールボックス 2 の電源を入切します。
2 3	一時停止ボタン	一度押すと一時停止状態になり、ラップマシーンの動作を停止させます。長押しすることで解除できます。
2 4	モード切替ボタン	押す度にモードを「通常運転」、「電気チェック」に切り替えます。 ・通常運転 : 作業時 ・電気チェック : センサの状態を確認
2 5	液晶画面	作業状態、エラー内容を表示します。
2 6	巻付回数設定ボタン	+ - ボタンで巻付回数を設定できます。
2 7	放出切替ボタン	ロールを放出する時の自動／手動を切り替えることができます。
2 8	放出ボタン	手動放出の時に押すと、ロールベールを放出します。
2 9	手動巻付ボタン	手動でロールベールを搬送した際、ラップの巻付を行います。
3 0	ヒューズ	異常に高い電流が流れたとき、コントロールボックスを保護します。 10 A のヒューズが入っています。
3 1	一時停止解除ボタン	36 を押した時の解除ができます。
3 2	一時停止ランプ	36 を押した時に点灯し、31 を押すと消灯します。
3 3	放出切替ボタン	27 放出切替ボタンと同じです。
3 4	送信ランプ	送信機のボタンを押すと点灯します。暗くなると電池交換が必要です。
3 5	放出ボタン	28 放出ボタンと同じです。
3 6	一時停止ボタン	一時停止状態になり 32 が点灯します。31 を押すと解除されます。
3 7	パトライト（青）	放出切替が手動時に回転します。
3 8	パトライト（赤）	一時停止中に回転します。
3 9	電源ランプ	フィルムセンサボックスの電源が入っているとき、赤く点灯します。
4 0	電源ボタン	フィルムセンサボックスの電源を入切します。

各部の名称とはたらき（センサ）



番号	名 称	は た ら き
1	アジテータ回転センサ	アジテータの回転を見るセンサ
2	電動モータ	カムを回転させ、ネットを繰出すモータ
3	カム1スイッチ	カムの位置を制御するセンサ
4	カム2スイッチ	カムの位置を制御するセンサ
5	ネットカウントセンサ	ネット巻数をカウントするセンサ
6	ネット残量センサ	ネットが残り少なくなった事を見るセンサ
7	ホサキ右センサ	供給中は材料が多いことを検出し、コンベアを止めるセンサ ネット（フィルム）巻中は片巻きを検出します
8	ホサキ左センサ	
9	満了感知センサ R	チャンバー内の材料の満了を見るセンサ
10	満了感知センサ L	
11	チャンバー閉センサ R	チャンバーが閉じている事を見るセンサ
12	チャンバー閉センサ L	
13	チャンバー開センサ	チャンバーが開いている事を見るセンサ
14	電動シリンダ	ベルトのクラッチを制御する電動シリンダ
15	クラッチ入センサ	クラッチが入ったことを見るセンサ
16	クラッチ切センサ	クラッチが切れたことを見るセンサ
17	ラップ切中継センサ	ラップの異常の感知を中継するセンサ
18	ラップ切Rセンサ	ラップの異常を感知し回転を停止させるセンサ
19	ラップ切Lセンサ	
20	回転後センサ	ストレッチアームの回転を見るセンサ
21	回転前センサ	ストレッチアームの定位置を見るセンサ
22	グリップカッタセンサ R	グリップカッタが下がったことを見るセンサ
23	グリップカッタセンサ L	
24	ローラ後センサ	ハンソウローラが後方へ行った事を見るセンサ
25	ロール検出センサ	ロールベールがチャンバーより出た事を見るセンサ
26	ローラ前センサ	ハンソウローラが前方へ行った事を見るセンサ

トラクタへの装着

⚠ 警告

- トラクタへの本機の装着は平坦で安定した場所で行ってください。
 - 二人以上の共同作業では、お互いに声を掛け合うなどして、安全を確かめ合いながら作業してください。
 - ユニバーサルジョイントは、必ずトラクタのエンジンを止め、PTOクラッチを切ってから確実に接続してください。
- 以上のことを守らないと傷害発生の恐れがあります。

1. 装着のしかた

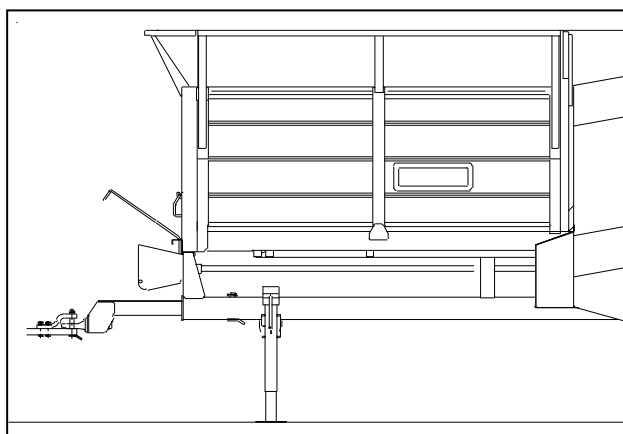
◆ ドローバへの装着

- ① トラクタのドローバを一番短い位置にしてください。
- ② スタンドのハンドルを操作して本機をほぼ水平にしてください。
- ③ トラクタを後進し、本機のヒッチ高さをトラクタのドローバ高さに合わせてください。

メモ

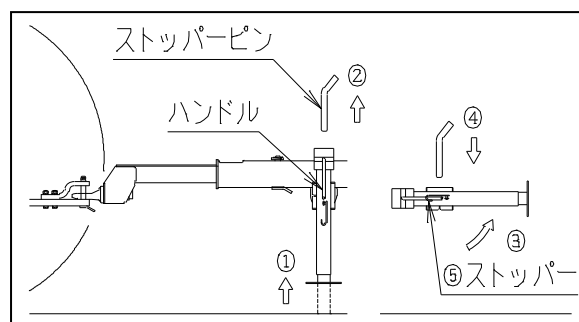
ヒッチを180度回すと20mmの微調整ができます。

- ④ トラクタを後進し、ドローバの穴位置にヒッチ穴を合わせてヒッチピンで確実に装着してください。



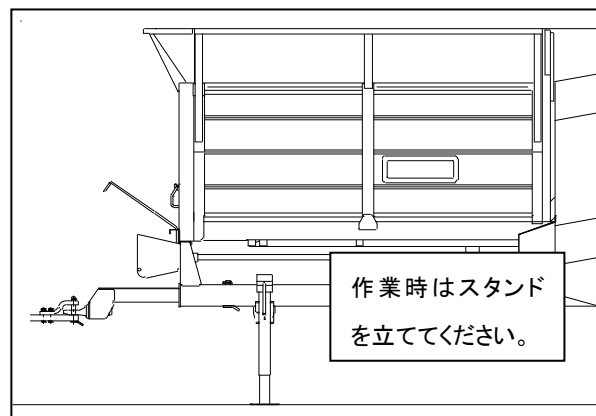
◆ スタンドを上げる（移動時）

スタンドを短く縮めてからスタンドのストッパーピンを抜き取り、スタンド本体を90°（度）回転し真横にし、ストッパーピンを入れロックしてください。
スタンドのハンドルをストッパーにかけて垂下がりを防止してください。



注意

- ・本機は定置作業専用機です。作業は必ずスタンドを立てた状態で行ってください。

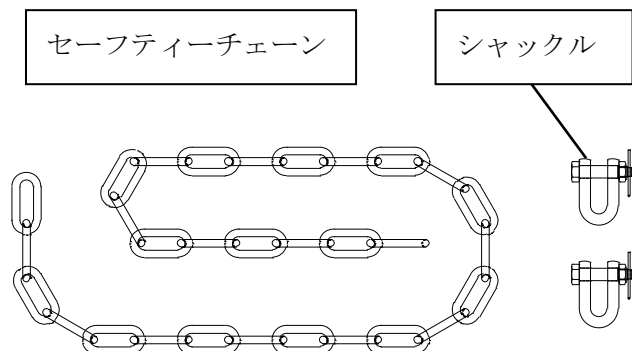


トラクタへの装着

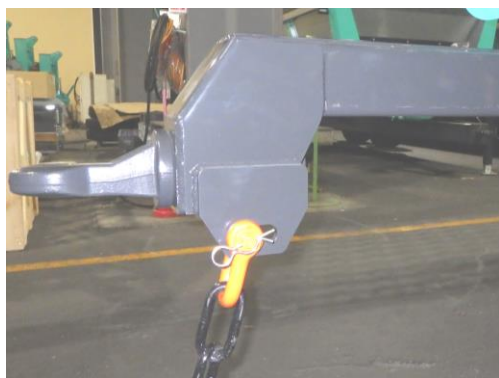
2. セーフティーチェーンの接続

- ◆ 作業機を農耕トラクタでけん引して公道走行する際はセーフティーチェーンでの連結が必要です。

セーフティーチェーン1本とヌケドメピン付きのシャックル2個を付属しています。本機をトラクタでけん引し公道走行する際は、必ずチェーンで作業機とトラクタを連結した状態で走行してください。



- ①セーフティーチェーンの片端をシャックルを使用して本機ケンインヒッチに固定します。



- ②セーフティーチェーンをトラクタのドローバ部に回しかけトラクタから外れないようにします。



注意

シャックル固定後は必ずヌケドメピンを入れ、抜け止めしてください。
旋回時にセーフティーチェーンがドローバ等に引っかからない事を確認して下さい。

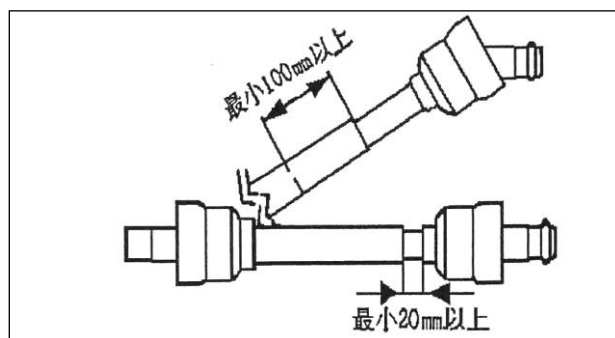
3. ユニバーサルジョイントの取付け

- ◆ユニバーサルジョイントの取付け順序

本機入力軸に取り付けてから、トラクタPTO軸に確実に取付けてください。
ジョイントは専用のものを使用してください。

- ◆ユニバーサルジョイントの長さ確認

ジョイントの長さは本機が旋回するときに変化します。先にジョイント長さが長すぎないかを確認してください。
長すぎる場合は、下図の寸法が確保できるように切断してください。



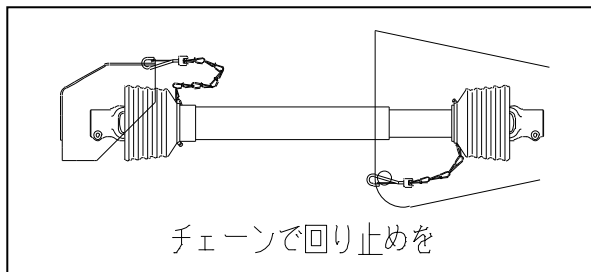
注意

- 作業時のジョイント角度は最大25°（度）を越えないよう調整してください。
25°（度）を超えるとジョイント破損の原因となります。

トラクタへの装着

◆カバー回転止めチェーンで固定を

ユニバーサルジョイントのカバーが回転しないように、チェーンに余裕をつけて、しっかりと固定してください。



◆ 急旋回注意

P T Oを回転させながら急旋回をする
と、ユニバーサルジョイントを破損する
恐れがありますので、急旋回時には
必ずP T Oを切ってください。

4. コントロールボックスの接続

◆電源はトラクタのバッテリーから取出します。

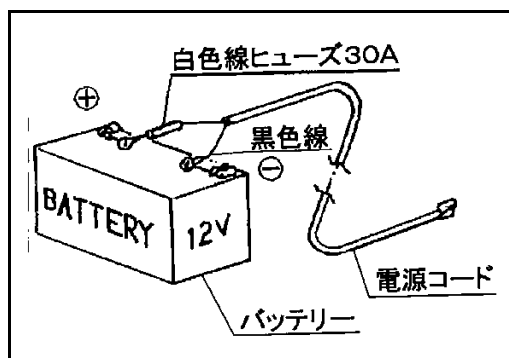
コントロールボックスの電源は、トラクタ
のバッテリーより取出します。トラクタのキ
ースイッチは通さないで下さい。

●接続できるバッテリーの電圧は 12V です。

24Vのバッテリーには接続しないでくだ
さい。間違えて接続すると、コントロールボ
ックス内部の機器が破損します。

●電源コード

(+)、(-) の接続を間違えないように
白色線はバッテリーの (+) へ接続
黒色線はバッテリーの (-) へ接続



注意

- ・ (+) (-) の接続を間違えると、コントロ
ールボックスのパイロットランプは点灯
しません。
- ・ バッテリーの容量不足はコントロールボッ
スの誤動作の原因になります。十分に充電
されたバッテリーを使用してください。

! 警告

接続の順序は、(+) 側から行ってく
ださい。

また、取外すときは、(-) 側から行
ってください。

逆にすると、火花が飛び危険です。

◆配線の接続

電源コードと作業機側コードを接続しま
す。配線が作業の邪魔にならないようにト
ラクタに固定してください。

◆電源ランプの点灯確認

配線の接続が終了したら、スイッチを入れ
電源ランプが点灯していることを確認し
てください。

電源ランプがつかないときは、電源コード
のヒューズが切れていないか、バッテリーの
(+) と (-) が逆になっていないか、コ
ネクタがきちんと差し込まれているかを
確認してください。

◆作業終了後は取外して屋内保管

作業終了後は、電源コードと作業機側コー
ドを切り離して保管してください。

運転に必要な装置の取扱い

1. タイトチェーン注油装置の取扱い

- ◆作業前および作業後に必ず注油してください。

注意

タイトチェーンに注油されない状態で作業すると、動力負荷が急増してチェーンの摩耗が多くなり寿命を低下させますので、無注油状態での使用は絶対に行わないでください。オイルはエンジンオイルSAE 5W-30又は10W-30を使用ください。

- ◆定期的にノズルの清掃を行ってください

注油ノズル部にはゴミが付着することがあり、そのまま使用されると、チェーンへの注油がされていないことがありますので、定期的に左右のノズル先端部に付着したゴミを清掃してください。

警告

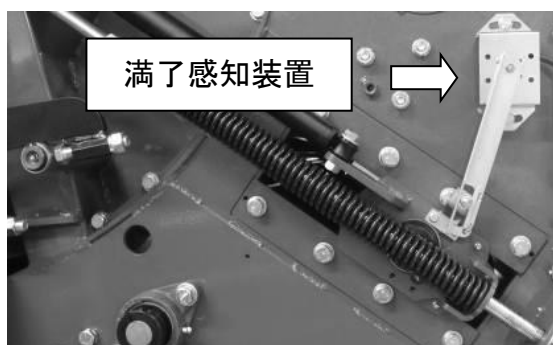
点検・清掃は必ずエンジンを止めてから行ってください。

これを怠ると重大な傷害発生の恐れがあります。

2. 満了感知装置の取扱い

- ◆満了感知装置の装備位置

両側リヤチャンバー下部に装備しています。



- ◆満了感知装置の作用

梱包圧力を感知する装置で、圧力感知と同時にブザーを鳴らし、前コンベアが停止し、ネットが自動繰り出しされます。

注意

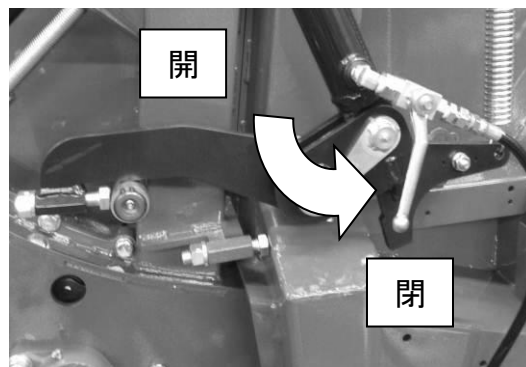
感知装置は出荷時に調整済みですので調整しないでください。

調整すると機械の破損の原因となったり、十分なロール形成ができなくなります。

3. シリンダストップバルブの取扱い

- ◆油圧シリンダをロックし、下降防止をする

点検・整備・清掃などでチャンバーを開けたままで作業するときは、必ず左右シリンダストップバルブのレバーを閉の方向に回してシリンダをロックします。



注意

再びチャンバーの開閉をする時は、必ず左右のバルブを開の方向にしてください。

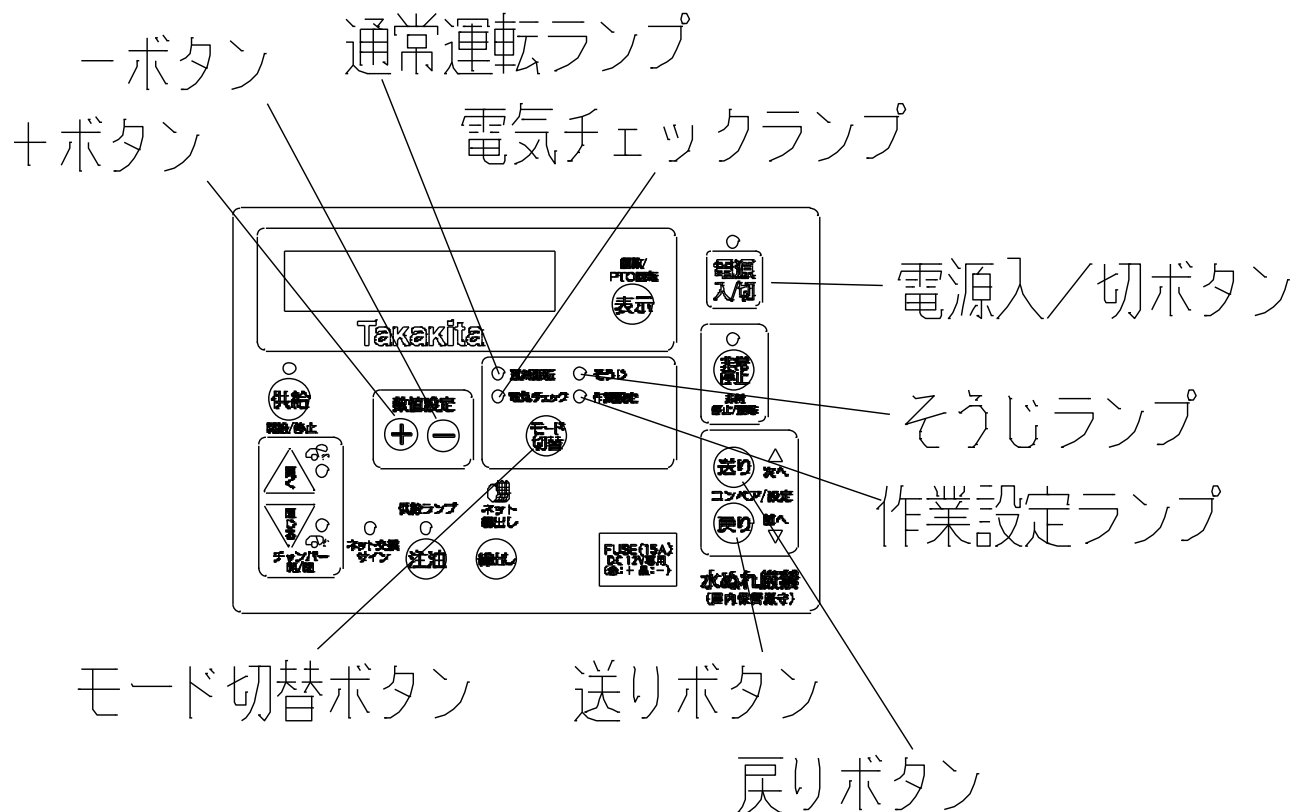
警告

チャンバーを開けた時は必ずストップバルブを閉め、シリンダをロックしてください。

これを怠ると重大な傷害発生の恐れがあります。

運転に必要な装置の取扱い

4. コントロールボックス 1 の取扱い



◆通常運転

作業中は必ず「通常運転ランプ」が点灯している状態にしてください。
通常運転モード以外では満了感知ができません。

◆そうじの使い方

ベルトコンベア・タイトチェーンが回転したまま、チャンバーを開くことができます。
作業後のそうじをするときに、ご利用ください。(簡単な手入れと処置を参照 P. 60)

「モード切替ボタン」を押して「そうじランプ」を点灯させてください。
5秒後に動力を供給します。

そうじが終わったら、「モード切替ボタン」を押して「通常運転ランプ」を点灯させてください。

運転に必要な装置の取扱い

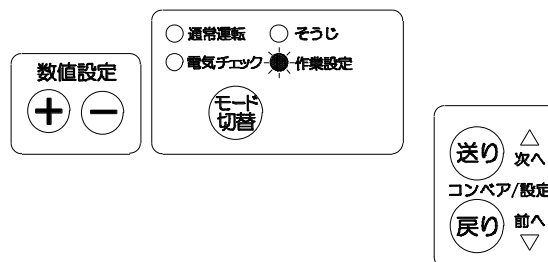
◆作業設定の変更方法

作業設定を変更することができます。

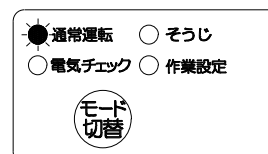
「モード切替ボタン」を押して「作業設定ランプ」を点灯させてください。

以下のボタンで設定変更してください。

- ・「送りボタン」：次の項目を表示
- ・「戻りボタン」：前の項目を表示
- ・「+ボタン」、「-ボタン」：値を変更



設定変更が終わったら、「モード切替ボタン」を押して「通常運転ランプ」を点灯させてください。



No.	表示	初期値（設定範囲）	内容
1	ロールコスウ： ルイセキコスウ：	0 コ (0, 現在のカウント) 変更不可	「-ボタン」を押すとロールコスウを0にすることができます。メンテナンスの目安に利用してください。
2	ネットマキスウ：	4.5 ソウ (0.5～9.9)	ネット巻付け数を設定できます。 ※ネット巻き付け数が少ないとロールが崩れ易くなります。
3	コンベアカンケツ：	ON (ON, OFF)	予め満了を感知する距離に達した際、コンベアを間欠で送る動作のON/OFFを設定
4	カンチキヨリ：	50 mm (10～99)	ロール成形の満了位置を設定
5	シュドウチュウユ：	30 s (0～99)	手動で注油する時間を設定

運転に必要な装置の取扱い

◆電気チェック

各部のセンサの状態を表示することができます。

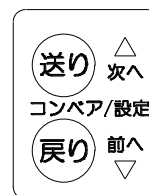
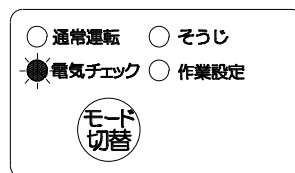
メンテナンスにご利用ください。

「モード切替ボタン」を押して「電気チェックランプ」を点灯させてください。

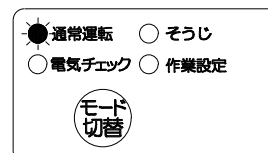
以下のボタンで表示を切替えてください。

「送りボタン」：次の項目を表示

「戻りボタン」：前の項目を表示



チェックが終わったら、「モード切替ボタン」を押して「通常運転ランプ」を点灯させてください。



No.	名称	説明
1	P T Oカイトン デンゲンデンアツ	PTO センサの ON/OFF を表示 電源電圧を表示
2	マンリョウカンチ P T L マンリョウカンチ P T R	左側満了感知ポテンショメータの電圧を表示 右側満了感知ポテンショメータの電圧を表示
3	カム 1 センサ カム 2 センサ	カム 1 センサの ON/OFF を表示 カム 2 センサの ON/OFF を表示
4	カウントセンサ ネットザンリョウセンサ	ネットカウントセンサ ON/OFF を表示 ネット残量センサ ON/OFF を表示
5	チャンバーカイセンサ チャンバーヘイセンサ	チャンバー開センサの ON/OFF を表示 チャンバー開センサの ON/OFF を表示
6	ネットホサキヒダリセンサ ネットホサキミギセンサ	ホサキ左センサの ON/OFF を表示 ホサキ右センサの ON/OFF を表示
7	クラッチイリセンサ クラッチキリセンサ	クラッチ入センサの ON/OFF を表示 クラッチ切センサの ON/OFF を表示
8	コンベアセンサ キョウキュウ R S W	コンベアセンサの ON/OFF を表示 リモコンからの供給信号の ON/OFF を表示
9	キョウキュウテイシ R S W ヒジョウテイシ R S W	リモコンからの放出信号の ON/OFF を表示 リモコンからの非常停止信号の ON/OFF を表示

運転に必要な装置の取扱い

◆メーカー設定

作業の詳細な設定を変更することができます。作業できなくなる可能性がありますので、設定を変更する場合は販売店にお問い合わせください。

「+ボタン」、「-ボタン」を押しながら、「電源入/切ボタン」を押して、コントロールボックスの電源を入れてください。

- ・「送りボタン」／「戻りボタン」：次／前の項目を表示
- ・「+ボタン」、「-ボタン」：値を変更

設定変更が終わったら、「電源入/切ボタン」を押して電源を切り、再度電源を入れなおしてください。

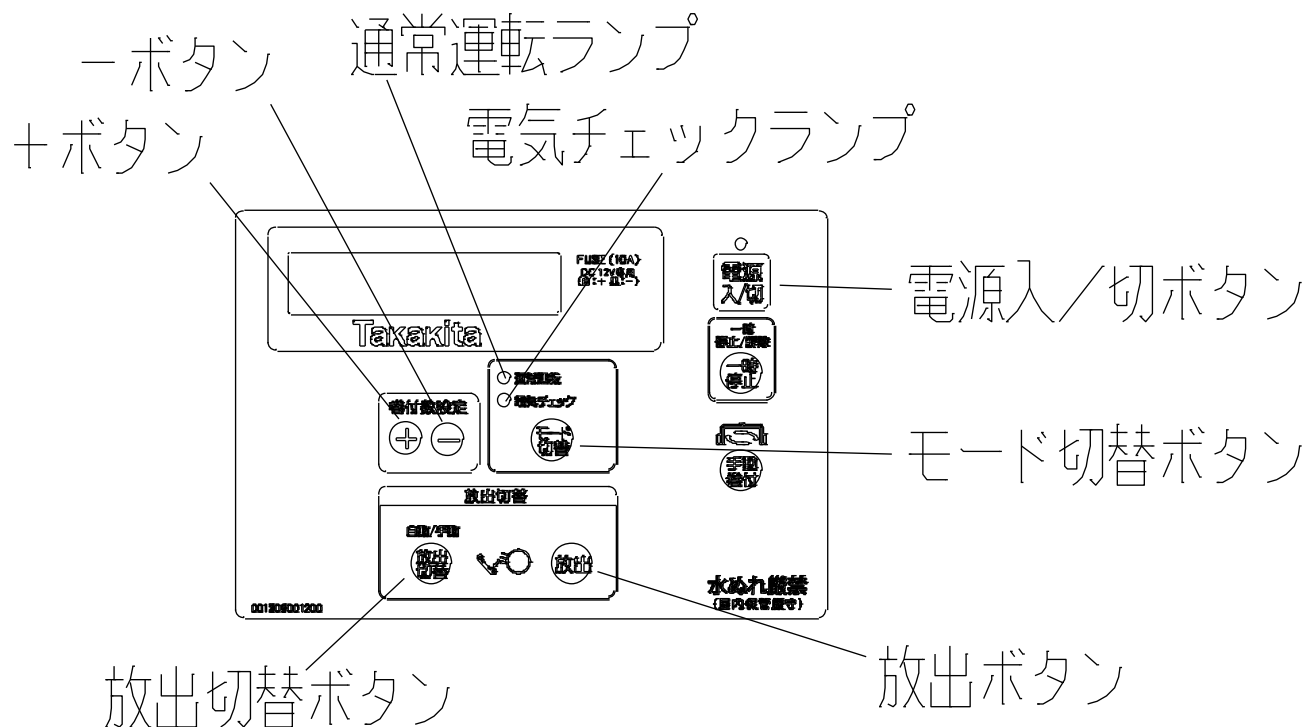
No.	表示	初期値（設定範囲）	内容
1	ロールケイ	1. 200m (0. 000～9. 990)	ロールの直径を設定（ネット）
2	デンアツケイコク	10. 0V (0. 00～15. 00)	電圧降下エラーになる電圧を設定
3	デンアツエラー ジカン	1. 0s (0. 0～9. 9)	設定電圧以下になりエラーになる時間を設定
4	PT ソクテイカンカク	0. 1s (0. 0～9. 9)	満了感知ポテンシオメータの初期位置測定時間を設定
5	PT ソクテイカンカク 2	1. 0s (0. 0～9. 9)	満了感知ポテンシオメータの供給中の電圧測定時間を設定
6	サイテイデンアツ	1. 40V (0. 00～2. 00)	満了感知ポテンシオメータの測定範囲外を設定
7	サイダイデンアツ	3. 40V (3. 00～5. 00)	満了感知ポテンシオメータの測定範囲外を設定
8	サイダイカンチ	0. 5s (0. 1～9. 9)	満了感知ポテンシオメータの測定範囲外電圧を測定する時間を設定
9	PTO センサ	ON (ON, OFF)	PTO センサの有効・無効を設定
10	センサエラージカン	10s (0～99)	各センサがエラーになる時間を設定
11	ジドウチュウユ	0. 0s (0～99. 9)	自動で注油する時間を設定
12	ヨカンチキヨリ	10mm (10～)	予め満了を知らせる位置を設定
13	カンチジカン	0. 3s (0. 0～9. 9)	満了位置を越えて感知するまでの時間を設定
14	マンリョウカンチ ホーン	2. 0s (0. 0～9. 9)	ネット巻き開始ブザーが鳴る時間を設定
15	ホサキセンササユウ	L (L, R, LR)	コンベアを止めるホサキセンサを右、左、両方への切替を設定

運転に必要な装置の取扱い

No.	表示	初期値（設定範囲）	内容
16	ホサキセンサチエン	0.5s (0～9.9)	ホサキセンサの反応時間設定
17	カンケツドウサ	3.0s (0.0～9.9)	予感知後の間欠動作でコンベアの動作時間を設定
18	カンケツテイシ	1.0s (0.0～9.9)	予感知後の間欠動作でコンベアの停止時間を設定
19	クリダシオクリ	0.0s (0.0～9.9)	ネット巻き開始時、コンベアが動作する時間
20	クリダシリョウ	1.0 ソウ (1.0～9.9)	ネットを繰出す量を設定
21	ネットクリダシオクレ	0.5s (0.0～9.9)	供給が停止してからネット繰出しを始めるまでの時間
22	ネットカウント	0.314m (0.000～9.999)	カウントローラの周長を設定
23	カタマキチェック	ON (ON, OFF)	ネットの片巻きチェックの有効・無効を設定
24	ネットケツソクヨブン	0.20m (0.00～9.99)	ネット巻き誤差を設定
25	カンリョウブザー	0.5s (0.0～9.9)	ネット巻き終了ブザーが鳴る時間を設定
26	カウントエラーリミット	5.0s (0.0～9.9)	ネットエラーになる時間を設定
27	クラッチタイミング	ON (ON, OFF)	クラッチを切るタイミングをチャンバーが開く前後に設定します。(ON:後 OFF:前)
28	クラッチテイシジカン	2.0s (0.0～9.9)	チャンバーが開いた後にクラッチを切る時間を設定します。
29	チャンバーカクニン	2.0s (0.0～9.9)	チャンバーが閉まったことを確認する時間を設定
30	バックアップモード	OFF (ON, OFF)	ネットカウントセンサを使用せずに、タイマーでネット巻きを行う。
31	バックアップクリダシ	5s (0～9)	30 のとき、ネットを繰出す時間
32	バックアップケツソク	20s (0～99)	30 のとき、ネットで結束する時間

運転に必要な装置の取扱い

5. コントロールボックス 2 の取扱い



◆通常運転

作業中は必ず「通常運転ランプ」が点灯している状態にしてください。

下記画面表示の時、フィルムの巻数を設定することができます。

セッテイ マキスウ : 20(例)

ホウシュツ : ジドウ(例)

フィルムの巻数設定は、フィルムの重ね数によって異なります。

次を目安に、実際にベールに巻付けて確認してください

- ・重ね数3回(6層巻)→設定値(セッテイ マキスウ): 20

巻数は「+ボタン」、「−ボタン」で増減できます。

運転に必要な装置の取扱い

◆電気チェック

各部のセンサの状態を表示することができます。

メンテナンスにご利用ください。

「モード切替ボタン」を押して「電気チェックランプ」

を点灯させてください。

「放出ボタン」で表示を切替えてください。

チェックが終わったら、「モード切替ボタン」を押して

「通常運転ランプ」を点灯させてください。



No.	名称	説明
1	MR ジョウタイ ロールケンシュツセンサ	コントロールボックス 1 との接続を表示 ロール検出センサの ON/OFF を表示
2	ローラマエセンサ ローラウシロセンサ	ローラ前センサの ON/OFF を表示 ローラ後センサの ON/OFF を表示
3	クラッチイリセンサ クラッチキリセンサ	クラッチ入センサの ON/OFF を表示 クラッチ切センサの ON/OFF を表示
4	カイテンマエセンサ カイテンウシロセンサ	ネットカウントセンサの ON/OFF を表示 ネット残量センサの ON/OFF を表示
5	グリップカッタセンサ ラップフィルムキレセンサ	グリップカッタセンサの ON/OFF を表示 ラップフィルム切れセンサの ON/OFF を表示
6	ダンプOKセンサ ダンプRSW	本製品では使用しません リモコンからの放出信号の ON/OFF を表示
7	ダンプキリカエRSW ヒジョウテイシRSW	リモコンからの放出切替信号の ON/OFF を表示 リモコンからの一時停止信号の ON/OFF を表示

運転に必要な装置の取扱い

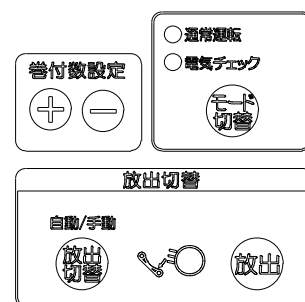
◆メーカー設定

作業の詳細な設定を変更することができます。作業できなくなる可能性がありますので、設定を変更する場合は販売店にお問い合わせください。

「+ボタン」、「-ボタン」を押しながら、「電源入/切ボタン」を押して、コントロールボックスの電源を入れてください。

- ・「放出ボタン」：次の項目を表示
- ・「+ボタン」、「-ボタン」：値を変更

設定変更が終わったら、「電源入/切ボタン」を押して電源を切り、再度電源を入れなおしてください。



No.	表示	初期値（設定範囲）	内容
1	ルイセキコスウ：	0 コ (0～99999)	累積個数を表示。「一時停止ボタン」を3秒間押し続けると、個数を0にすることができます。 ※一度0にすると元に戻せません
2	STRETCH TIME OUT TIME：	9sec (0～9)	ストレッチアーム回転時、回転前センサと回転後センサの検出間隔のタイムアウトを設定します。
3	DUMP HOLD TIME：	10sec (0～99.9)	本製品では使用しません
4	DUMP DOWN TIME：	7sec (0.0～99.9)	ダンプ下げ動作の時間を設定
5	DUMP DOWN HOLD TIME：	1sec (0.0～99.9)	ダンプ下げ動作後、ダンプの動作が止まっている時間を設定
6	DUMP UP TIME：	2sec (0.0～99.9)	ダンプ上げ動作の時間を設定
7	GRIPCUT DOWN COUNT：	30 (0～99)	グリップカッタ圧抜き後に再度カッタを上げる回数を設定
8	GRIPCUT UP TIME：	2sec (0.0～99.9)	フィルムをつかむ際にグリップカッタを上げる時間を設定
9	FILMCHECK START TIME：	1 (0～99)	フィルム切れを検出する回転回数を設定
10	FILMCHECK COUNT TIME：	1 (0～99)	フィルム切れを検出する間隔を設定
11	フィルムギレ テイソクモード：	ON (ON, OFF)	フィルム切れが発生した際、以下の動作を設定 ・高速回転から低速回転に切り替えて低位置で停止 (ON) ・すぐに停止 (OFF)

運転に必要な装置の取扱い

6. 使用できるネット

- ネットの種類によりトラブルがでることがありますので、必ず指定ネットを使用してください。

ネット（別売品）は当社で準備しております。

- ネットの幅寸法

ネットの幅寸法を確認してください。
下記のネットしか使用できません。

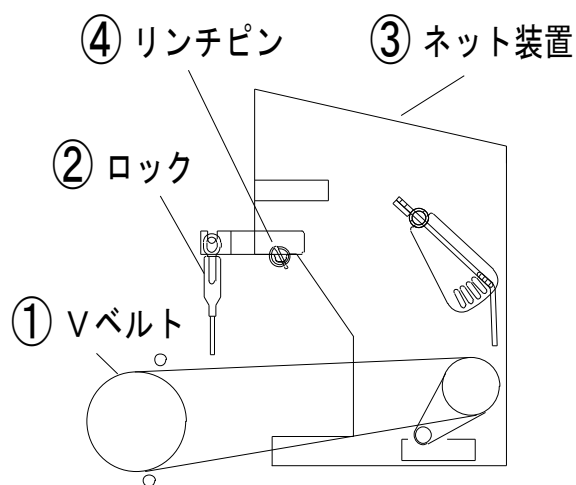
1. 2.3m幅ネット（タカキタ指定のみ）

タカキタ指定ネットは、ネットの芯がネットブレーキ装置に適した硬い紙筒を使用しています。

7. ネット装置の取扱い

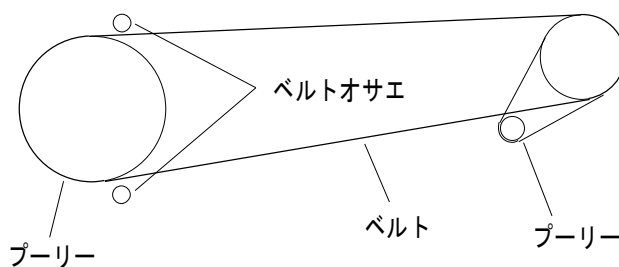
◆ネット装置の引き出し方法

1. ①Vベルトをはずしてください。
2. ②ロックをはずしてください。
3. ③ネット装置を手前に引き出してください。
4. ネット装置を戻す場合は、逆の手順で戻してください。
ネット装置を向こう側に引出す場合は、④リンチピンを外し、向こう側から引出してください。



◆ベルトの取付け方

ベルトの取付け方は下図のように行ってください。



運転に必要な装置の取扱い

8. ネットの通し方

使用可能なネットは1.23m幅です。

1. 本機左側のカバーを開けてください。
2. ①リンチピンを外して、ブレーキを解除してください。
3. フックを②方向に持ち上げ、アームを③方向に引き出し、④ドラムを矢印の方向（手前）に抜き出してください。
4. アームに⑤カラーを入れてください。
5. アームに⑥ネットを巻き方向に注意し図1のように差し込んでください。
6. アームにドラムを⑦ 右に回しながら押し込んでください。
7. ネットを図2のように⑧1m程度引き出してください。
8. 図2のようにネットブレーキレバーを⑨ 解除方向へ押しながら、⑩アームを戻し、フックで固定してください。
9. ネットを束にして図3のように通してください。
10. 繰出しローラを回してネットのたるみを無くしてください。
11. 繰出しローラから⑪20cm程度ネットが出る状態になっていることを確認してください。

⚠ 注意

- ・ネットを通す場合は、切断用のナイフがローラの後にありますので手を切らないように特に注意してください。
- ・ネットの種類によりトラブルが出ることがありますので必ずタカキタ指定のネットを使用してください。

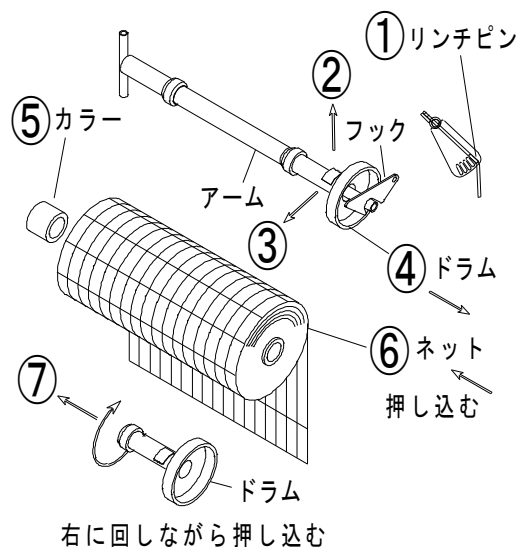


図1

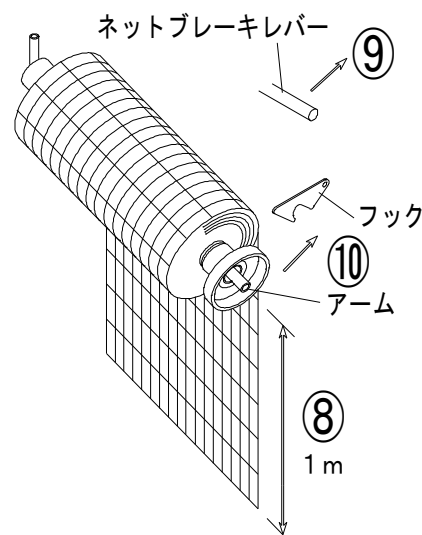


図2

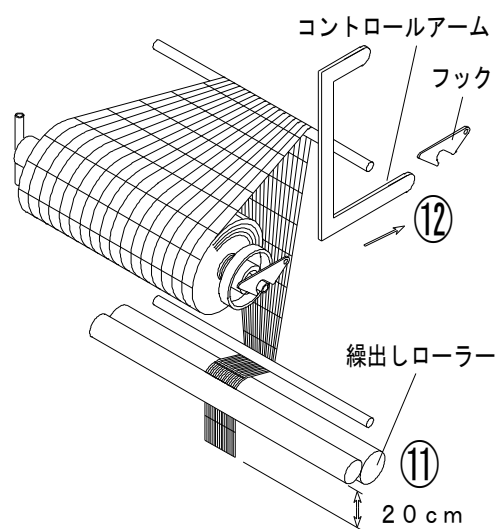
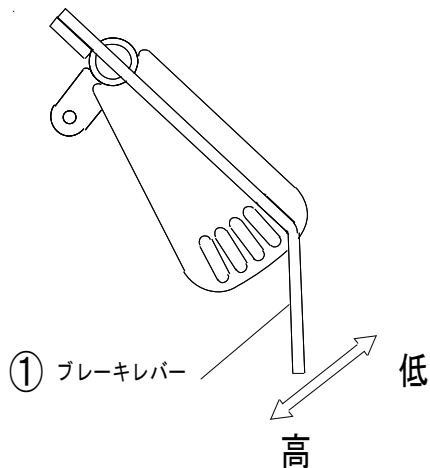


図3

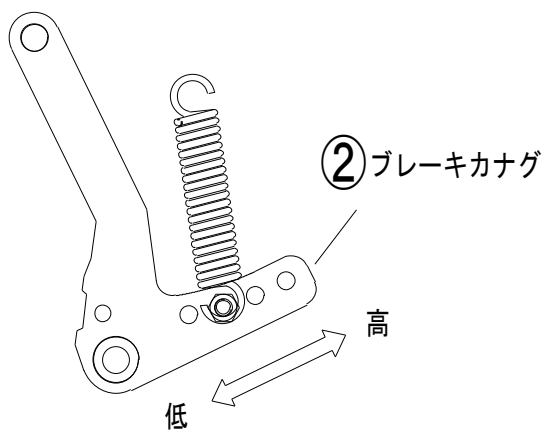
運転に必要な装置の取扱い

9. ブレーキの調整方法

- ①ブレーキレバーでネット張力を調整してください。
 - ・ネットが切れる場合、低位置に設定してください。
 - ・ネット結束が弱い場合、高位置に設定してください。



- ブレーキレバーで調整しきれない場合、②ブレーキカナグのバネの位置を変更してください。



10. ネット装置の作業前点検

◆ブレーキドラムが錆びているときは、ブレーキレバーを低い位置で始めてください。その後、錆が落ちてからブレーキレバーを適正な位置に移動してください。

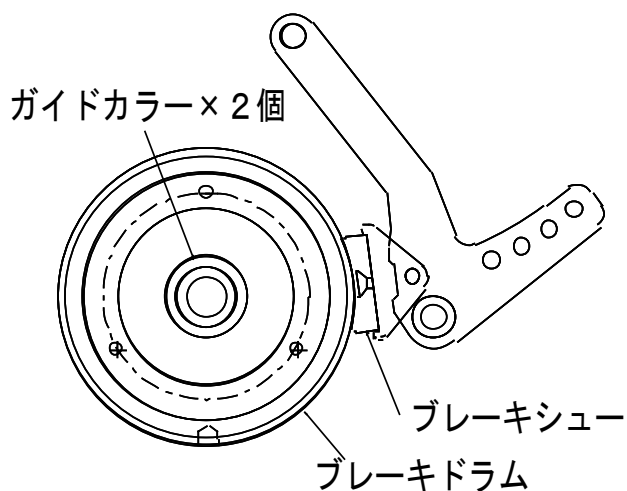
◆ブレーキシューの面にゴミが付着していると適正なネット結束ができなくなります。

ネットを交換するとき、必ずゴミが付着していないか確認してください。

また、ブレーキシューは消耗部品です。ブレーキシューが減るとネット結束不足が起こります。前項の「ブレーキ調整方法」でブレーキ調整しても調整しきれなくなった場合、ブレーキシューを交換してください。

◆ガイドカラーは消耗品です。

ガイドカラーの内径が削れるとネット結束不足が起こります。前項の「ブレーキ調整方法」でブレーキ調整しても調整しきれなくなった場合、カラーを交換してください。



運転に必要な装置の取扱い

- ◆ゴムローラと鉄ローラにゴミが付着すると、ネット繰出し時そのローラに巻き付きます。

付着しているゴミはードライバーなどで削り落としてください。

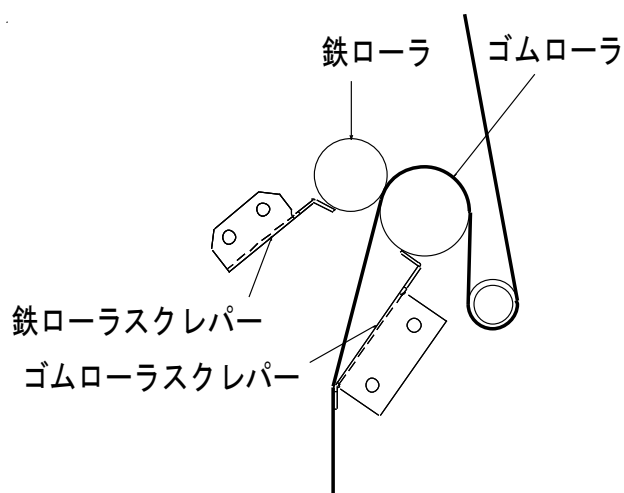
※ゴムローラに傷が付き、巻き付きの原因になるので、カッターナイフは使用しないでください。

- ◆朝露や材料の水蒸気でそのローラが濡れている場合

濡れタオルで粘り気を取った後、乾いたタオルで、拭いてください。

- ◆ゴムローラスクレパー上に材料が付着するとネット繰出し時ローラに巻き付きます。

材料が付着している場合、濡れタオルで材料を取った後、乾いたタオルで、拭いてください。

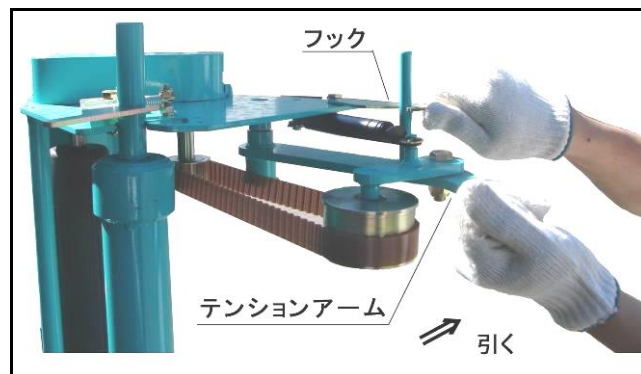


1 1. 使用時にこれだけは守りましょう

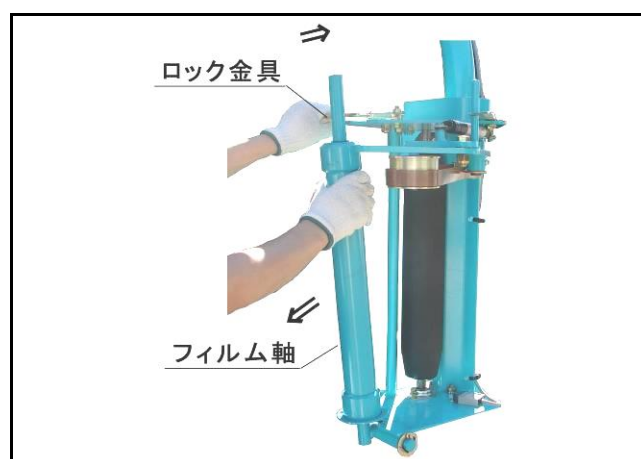
- ・ナイフの刃こぼれがある場合は、研磨するか交換してください。
 - ・ネットは紙筒を使用している為、水濡れ厳禁です。
- また、屋外保管の場所は、ネットを取り外し屋内で保管してください。

1 2. フィルムをセットする。

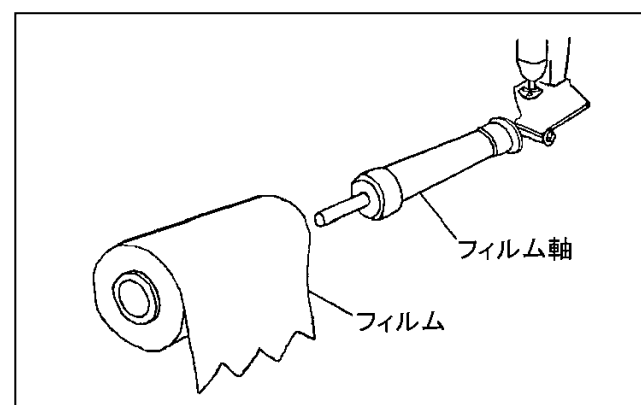
- ①テンションアームを引き、フックをかけて固定する。



- ②フィルム軸のロック金具を開いて、フィルム軸を手前に倒す。



- ③フィルム軸にフィルムを差し込む。

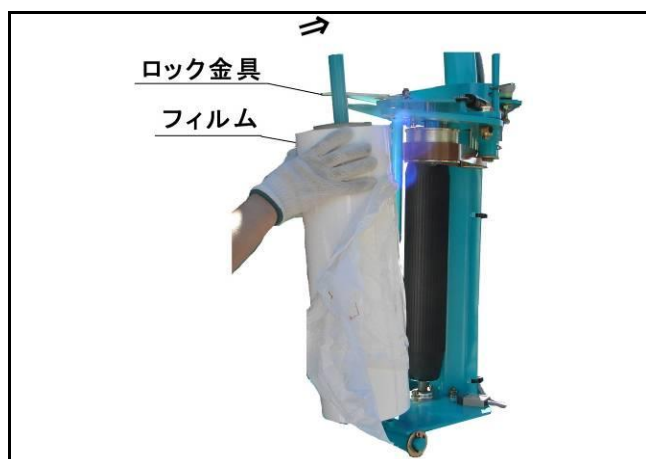


注意

フィルムの巻き方向は、必ず絵の向きに差し込んでください。

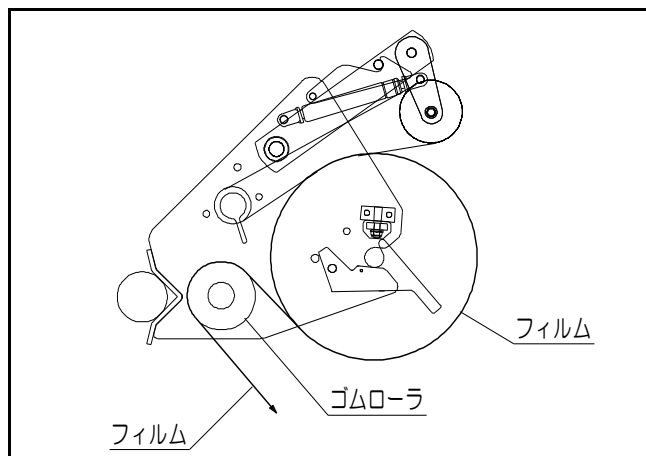
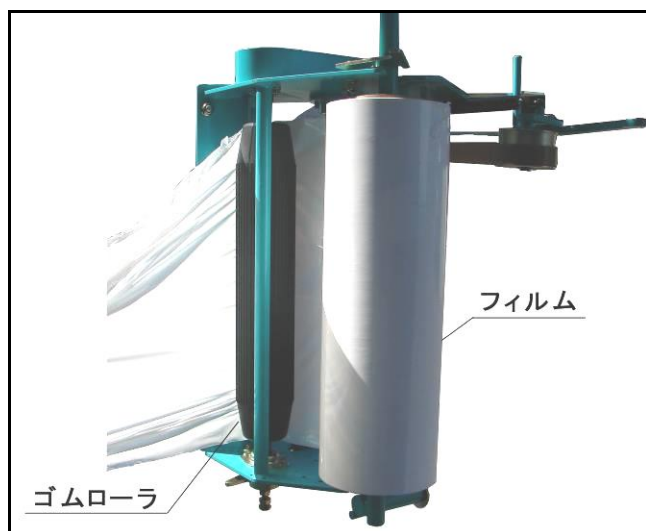
運転に必要な装置の取扱い

④フィルムを起こしてロックをかける。



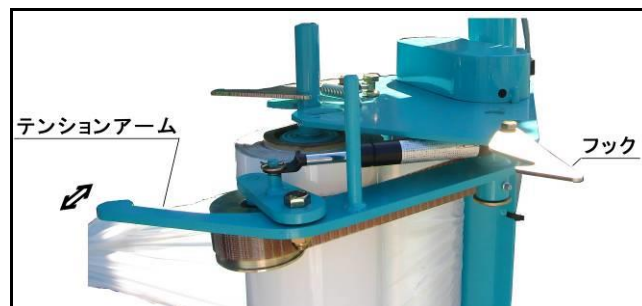
●勢いよく起こすと、自動的にロックがかかります。

⑤フィルムをゴムローラに通してください。



●上図のようにフィルムをゴムローラに通してください。(上から見た状態です)

⑥テンションアームを引き、フックを外してベルトをフィルムに当てる。



テンションアームを一度引いてフックを外し、テンションアームをフィルム側に寄せ、ベルトをフィルムに当てる。

注意

フィルムの取扱いには十分注意してください。特に端部に傷がつくと、ラッピング中に切断します。

⚠ 注意

フィルムを本機にセットするときは、必ずラップ部が一時停止状態（パトライト赤が点灯）または、ロールベアラ部が停止していることを確認してから行ってください。

注意

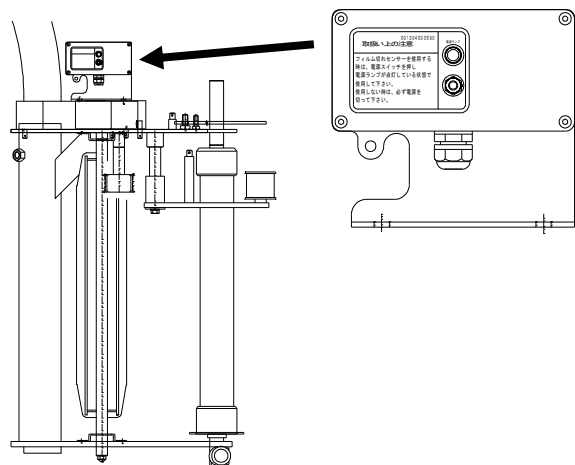
タカキタ指定のフィルムを使用してください。フィルムの種類によりトラブルがでることがあります。

運転に必要な装置の取扱い

13. フィルムセンサボックスの取扱い

◆ラップ切センサの使用

作業前にストレッチブラケットに取付けてある、フィルムセンサボックスの電源を入れます。



注意

電源を入れないと、フィルム切れ自動停止が働きません

！ 警告

フィルムセンサボックスの電源を入切する際は、必ずトラクタのエンジンを止めた状態で行ってください。

作業終了後はフィルムセンサボックスの電源を切ってください。

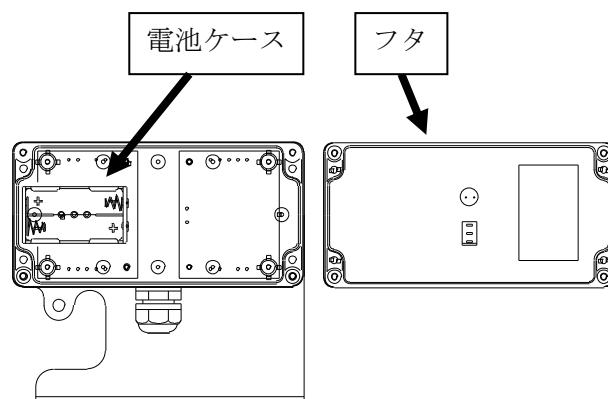
注意

フィルムセンサボックスの電源を切らないと、ボックス内の電池が消耗しますので必ず使わないときは電源を切るようにしてください。

◆電池の交換

フィルムセンサボックスの電源ランプが暗くなると、電池の交換が必要となります。

フィルムセンサボックスのフタを外し、ボックス内にある電池ケースの単三電池を交換してください。

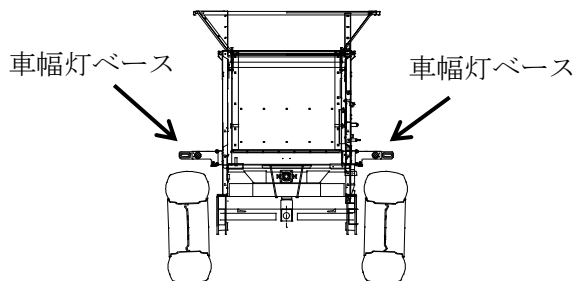


電池はアルカリ単三電池2本を使用してください

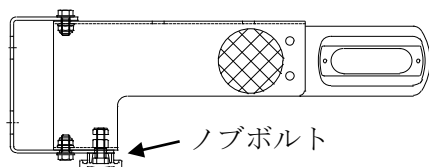
運転に必要な装置の取扱い

14. 車幅灯ベースの取扱い

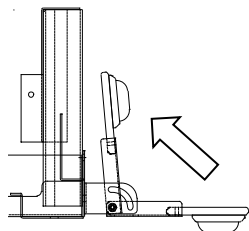
作業機前方に装備されている車幅灯ベースは可動式になっています。
作業される時は下記に従ってベースを収納した状態で作業してください。



- ①ベース下部のノブボルトを緩め、ベースが動く状態にします。



- ②ベースを下図位置に動かしノブボルトを締めます。



注意

公道走行する際はベースを開いた状態にして走行してください。

15. パトライトの取扱い

パトライトはラップマシーン側のガード部に固定されています。

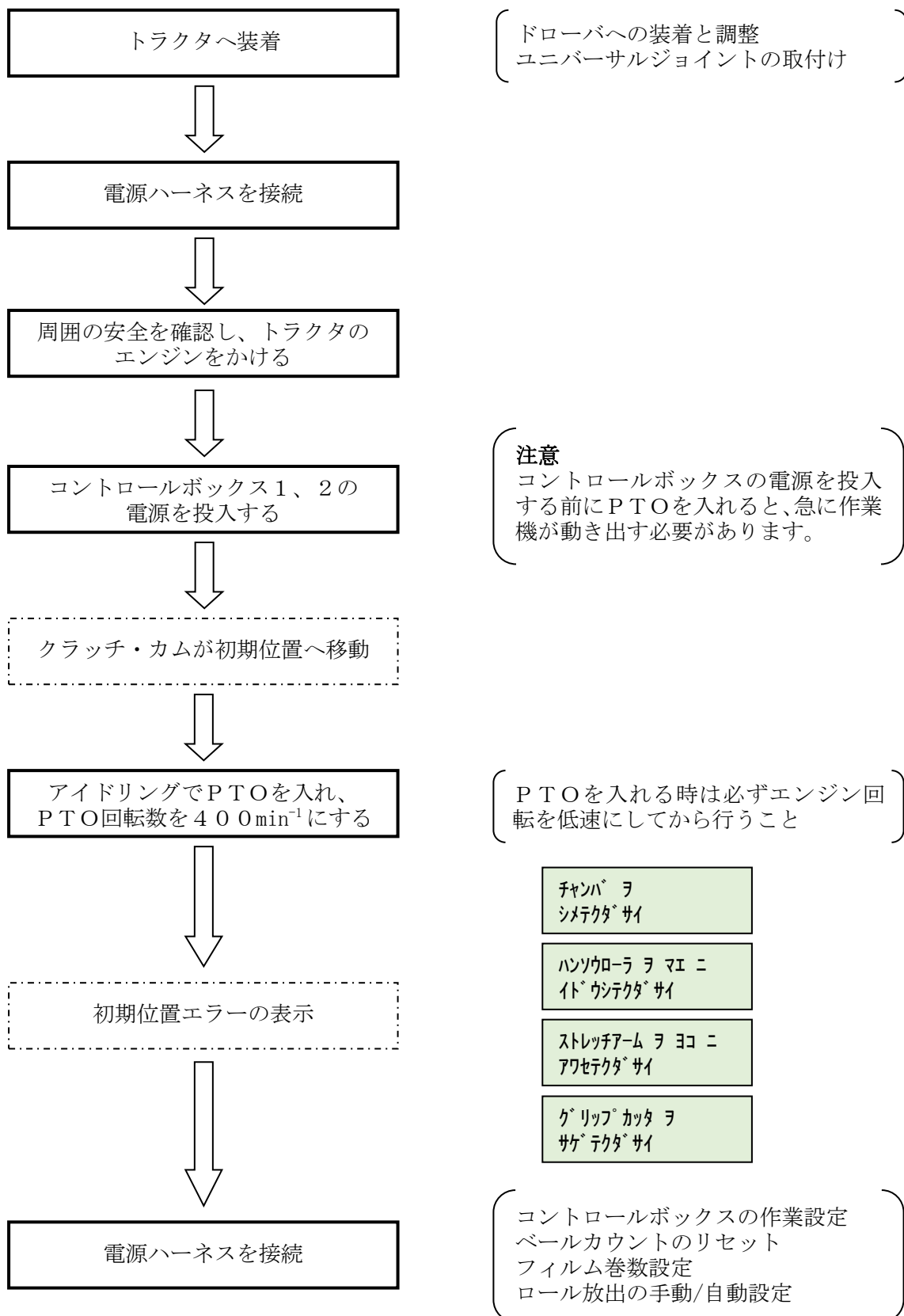
注意

作業機にパトライトを取付けた状態で公道走行することは禁止されています。
パトライトのコネクタとノブボルトを取外し、パトライトベースごと作業機から外し、トラクタに収納してから公道走行してください。

作業方法

1. 作業前準備の流れ

- ネット、フィルムをセットする
- 注油タンクにオイルを補充する
- 各部に注油・グリスアップを行う



作業方法

2. 作業の流れ

コントロールボックス 1	パトライト	
マクス:4.5	緑	黄
かち:50	消灯	消灯
コントロールボックス 2	パトライト	
セッテイ マクス:20	赤	青
ホウシュツ :ジドウ	消灯	消灯

待機状態の画面表示・パトライト
※ラップマシーンの手動放出が ON の場合、パトライト青は常に点灯します



コントロールボックス 1 または
リモコン 1 の「供給ボタン」を押す

リモコン 1 の「供給ボタン」が反応しない場合、受信機 1 の非常停止ランプが点灯している可能性があります。
非常停止解除スイッチを押してください



クラッチが入り、収穫物が成形室に
送り込まれる



ロールベアラ
作業戻り



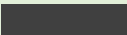
コントロールボックス 1	パトライト	
0mm マンリョウゲージ	緑	黄
50mm	点灯	消灯



コントロールボックス 1	パトライト	
40mm マンリョウゲージ	緑	黄
50mm 	点灯	消灯

成形室が満了近くになるとブザーが
断続音（ピー・ピー・ピー）で鳴ります



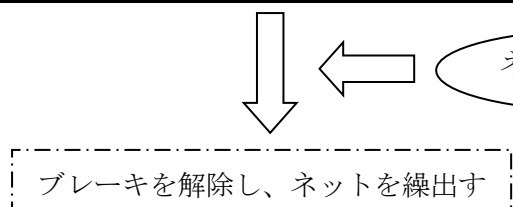
コントロールボックス 1	パトライト	
50mm マンリョウゲージ	緑	黄
50mm 	点灯	消灯

成形室が満了になるとブザーとホーンが
連続音（ピーー）で鳴ります

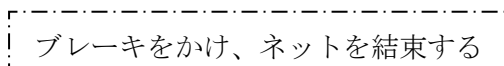


次ページへ

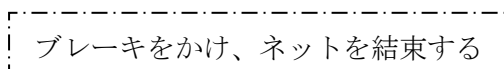
作業方法



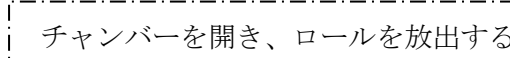
コントロールボックス 1	パトライト
0.5 ヲ ネットクダシ	緑 黄
4.5 ヲ チュ	消灯 点灯



コントロールボックス 1	パトライト
1.5 ヲ ネットケツク	緑 黄
4.5 ヲ チュ	消灯 点灯



コントロールボックス 1	パトライト
ネットセツダンチュウ	緑 黄
	消灯 点灯



コントロールボックス 1	パトライト
チャンバ ーヲヒキマス	緑 黄
コウ: 123456 コ	消灯 消灯
コントロールボックス 2	パトライト
チャンバ ヒキ	赤 青
	消灯 消灯

次ページへ

ネット繰り出し

※ネットエラーが発生した場合

コントロールボックス 1	パトライト
ネットコウカンシ、ネットクダシ	緑 黄
シスイッチヲシテクダシ	消灯 点滅

または

コントロールボックス 1	パトライト
ネットガ カマキニツテイマス	緑 黄
ローラヲジ シテクダシ	消灯 点滅

- ・ ネットが無くなった
⇒ ネットを交換
- ・ ローラに巻き付いた
⇒ 巻き付きを解く
- ・ ネットがちぎれた
⇒ ブレーキを低位置に

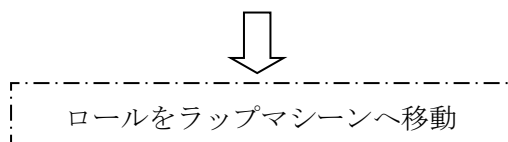
コントロールボックス 1 の
「繰り出しボタン」を押す

コントロールボックス 1	パトライト
ネットクダシスイッチ	緑 黄
ガオサレマシタ	消灯 点灯

ネット繰り出し

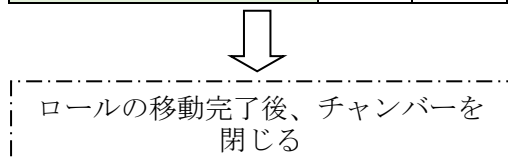
ラップマシーン
作業戻り

作業方法



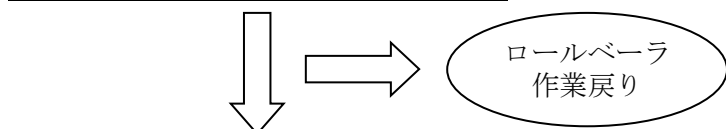
↓

コントロールボックス2	パトライト	
ロールドゥ	赤	青
	消灯	消灯



↓

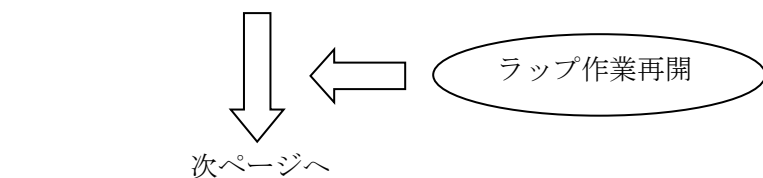
コントロールボックス1	パトライト	
チャンバーラシメマス	緑	黄
	消灯	消灯
コントロールボックス2	パトライト	
チャンパトジ	赤	青
	消灯	消灯



コントロールボックス2	パトライト	
ラップガイ	赤	青
	消灯	消灯

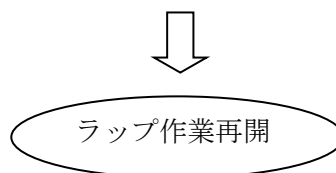
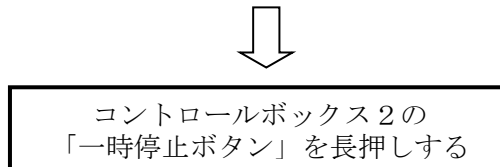
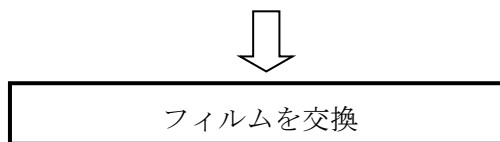
↓

コントロールボックス2	パトライト	
セッテイ マキスウ: 20 カイ ゲンサ イマキスウ: 0 カイ	赤	青
	消灯	消灯

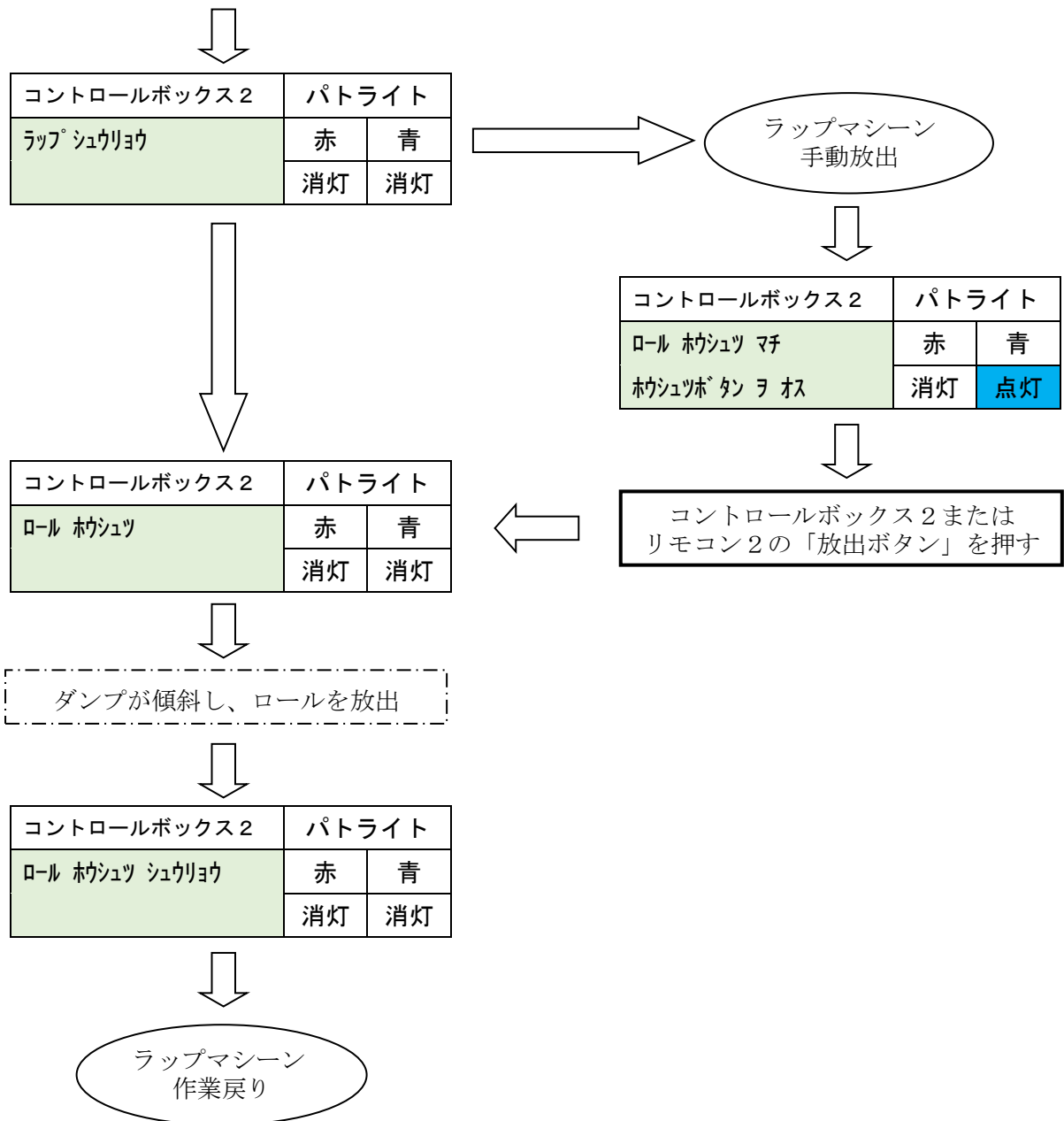


※フィルムエラーが発生した場合

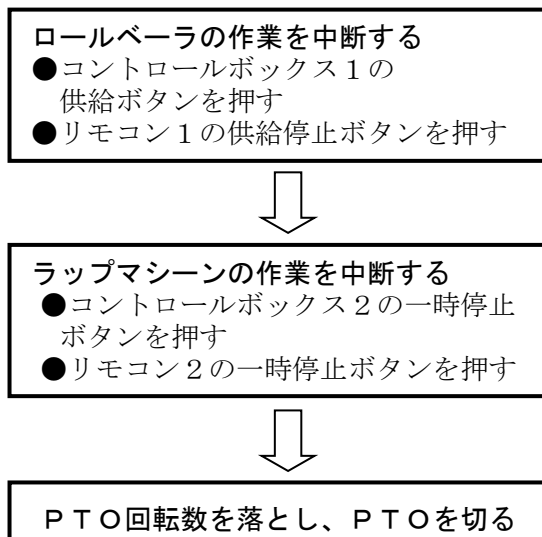
コントロールボックス2	パトライト	
ラップ エラー フィルム ヲ コウカン	赤	青
	点灯	消灯



作業方法



3. 作業を中断する場合



急な供給停止はチャンバー内に材料が残るので、ネットを巻き終わりロール放出を行った後、供給停止を行ってください。

注意

緊急で止める必要がある場合はコントロールボックス1の非常停止ボタンまたはリモコン1の非常停止ボタンを押してください。

作業前の点検について

作業の安全確保と、故障を未然に防ぐには、機械の状態をよく知っておくことが大切です。
作業前の点検は、欠かさず行ってください。



警告

- 取外したカバー類は必ず取付けてください。衣服が巻き込まれたりして危険です。
- 点検・整備をするときはP T Oを切り、エンジンを停止させて回転が止まってから行ってください。

点検一覧表

No.	項 目	内 容	参照ページ	チェック
1	コントロールボックス電源	電源ランプ点灯確認	2 6 2 7 3 3 3 8	
2	電装ハーネス	断線およびカップラのチェック	—	
3	タイトバーのゆるみ	ゆるんでいるときは締める	5 8	
4	タイトチェーン給油（オイルタンク）	エンジンオイルを入れ、アイドルリング	3 2 5 6	
5	コントロールボックスの動作確認		3 3 3 8	
6	伝動チェーンのゆるみ	たわみ量調整	—	
7	タイヤホイールのハブナットのゆるみ	ゆるんでいるときは締める	—	
8	タイヤの空気圧	空気圧不足のときは空気補充	5 4	
9	油圧タンク給油	油圧オイル補充	5 9	
1 0	ローラベルトに傷はないか	傷があれば新品と交換	—	
1 1	テーブルローラ関係への巻付き	巻付きの除去する	—	
1 2	ネット・フィルム切断ナイフ	破損しているときは新品と交換	—	
1 3	ゴムロールへのゴミ・ノリの付着	灯油で取り除く	5 7	
1 4	油圧ホース等のオイル漏れ	漏部の増締めし再チェック	—	
1 5	予備シェアボルト	不足のとき補充	5 5	
1 6	その他各部注油・グリス		6 7	
1 7	各部のボルト・ナット	ゆるんでいるときは締める	—	

点 検 メ モ

簡単な手入れと処置

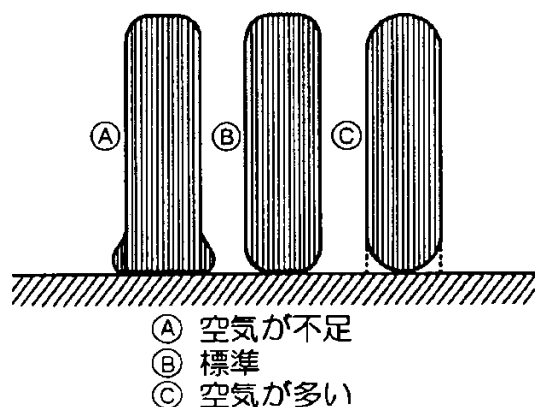
1. タイヤの空気圧の調節及び摩耗、損傷

- ◆作業前にはタイヤの空気圧を確認してください

！ 警告

- タイヤの空気圧は取扱説明書に記載している規定圧力を必ず守ってください。
空気の入れ過ぎは、タイヤ破損の恐れがあり死傷事故を引き起こす原因になります。
- タイヤに傷があり、その傷がコード（糸）に達している場合は、使用しないでください。
タイヤ破損の恐れがあります。
- タイヤ・チューブ・ホイールなどに関する交換・修理などは、十分な整備施設をもち、特別教育を受けた人がいるタイヤショップ等の専門店で依頼してください。

外観からタイヤの空気圧を判断する目安は次のとおりです。



◆タイヤのサイズと規定空気圧

本体タイヤ	タイヤサイズ（チューブ入）
	16.0/70-20 12PR
	空気圧 300 kPa（3.0 kg/cm ² ）

2. ヒューズの交換

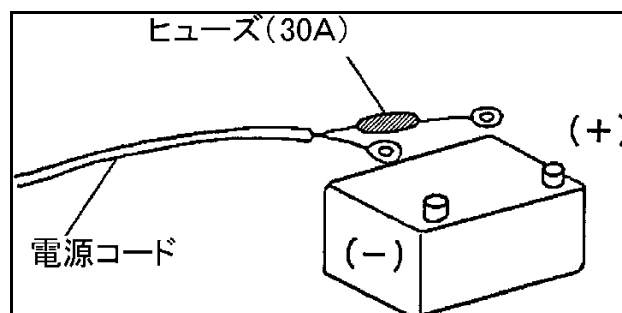
電源が入らない場合は、ヒューズが切れている可能性があります。点検し、切れていれば交換してください。

●コントロールボックスのヒューズ

コントロールボックス1 15 A 1ケ

コントロールボックス2 10 A 1ケ

●電源コードのヒューズ 30 A 1ケ

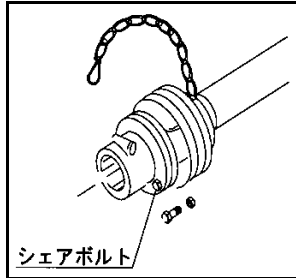


簡単な手入れと処置

3. シェアボルトの交換

◆ ユニバーサルジョイント

ロールベアラ部に過負荷がかかったときにユニバーサルジョイント部のボルトが切断され、本体の損傷を防止します。



● シェアボルトのサイズ

ボルト M8×45 (8.8T)

ナット M8ナイロンナット

● シェアボルトが切断されたら

過負荷になっている原因を取り除いてください。

● ボルトが切断されたら交換してください

切断されたボルトを除去して、ボルト穴を合わせてからシェアボルトとユルミドメナットを確実に締付けてください。

◆ ラップベルトローラ

ベルトローラ (後)、駆動ギヤに過負荷がかかったときボルトがせん断され、本機の損傷を防止します。

● シェアボルトのサイズ

ボルトM8 x 35 (8.8T) 半ネジ

M8ナイロンナット

(カバーの中に予備が4セット入っています)

● シェアボルトの交換

①カバーを外す

②せん断させたボルトを除去する

③コントロールバルブレバーでストレッチアームを回すことで駆動ギヤを回し、ボルト穴が通る位置にしてください。

④外側からボルトを入れ、ナイロンナットで締付けしてください。

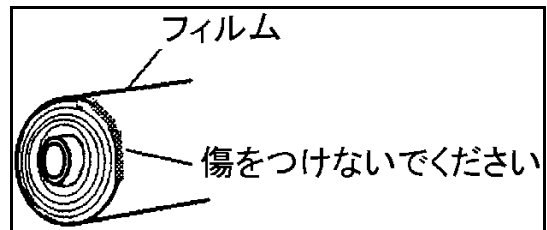
⑤カバーを取付けしてください。

4. フィルムの取扱いについて

● フィルムの表面に傷をつけないようにしてください。

特に端面は傷がつきやすく、傷がつくとラッピング中に切れますので、注意して取扱いしてください。

● 使用後は必ず取外し、乾燥した屋内で保管してください。



注意

フィルムは雨にぬらさないでください。

雨にぬれると紙筒が変形し、抜き取れなくなります。

タカキタ指定のフィルムを使用してください。フィルムの種類によりトラブルがでることがあります。

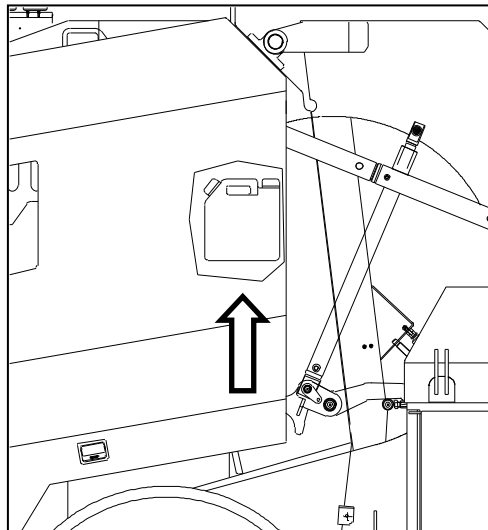
簡単な手入れと処置

5. チェーンの注油

作業前には必ず以下の手順に従って各部チェーンに注油してください。

①オイルタンクに4ℓ程オイルを入れてください。

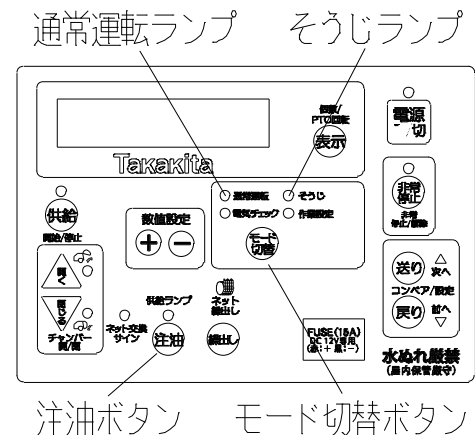
オイルはエンジンオイルSAE 5W-30又は10W-30を使用ください。



注意

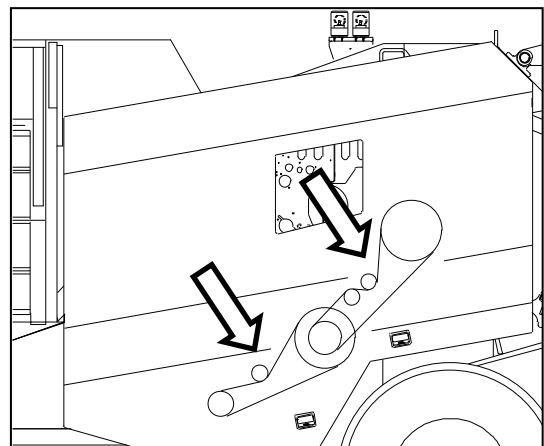
- 無給油で運転するとオイルポンプ及びモータの故障になるので絶対に行わないでください。
 - タイトチェーンの注油ポンプは自給式を採用していますので、タンク内が空になった際もオイルを足せばエア抜きなしでオイル供給ができます。また、コントロールボックス1に注油スイッチを設けていますのでスイッチを押して、オイルの吸い込みを確認してください。
 - 粘度の高いオイルはモータの故障の原因になるので使用しないでください。
 - 給油前に給油ノズル先端のゴミを取除いてください。
- ②トラクタのPTOをアイドルで回転させてください。
- ③コントロールボックス1の「モード切替ボタン」でそうじモードを選択し、タイトチェーンを駆動させてください。

④注油ボタンは一度押すと30秒間（注油している間、注油ランプが点滅）タイトチェーンに注油を行います。

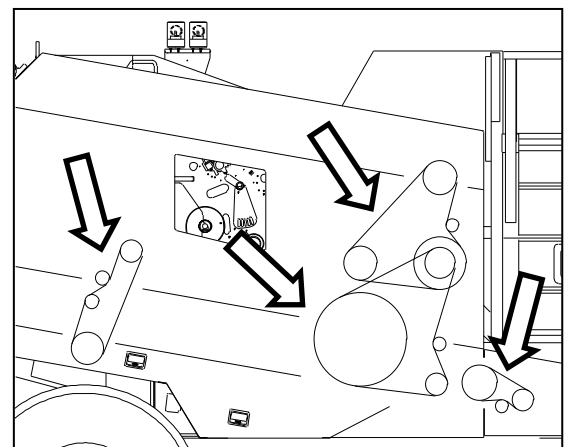


⑤各部の駆動チェーンに注油してください。

左側面



右側面



⑥コントロールボックス1の「モード切替ボタン」を押して通常運転ランプを点灯させ、タイトチェーンを停止させてください。

簡単な手入れと処置

6. ミッション給油

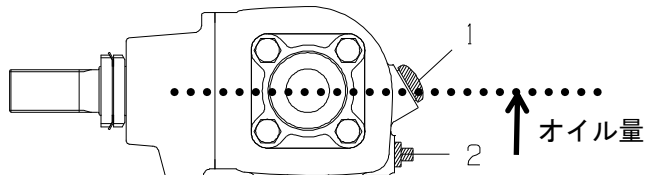
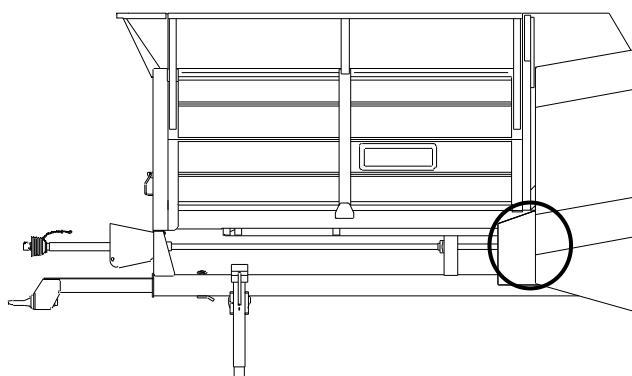
使用100時間ごとに全量を交換してください。

ギヤオイル	容量 (ℓ)
#90	0.6

以下の手順に従ってオイル交換を行ってください。

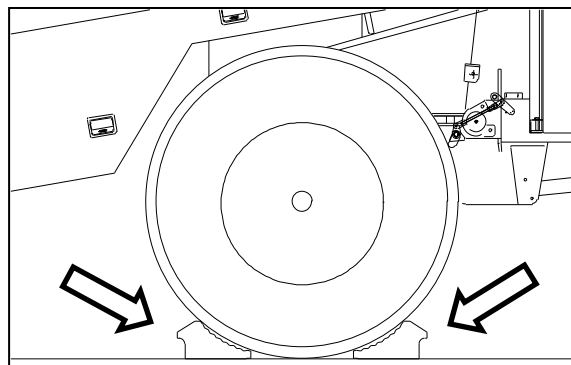
① 2のドレンプラグを外し、使用済みオイルを出す。オイル出し切った後、新しい意シールテープを巻いたドレンプラグを取付けてください。

② 1のオイルキャップを外し、穴からオイルが出るまで新しいオイルを入れ、オイルキャップを取り付けてください。



7. 車輪止め

駐車時は、必ず車輪止めでタイヤの歯止めをしてください。また、使用後は格納場所へ格納してください。



警告

本機をトラクタから切り離したときも、必ず車輪止めで歯止めをしてください。

本機が動き、思わぬ事故の原因になります。

これを怠ると重大な傷害事故を引き起こす恐れがあります。

8. ゴムロール

作業後、ゴムロールに付着した糊を軽油等で拭き取ってください。

糊が付着したまま作業を続けると、フィルムの張力が一定せず、巻むらが起ることがあります。



簡単な手入れと処置

9. 送信機

●電池交換

送信機のスイッチを押しても送信LEDが点灯しない場合や、著しく暗くなった場合は電池交換が必要です。送信機裏側の電池蓋をコインなどではずし電池交換をします。電池は市販のリチウム電池CR2032を使用してください。

電池は＋極を確認の上、正しく装着してください。

電池蓋の装着は、蓋の▽印と送信機本体の丸印をあわせてはめ込み、コインなどでCLOSE方向に回してください。

注意

無線機取扱説明書も同梱しておりますので、あわせてご使用前には必ずお読みください。

10. 長期格納時の手入れ

- 付着した泥やほこり等を落とし、巻き付いた草等を取除いてください。
- 各回転・摺動部やチェーン類には十分注油し、さびないようにしてください。
- 塗装のはがれた部分には、補修塗料を塗って、さびが出ないようにしてください。
- 各部のボルト・ナットがゆるんでいないかを確認し、ゆるんでいるときは締めてください。
- 格納は、雨やほこりのかからない屋内に保管してください。
- 格納は平坦な所で保管してください。

11. タイトバーボルト・ナットの点検

定期的にタイトバーボルト・ナットの緩み点検を行って下さい。

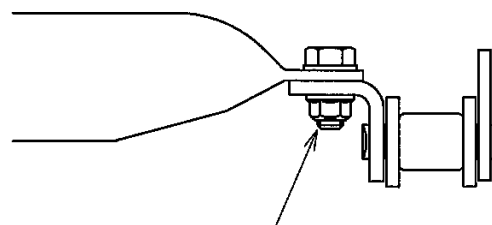
・点検の目安（ロール個数）

初回 約 1000 個での実施

以降 約 2000 個での実施

緩みがある場合は増し締めを行なってください。

緩みが酷い場合（増し締め時に1回転以上回る場合）はボルト・ナットを新品に交換して下さい。



締付けトルク 90 N/m



警告

タイトバーボルト・ナットが緩んだ状態で作業を続けるとタイトバー・タイトチェーンの破損に繋がる恐れがあります。

簡単な手入れと処置

12. 油圧作動油

点検、補給はエンジン始動前に行ってください。

不足している場合は、適時補給してください。

油はJ I S K 2213添加タービン1号または2号相当品をご使用ください。

タンク容量は30ℓです。

また、定期的にオイルの汚れおよび、オイルフィルタエレメントの点検をして下さい。

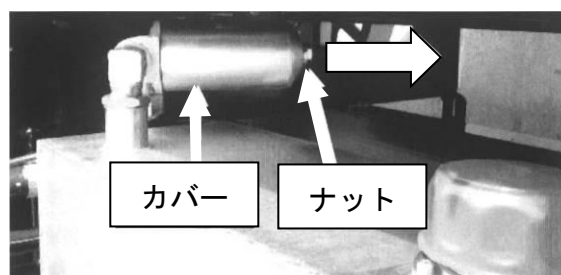
	ISO VG	ジャパン エナジー	出光興産	日本石油	コスモ石油	三菱石油	昭和シェル 石油
本州 向け	68	ハイドラックス 68	スーパーハイドロ ウリックフルード 68	スーパー ハイランド 68	スワフルード 68	ダイヤモンド パワーフルード 68	シェルテラス オイル 68
北海道 向け	32	ハイドラックス 32	スーパーハイドロ ウリックフルード 32	スーパー ハイランド 32	スワフルード 32	ダイヤモンド パワーフルード 32	シェルテラス オイル 32

注 意

- 工場出荷時はスーパーハイドロウリックフルードを使用しています
- 寒冷地では耐寒性作動油をご使用ください。
- 不燃性作動油は使用できません。

◆オイルフィルタエレメントの交換

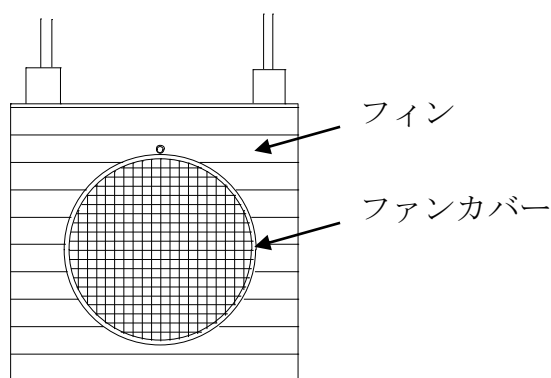
- ①ナットを緩め、矢印の方向にカバーを抜く。
- ②エレメントを交換する
- ③カバーを戻し、ナットを緩める



13. オイルクーラー

作業前・後には必ず以下の手順に従ってオイルクーラーの清掃と動作確認を行ってください。

- ①オイルクーラーのフィンに詰まっている材料を取り除いてください。
- ②ファンカバーに詰まっている材料を取り除いてください。
- ③コントロールボックス1、2の電源を入れ、オイルクーラーのファンが動作していることを確認してください。

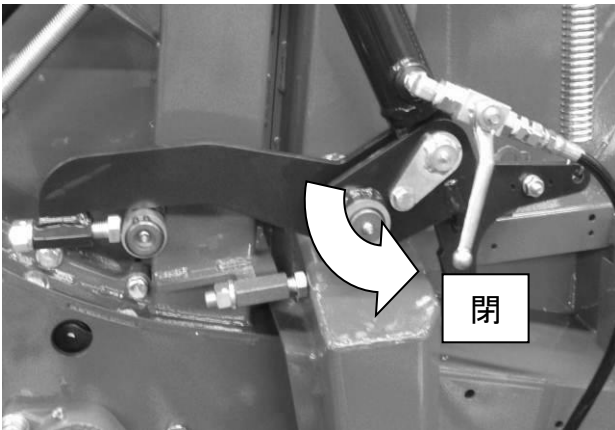


簡単な手入れと処置

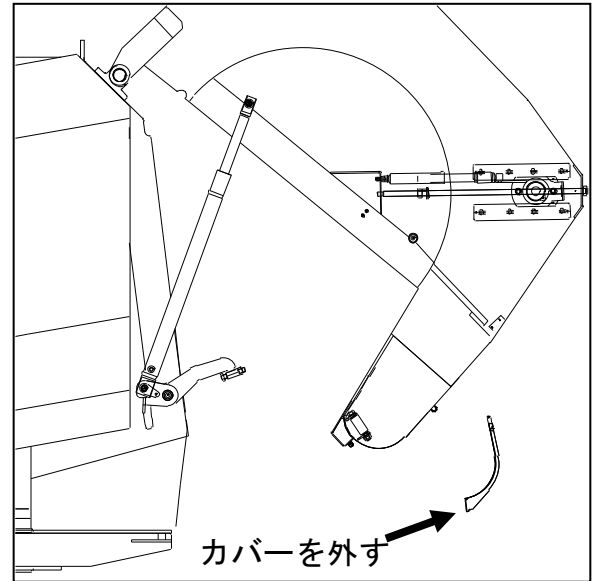
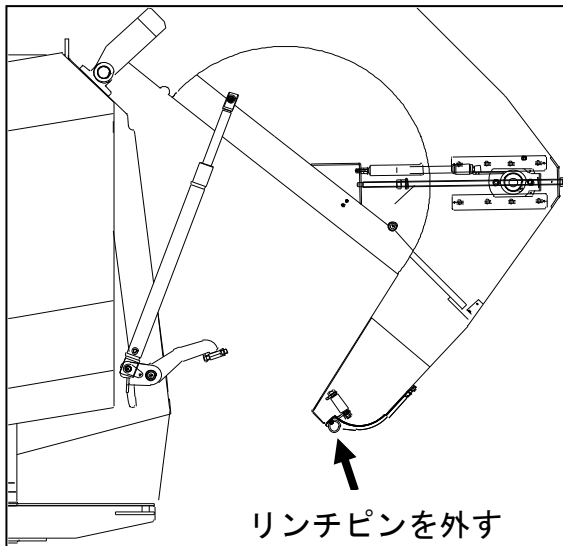
14. リヤチャンバーの清掃

作業後には必ず以下の手順に従って清掃を行ってください。

- ① トラクタをアイドリング状態にし、PTOを入れてください。
- ② コントロールボックス1の「モード切替ボタン」でそうじモードを選択し、タイトチェーンを駆動させてください
- ③ コントロールボックス1の「開くボタン」でチャンバーを全開の半分程度開けてください。
- ④ コントロールボックス1の「モード切替ボタン」で通常運転モードを選択し、駆動を止めてからPTOを切り、エンジンを止めてください。
- ⑤ 必ず左右のシリンダをロックし、チャンバーが下がらないことを確認してください。



- ⑥ 次図のリンチピンを取りカバーを外し、中の堆積物を取り出して掃除をしてください。



- タイトバーを回しながら掃除する場合は、再度PTOを入れ、そうじモードを選択してください。

注意

掃除をしないままにしておきますと堆積した収穫物が腐敗し雑菌がロールに混入、サイレージ品質を低下させる恐れがありますので掃除を必ず実施してください。

- ⑦ 掃除が完了しましたら、コントロールボックス1のモードを通常運転に変更し、駆動を止めてください。
- ⑧ 左右のシリンダのロックを解除し、コントロールボックス1の「閉じるボタン」を押してチャンバーを閉めてください。

警告

点検・調整をするときは必ずPTOを切り、エンジンを停止させてください。

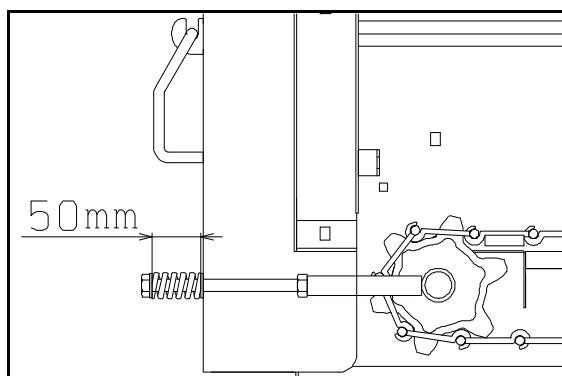
これを怠ると重大な傷害事故を引き起こす恐れがあります。

簡単な手入れと処置

15. コンベアチェーンの張り調整

◆ ロールペーラホッパ部

ボルトを回して、バネの長さを約 50 mm にして下さい。



※左右均等に調整してください。

16. ローラチェーンの張り調整

注意

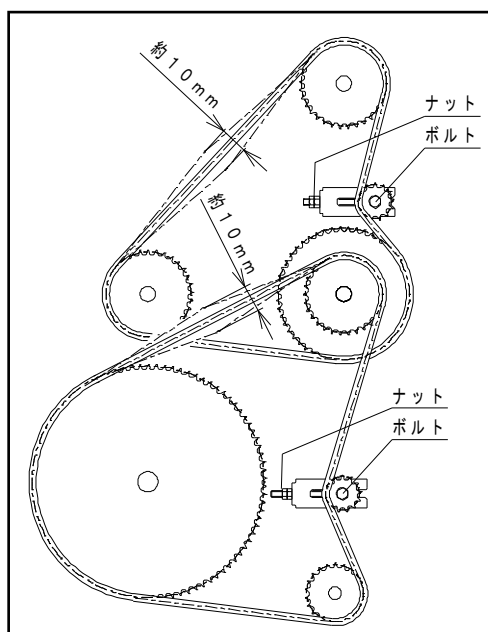
ローラチェーンは特に初期伸びをします。初めての使用から 10 時間後、下記に従って、張り調整を行ってください。

◆ アジテータ駆動チェーン

チェーンの矢印で示した部分のたわみ量が、約 10 mm に、調整してください。

●調整のしかた

- ① ボルト・ナットを緩める。
- ② たわみ量を調整する。
- ③ ボルト・ナットを締める。

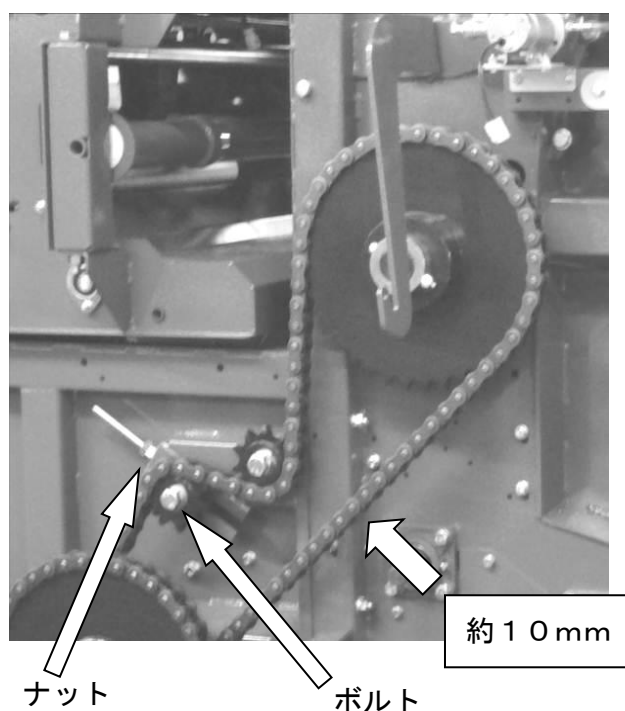
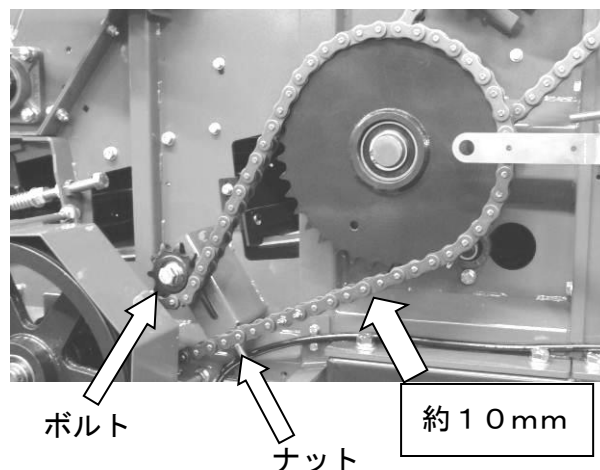


◆ タイトバー駆動チェーン

チェーンの矢印で示した部分のたわみ量が、約 10 mm に、調整してください。

●調整のしかた

- ① ボルト・ナットを緩める。
- ② たわみ量を調整する
- ③ ボルト・ナットを締める。



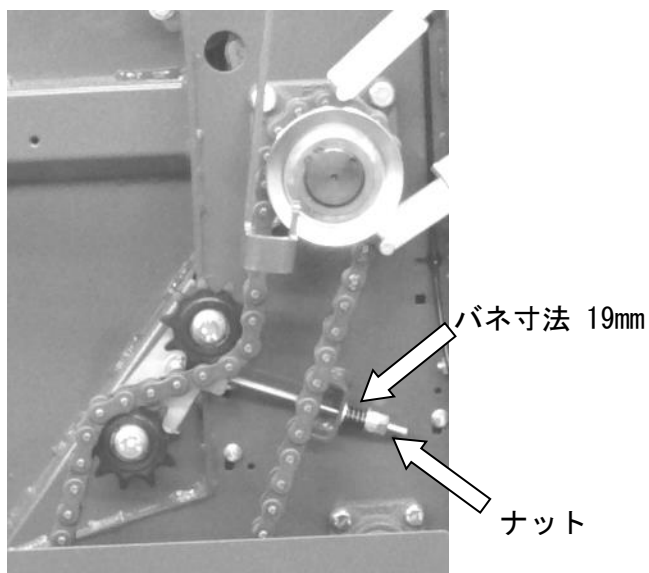
簡単な手入れと処置

◆ コンベアベルト駆動チェーン

バネ寸法が約 19 mm に、調整してください。

● 調整のしかた

- ① ボルト・ナットを緩める。
- ② たわみ量を調整する。
- ③ ボルト・ナットを締める。

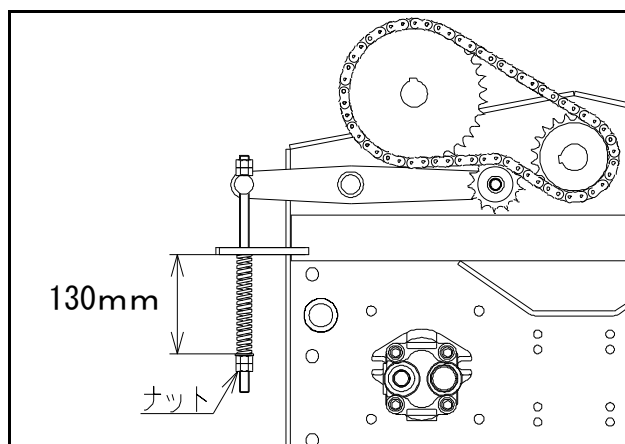


◆ ポンプ駆動チェーン

バネ寸法が約 130 mm に、調整してください。

● 調整のしかた

- ① ナットを緩める。
- ② バネの寸法を調整する。
- ③ ナットを締める。



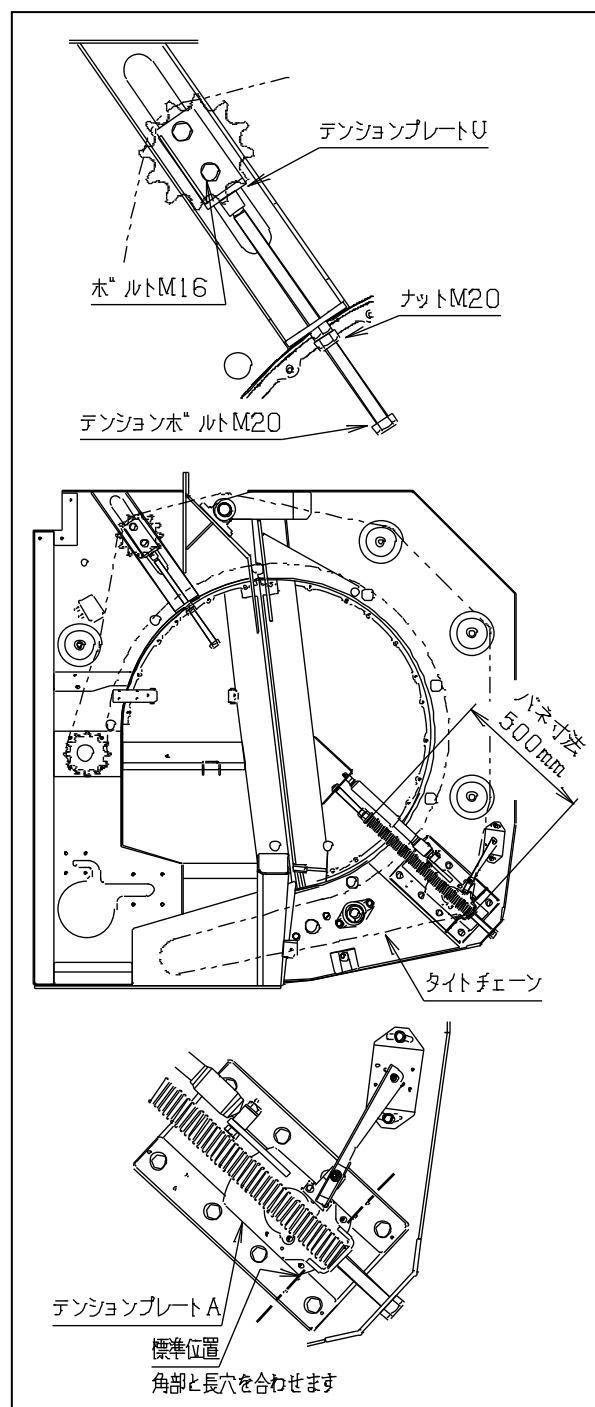
17. タイトチェーンの張り調整

下部テンションにあるテンションプレートAが標準位置に合うよう、上部テンションを調整してください。

● 調整のしかた

- ① ボルト・ナットを緩める。
- ② テンションボルトを回し、テンションプレートAの位置を調整する。
- ③ ボルト・ナットを締める。

※左右均等に調整してください。



簡単な手入れと処置

18. Vベルトの張り調整

注意

Vベルトは初期伸びをします。初めての使用から 10 時間後、下記に従って、張り調整を行ってください。

◆ タイトバー駆動ベルト

クラッチを入れた状態で、バネの寸法を約 165 mm に調整してください。

● 調整のしかた

①コントロールボックス 1, 2 の電源を入れ、「供給ボタン」を押してクラッチを入れる。

P T O は切った状態で行ってください。

②バネ寸法を測定する。

③スイッチを供給停止側に倒し、クラッチを切る。

④センサを固定しているバンドのネジを緩める。

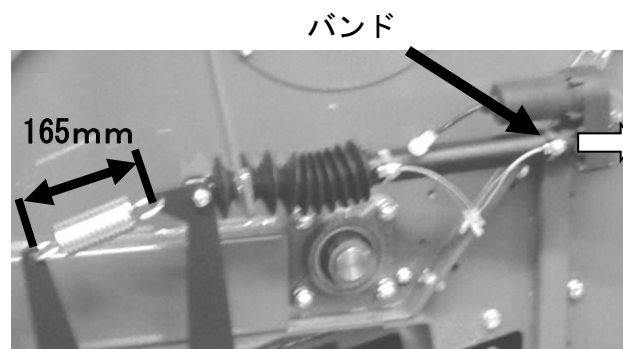
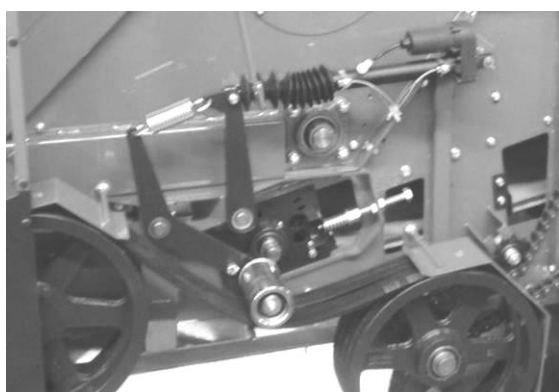
⑤ 165 mm から、②で測定したバネ寸法を引いた長さ分、矢印の方向に移動させる。

⑥センサを固定しているバンドのネジを締める。

締付トルクは、

0. 3 N・m (3 k g f ・ c m) です。

締めすぎると、センサが破損する原因となります。



ベルトサイズ

部品名称	部品コード	員数
V ベルト C-115 (レフト)	03610-1031-150	4

◆ ポンプ駆動ベルト

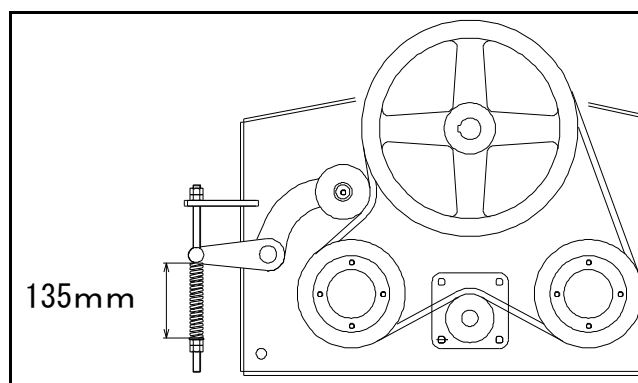
バネの寸法を約 135 mm に調整してください。

● 調整のしかた

①ナットを緩める。

②バネの寸法を調整する。

③ナットを締める。



Vベルトサイズ

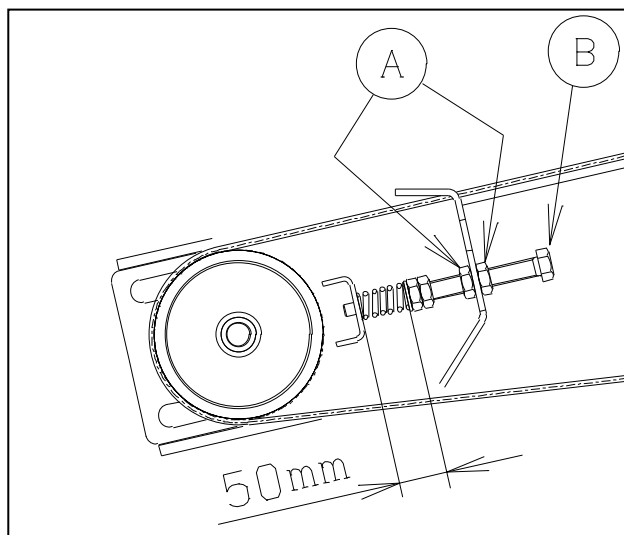
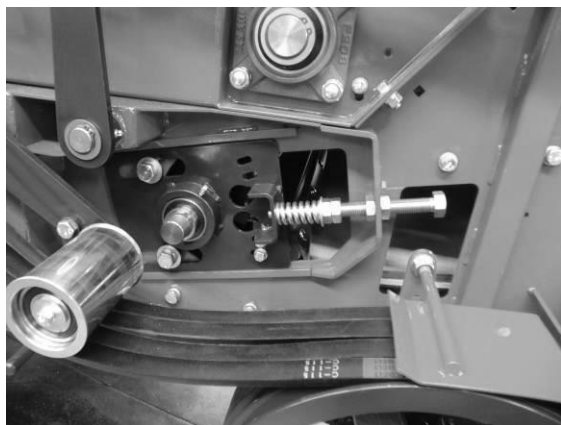
部品名称	部品コード	員数
V ベルト W800 SC74	68104-3732-000	2

簡単な手入れと処置

19. コンベアベルトの張り調整

●調整のしかた

- ①Aのナットを緩める。
- ②Bのボルトを回してバネの寸法を50mmに調整する。
- ③Aのナットを締める。



注意

ローラに材料が詰まっている場合は、掃除をしてから、テンション調整を行ってください。

ローラやコンベアベルトが破損する恐れがあります。

20. センサの調整

注意

各センサの調整が不十分だと正常な動作を行うことができません。調整が必要な場合は調整方法に従って再調整してください。

警告

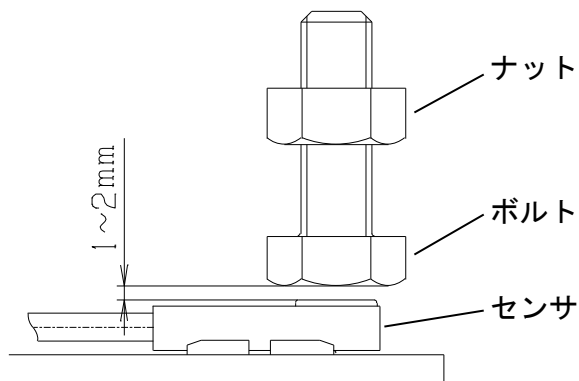
トラクタのエンジンをかけたまま調整しますと重大な事故が起こる可能性がありますので、必ずPTOを停止させ、エンジンを止めた状態で行ってください。

※各センサの位置は「各部の名称とはたらき」(P. 28)を参照してください

◆カム1センサ、カム2センサ、ネットカウントセンサ、PTOセンサの調整方法

●調整のしかた

- ①ナットを緩めてセンサとボルトの距離を1～2mmに調整する。



- ②ナットを締める。
- ③コントロールボックスの電源が入っているとき、センサが反応しているとセンサのLEDが点灯する。
センサ上面にボルトをあわせてもLEDが点灯しない場合、ボルトを再調整する。
LEDが視認しにくい場合は、コントロールボックスの電気チェックモードでも確認が可能。

簡単な手入れと処置

◆満了感知ポテンシオメータの調整方法

注 意

ポテンシオメータの調整を行う前に、「タイトチェーンの張り調整」を行ってください。(P 62 参照)
正常な満了感知ができなくなります。

●調整のしかた

- ①コントロールボックス 1, 2 の電源を入れる。
- ②「モード切替ボタン」を押して電気チェックモードを選択する。
- ③「送りボタン」または「戻りボタン」を押して、下記の画面に変更する。

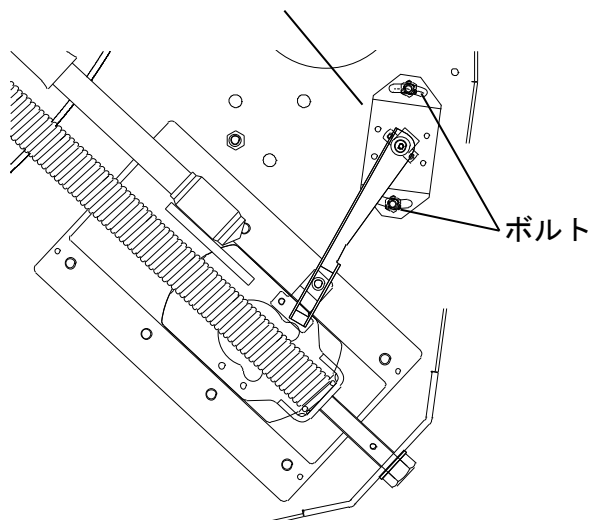
マリョウカン PTL1.90V

マリョウカン PTR1.90V

表示された電圧が「1.90V」である場合は、調整する必要はありません。

- ④ポテンシオメータベースを固定しているボルトを緩めます。
- ⑤ポテンシオメータベースの角度を変え、表示されている数値を「1.90V」に合わせます。
- ⑥ボルトを締めて、ポテンシオメータベースを固定します。

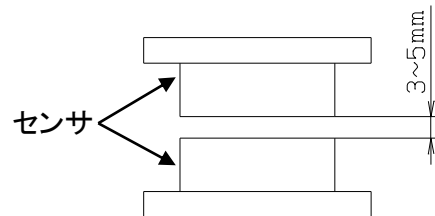
ポテンシオメータベース



◆チャンバー開センサ、フィルム切センサの調整方法

●調整のしかた

- ①センサを取り付けているステーのボルトを緩める。
- ②センサどうしの距離を 3 ~ 5 mm に調整する。

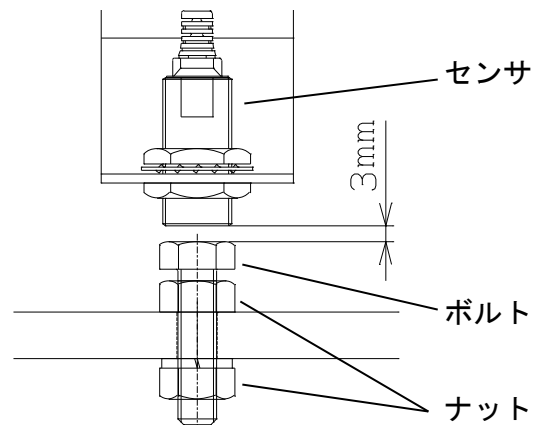


- ③ステーのボルトを締める。

◆チャンバー閉センサの調整方法

●調整のしかた

- ①ナットを緩めてセンサとボルトの距離を 3 mm に調整する。



- ②ナットを締める。
- ③コントロールボックスの電源が入っているとき、センサが反応しているとセンサのLEDが点灯する。
センサ上面にボルトをあわせてもLEDが点灯しない場合、ボルトを再調整する。
LEDが視認しにくい場合は、コントロールボックスの電気チェックモードでも確認が可能。

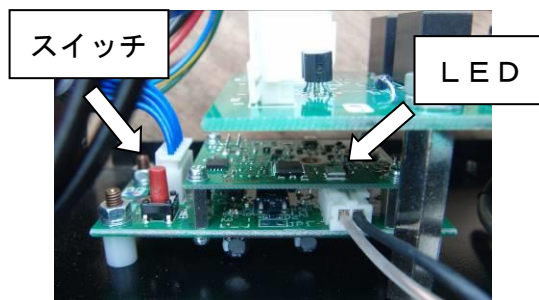
簡単な手入れと処置

2 1. リモコンの設定方法

以前使っていたリモコンから新しいリモコンへ買い換えた際に、コントロールボックスへID登録をする必要があります。

●調整のしかた

- ①リモコン受信機のカバーを外す。
- ②受信機内部のスイッチを押したまま、コントロールボックスの電源を入れる。



- ③受信機内部のLEDの点滅を確認したら、スイッチを離してリモコンのボタンを押す。
リモコン1：供給開始ボタン
リモコン2：放出切替ボタン
- ④受信機内部のLEDが消灯したら、IDの登録が完了。
コントロールボックスの電源を切り、再度電源を入れると通常通り使用可能。

簡単な手入れと処置

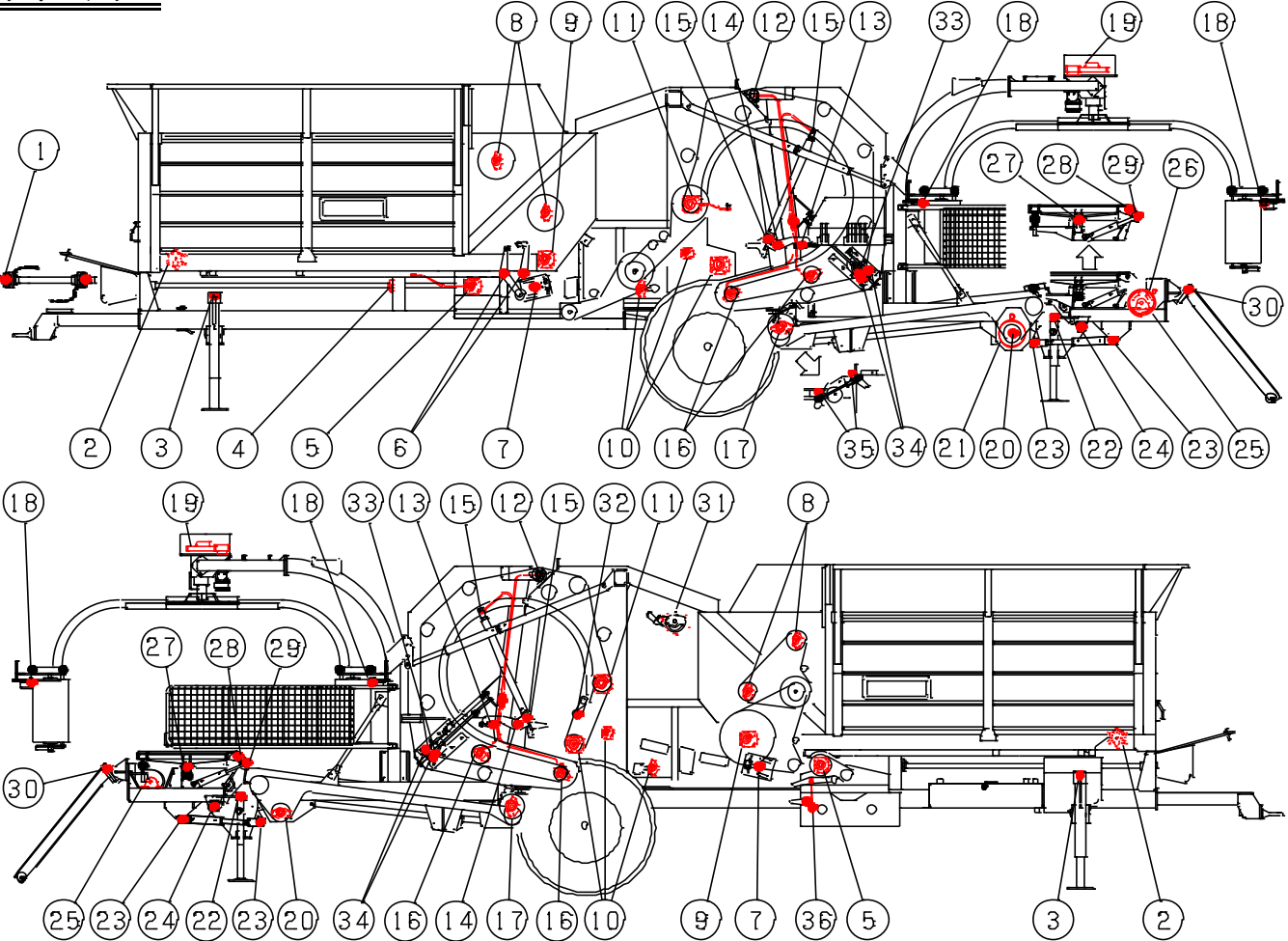
22. グリスアップ・注油

図表に従って各部にグリスアップ・グリス塗布・注油を行ってください。

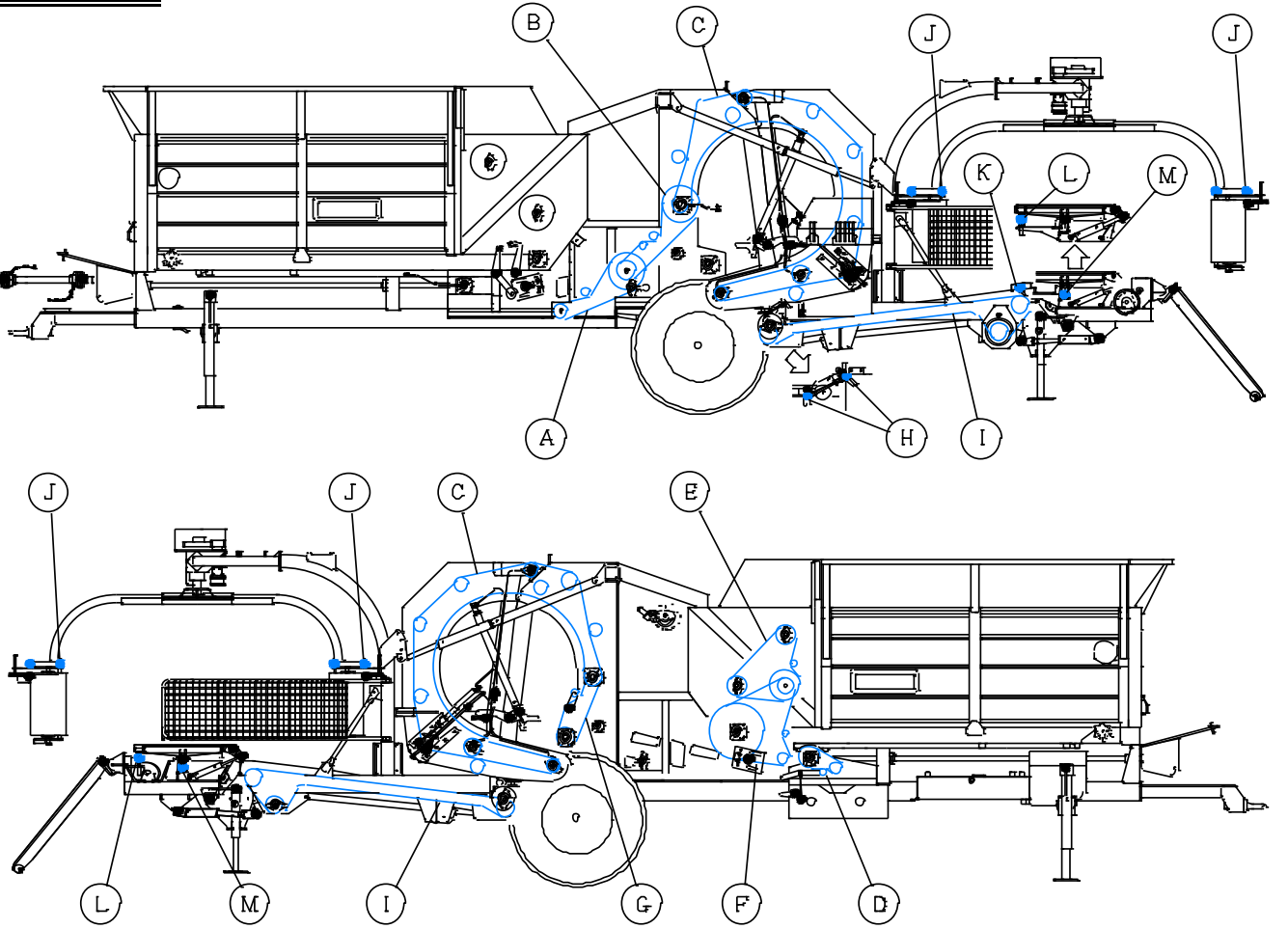
グリスアップ			
No.	名称	箇所	時期
1	ジョイント	3	20時間
2	コンベアスプロケット	左右 各1	20時間
3	スタンド	左右 各1	1年
4	PTO入力軸ベアリング	1	20時間
5	PTO出力軸ベアリング	左 2 右 1	20時間
6	ベルトテンションクラッチ支点	2	20時間
7	ベルトコンベア前部軸ベアリング	左右 各1	20時間
8	アジテータ軸ベアリング	左右 各2	20時間
9	コンベア軸ベアリング	左右 各1	20時間
10	ベルトコンベア後部軸ベアリング	左右 各3	20時間
11	タイトチェーン駆動軸ベアリング	左右 各1	20時間
12	チャンバー開閉支点	左右 各1	20時間
13	チャンバーロック部空転カラー	左右 各1	20時間
14	チャンバーロック金具支点	左右 各1	20時間
15	チャンバーシリンダ支点	左右 各2	20時間
16	タイトチェーン軸ベアリング	左右 各2	20時間
17	搬送ローラ軸ベアリング	左右 各1	20時間
18	ストレッチ支点	左右 各1	20時間
19	ストレッチアーム支点ギヤ	1	20時間
20	搬送ローラ駆動軸ベアリング	左右 各1	20時間
21	搬送ギヤ	1	20時間
22	スタンド	左右 各1	1年
23	ダンブシリンダ支点	左右 各2	20時間
24	ダンブ支点	左右 各1	20時間
25	回転ローラ軸ベアリング	左右 各1	20時間
26	回転ローラギヤ	1	20時間
27	カットアームベース支点	左右 各1	20時間
28	グリップカッタ支点	左右 各1	20時間
29	グリップカッタシリンダ支点	左右 各1	20時間
30	キッカー支点	左右 各1	20時間
31	ネットカムギヤ	1	20時間
32	ベルトコンベア駆動チェーンテンション支点	1	20時間
33	タイトチェーンテンション軸	左右 各1	20時間
34	タイトチェーンテンションプレート	左右 各2	20時間
35	搬送前センサリンク部	2	20時間
36	ポンプ駆動テンション軸	2	20時間

注油			
No.	名称	箇所	時期
A	ロールベアラ駆動チェーン(前)	1	作業毎
B	ロールベアラ駆動チェーン(後)	1	作業毎
C	タイトチェーン	左右 各1	作業毎
D	油圧ポンプ駆動チェーン	1	作業毎
E	アジテータ駆動チェーン(上)	1	作業毎
F	アジテータ駆動チェーン(下)	1	作業毎
G	コンベアベルト駆動チェーン	1	作業毎
H	搬送前センサ リンク部	2	作業毎
I	搬送チェーン	左右 各1	作業毎
J	フィルムチェーン	左右 各1	作業毎
K	搬送後センサ リンク支点	1	作業毎
L	グリップカッタバネ	左右 各1	作業毎
M	グリップカッタベーススライド	左右 各1	作業毎

グリスアップ



注油



不 調 診 断

不 調 内 容	診 断	処 置	参 照 ペ ー ジ
●電源ランプが点灯しない	●ヒューズが切れている	●ヒューズの交換	2 6 2 7 5 4
	●非常停止状態になっている	●非常停止解除スイッチを押す	2 6
●タイトチェーンが異常に振動する ●シェアボルトが頻繁に切れる	●タイトチェーンの油切れ	●注油する	2 6 5 6
		●集中注油のタンク油量を確認する	3 2 5 6
●リアチャンバーが開かない	●搬送ローラが前にならない	●搬送ローラを手動油圧レバーで前に戻す	2 3
	●ストレッチアームのアイマークが合っていない。	●ストレッチアームのアイマークを手動油圧レバーで合わせる	2 3
	●ネットが巻けていない。	●ネットを手動で再度巻く	2 7
	●油圧ポンプが回っていない	●トラクタ P T O を回す	—
●リアチャンバーが閉まらない	●前後チャンバーの合わせ部へのごみのたまり	●掃除をする	—
	●チャンバーの開閉がスムーズでない	●チャンバーの開閉支点をグリスアップする	—
●ネットが繰り出さない	●ハーネスの接続不良	●接続する	—
	●駆動ベルトが外れている	●取り付ける	4 1
	●電源容量不足	●バッテリーから付属のハーネスで直接取り出す	3 1
●ネットの切れが悪い	●ナイフが切れなくなっている	●ナイフの研磨又は注油、交換	—
●ネットがゴムローラに巻きつく	●結露・水滴によるゴムローラへの付着	●水分をふきとる	—
●ラップの切れが悪い	●ナイフが切れなくなっている	●ナイフの研磨又は交換	—
●ロールの形状がテーパー状になる	●ホッパーへの投入が左右均等でない	●左右均等に投入する	—
		●ホッパーに十分な量を投入してから（ためてから）作業を行う	—

不 調 診 断

不 調 内 容	診 断	処 置	参 照 ページ
●ロールがやわらかい	●ネットの結束力不足	●ブレーキの再調整	4 3
●リモコン送信機が操作しない	●受信機との距離が離れすぎている	●送信距離は約10m（見通し、電池新品）です。	—
	●非常停止/一時停止状態になっている	●トラクタPTOを切り受信機の非常停止/一時停止解除スイッチを押す	2 6 2 7
	●送信機の電池切れ	●電池交換を行う	5 8

不 調 診 断

表示一覧



: 点灯



: 消灯



: 点滅



: 特定しない

1. 準備完了表示

内容	液晶画面表示		パトライト				対応
	コントロールボックス 1	コントロールボックス 2	緑	黄	青	赤	
通常作業開始時の表示	ネットマクス: 4.5mm カンキョリ : 50mm	セッテイ マクス: 20 ホウシュツ: シットウ	●	●	●	●	表示の状態になっていない場合は、液晶画面の表示に従い、手動レバーおよびコントロールボックスの操作で各部の位置を初期状態に合わせてください

2. 通常動作表示

内容	液晶画面表示		パトライト				対応
	コントロールボックス 1	コントロールボックス 2	緑	黄	青	赤	
ロールベアラ部 非常停止中	ヒジ ヨウテイシチュウ	—	●	●	—	—	説明：緊急停止する必要がある場合は、コントロールボックス 1 の「非常停止ボタン」または、送信機 1 の「非常停止ボタン」を押してください。 解除：「緊急停止解除」スイッチを押し、コントロールボックス 1 「非常停止ボタン」を、長押し（1 秒）すると非常停止を解除することができます。
供給中	0mm マンリョウゲージ 50mm	—	○	●	—	—	説明：ホッパーの材料をロール成形室に送り込んでいます。 解除：コントロールボックス 1 の「供給ボタン」または、送信機 1 の「供給停止ボタンを押すと供給を停止することができます。
ネット巻付け中	0.1mm ネットクチダシ 4.5mm チュウ	—	●	○	—	—	説明：材料が成形室一杯になったのを感じたので、ネットを送り込み結束します。 ※成形室が一杯になっていないと結束できませんので、注意してください。
ネット巻付け 完了	ネットセツタンチュウ	—	●	○	—	—	説明：ネットの結束が完了しました。この後、チャンバーが開きますので、注意してください。
手動放出設定中	—	セッテイ マクス: 20 ホウシュツ: シットウ	—	—	○	—	説明：放出が「手動」になっています。 解除：コントロールボックス 2 の「放出」ボタンまたは、リモコン 2 の「放出」ボタンを押してください。 ※コントロールボックス 2 の「放出切替」ボタンまたは、リモコン 2 の「自/手」ボタンを押すことで、手動と自動を切替えることができます。
ラップマシーン 部 一時停止中	—	イジ テイシチュウ	—	—	—	○	説明：「一時停止」ボタン、フィルム切れの際にこの状態になります。 解除：一時停止ボタンを長押し（2 秒）すると、一時停止を解除することができます。 ※一時停止を解除すると機械が急に動き始めますので、機械の周りに人がいないか確認してください。 ※リモコン 2 の「一時停止」ボタンを押した場合は、「一時停止解除」スイッチを押し一時停止を解除してください。解除しないと、リモコンの操作が出来なくなります。

3. 消耗品（ネット、フィルム）切れ表示

内容	液晶画面表示		パトライト				対応
	コントロールボックス 1	コントロールボックス 2	緑	黄	青	赤	
ネットが無くなる、切れる、巻付く等で、動作が止まった	ネットヨウカンシ、ネットクダシスイッチヨウシテクダサイ	—	●	★	—	—	① ネット交換方法のステッカーに従い、ネットを交換してください。 ② 機械の周りに人がいないか確認し、PT0を入れてください。 ③ コントロールボックス 1 の「手動繰出し」ボタンを押してください。
フィルムが無くなる、切れる等で、動作が止まった	—	ラップ エラー フィルム ヲ コウカン	—	—	—	○	① フィルム交換方法ステッカーに従い、フィルムを交換します。 ② 機械の周りに人がいないか確認し、PT0を入れてください。 ③ コントロールボックス 2 の「一時停止」ボタンを長押し（2 秒）してください。

不 調 診 断

表示一覧



: 点灯



: 消灯



: 点滅



: 特定しない

4. 動作不良表示

内容	液晶画面表示		パトライト				対応
	コントロールボックス 1	コントロールボックス 2	緑	黄	青	赤	
ホッパー内の材料がロール成形室に送り込めない	PT0がカテンシタイムセン シヤボルトヲカネン	—	●	●	—	—	原因：ユニバーサルジョイントのシヤボルトが切れている。 対応：シヤボルトを交換してください。 原因：PT0センサの異常です。 対応：PT0センサの再調整をしてください。
	0mm マンリョウゲージ 50mm	—	○	—	—	—	原因：ネットホサキセンサに材料が引っ掛っていることが考えられます。 対応：ネットホサキセンサの掃除をしてください。
	クラッチがハイリマセン クラッチヲカネン	リードスイッチがトウジニ オサレタイムス	●	●	—	○	原因：電動シリンダのリードスイッチ異常です。 対応：リードスイッチの取付け、カプラが抜けていないか確認してください。
	チャンバークロシメテクダサイ	チャンバークロ シメテクダサイ	●	●	—	●	原因：初期状態になっていません。 対応：①チャンバー内に人がいないことを確認し、シリンダロックを解除してください。 ②液晶画面に従い、コントロールボックス1の「閉じるボタン」を押しチャンバーを閉めてください。
チャンバーが開かない	ネットセツダンチュウ	ハンソウローラ マエ ニ イトウ シテクダサイ	—	—	—	○	原因：初期状態になっていません。※頻発する場合はバッテリーの容量不足が考えられます。 対応：液晶画面に従い、手動レバー操作で搬送ローラを前に移動してください。
	ネットセツダンチュウ	ハンソウセンサーがトウジニ オサレタイムス	—	—	—	○	原因：ローラ前センサまたは、ローラ後センサに材料が詰まり、センサが押された状態になっています。 対応：①PT0を切ってください。 ②センサの材料の詰まりを掃除してください。 ③センサカナグ支点到、注油してください。 ④機械の回りに人がいないか確認し、PT0を入れてください。 ⑤手動レバー操作で搬送ローラを前に移動してください。 ⑥コントロールボックス2の「一時停止」ボタンを長押しして、一時停止を解除してください。
ロールが落ちない	チャンバークロヒキマス コスウ: 123456コ	ロール ケンシュツ センサ エラー	●	●	—	○	原因：リヤチャンバーからロールが落ちない。 対応：①リヤチャンバーからロールを落としてください。 ②機械の周りに人がいないことを確認し、「一時停止ボタン」を長押ししてください。
ロールがラップ まで移動しない	チャンバークロハイ センサ エラー	チャンバークロヒキ	●	●	—	—	原因：チャンバー閉センサの異常です。 対応：チャンバー閉センサの端子が抜けていないか確認してください。
	チャンバークロカイ センサ エラー	チャンバークロヒキ	●	●	—	—	原因：チャンバー開センサの異常です。 対応：チャンバー開センサの端子が抜けていないか確認してください。
チャンバーが閉 じない	チャンバークロヒキマス コスウ: 123456コ	ハンソウローラ ウシロ センサ エラー	●	●	—	○	原因：ローラ後スイッチの異常です。 対応：ローラ後スイッチの端子が抜けていないか確認してください。
ストレッチが回 転を始めない	—	グリップカッタ センサ エラー	—	—	—	○	原因：グリップカッタスイッチの異常です。 対応：グリップカッタスイッチの端子が抜けていないか確認してください。
ストレッチが途 中で停止する	—	カテン マエ センサ エラー	—	—	—	○	原因：回転前センサの異常です。 対応：回転前センサの端子が抜けていないか確認後、「一時停止」ボタンを長押ししてください。
	—	カテン ウシロ センサ エラー	—	—	—	○	原因：回転後センサの異常です。 対応：回転後センサの端子が抜けていないか確認後、「一時停止」ボタンを長押ししてください。
	—	ストレッチアーム カテン エラー	—	—	—	○	原因：オイルタンク油温が上昇している可能性があります。 対応：①油温が80℃以下になるまで、PT0を切ってください。 ②機械の周りに人がいないことを確認し、PT0を繋いでください。 ③「一時停止」ボタンを長押ししてください。

付 表

1. 主要諸元

名 称	細断型コンビラップ	
型 式	MW1231	
装 着 方 法	ドローバけん引方式	
駆 動 方 法	PTO駆動（回転速度 400min ⁻¹ (rpm)）	
適応トラクタ (kW {PS})	44.1~95.6 {60~130}	
機 体 寸 法	全 長 (mm)	10,340 (作業時) 9,650 (移動時)
	全 幅 (mm)	3,520 (作業時) 2,350 (移動時)
	全 高 (mm)	2,800 (作業時) 3,220 (移動時)
質 量 (kg)	5,750	
ベール寸法 (cm)	φ115×100 (参考値)	
ベール重量 (kg) ※収穫物で変わります	700~800	
作 業 方 式	定置作業	
結 束 装 置	ネット	
ネ ッ ト サ イ ズ	幅123cm×2000m	
フ ィ ル ム サ イ ズ	幅50cm×1800m 2本同時使用	
ホ ッ パ ー 容 量 (m ³)	4.0	
タ イ ヤ サ イ ズ	16.0/70-20 12PR	
送 信 機	電 源	DC2.5~3.3V (コイン型リチウム電池CR2032)
	外 形 寸 法	60×35×13mm
	保 存 温 度	-10~+55℃
	電 池 寿 命	1日10回操作で2年
	使 用 周 波 数	313.85MHz
	送 信 出 力	微弱電波
受 信 機	消 費 電 流	最大100mA以下
	外 形 寸 法	115×150×70mm
	保 存 温 度	-10~+55℃

この主要諸元は、改良などにより、予告なく変更することがあります

付表

2. 主な消耗品

No.	交 換 部 品	名称	員数	備考	点検時期		交換時期の目安(どちらか早いほう)		
					作業毎	100時間 または 1200個	200時間 または 2400個	500時間 または 6000個	1000時間 または 10000個
▼ベアラー関係									
1	タイトチェーン	7 8 1 0 1-3 1 1 0-0 0 0	2	214リンク		○			○
2	ピアノセン	6 8 1 0 4-3 1 9 2-0 1 0	2			○			○
3	タイトバー(パーツキ)	7 3 1 1 3-3 1 4 0-0 1 2	107			○			○
4	駆動軸のベアリング	0 4 5 1 3-0 0 0 2-1 0 0	2	ベアリングUCF210		○			○
5	折返しのベアリング	0 4 5 2 1-0 0 0 2-0 7 0	4	ベアリングUCFL207		○			○
6	成形室のベアリング	0 4 1 1 0-4 0 6 2-0 6 0	12	ベアリング6206 2RS		○			○
7	下部テンションのベアリング	7 8 1 0 1-2 4 8 1-0 0 0	2	ベアリングUG207+ER		○			○
8	上部テンションのベアリング	0 4 1 1 0-4 0 6 2-0 7 0	4	ベアリング6207 2RS		○			○
9	ガスショック	1 1 6 1 3-1 8 5 0-0 0 0	2			○		○	
▼ネット装置									
10	ブレーキシュー	3 3 1 0 1-6 9 9 3-0 0 0	1			○		○	
11	ナイフ	7 8 1 0 1-6 9 9 1-0 0 0	2			○			○
12	ゴムローラー	6 0 1 2 1-4 5 1 0-0 0 0	1			○			○
13	Vベルト	0 3 6 1 0-0 0 1 0-6 6 0	1	LA-66		○			○
14	ワンウェイプレート	3 2 1 1 8-6 8 4 2-0 0 3	4			○		○	
15	ガイドカラー	3 2 1 1 8-6 8 4 1-0 0 1	2			○		○	
16	ガイドカラー	4 0 1 2 0-7 4 6 1-0 0 0	2			○		○	
▼コンベアベルト									
17	コンベアベルト	7 8 1 0 1-5 3 9 1-0 0 2	1			○			○
18	スクレーパベースゴム	7 8 1 0 1-5 6 5 1-0 0 0	1			○			○
19	スクレーパAゴム	7 8 1 0 1-5 6 3 1-0 0 0	1			○			○
20	スクレーパCゴム	7 8 1 0 1-5 6 3 3-0 0 0	1			○			○
21	サイドゴム	7 8 1 0 1-5 3 9 7-0 0 0	2			○			○
▼駆動系									
22	アジテータ駆動チェーン	0 3 6 2 1-0 5 0 1-2 6 1	1	#50x126	○				○
23	コンベア駆動チェーン	0 3 6 2 1-0 5 0 1-4 8 1	1	#50x148	○				○
24	ベアラ左前駆動チェーン	0 3 6 2 1-0 8 0 0-7 8 6	1	#80x78	○				○
25	ベアラ左後駆動チェーン	0 3 6 2 1-0 8 0 0-8 8 6	1	#80x88	○				○
26	ベアラ右駆動チェーン	0 3 6 2 1-0 8 0 0-6 1 7	1	#80x61	○				○
27	ラップ搬送チェーンAssy	6 7 1 1 7-1 5 6 0-0 0 0	2		○				○
28	ベアラ駆動クラッチベルト	0 3 6 1 0-1 0 3 1-1 5 0	4	V-ベルト C-115(レッド)	○				○
29	電動シリンダAssy	6 8 1 0 5-2 3 1 0-0 0 0	1		○				○
30	ホンプ駆動チェーン	0 3 6 3 1-0 5 0 0-5 8 1	1	2列チェン #50x58	○				○
31	ホンプ駆動ベルト	6 8 1 0 4-3 7 3 2-0 0 0	2	V-ベルト W800 SC74	○				○
▼油圧									
32	ロール側ホース	—	各1			○	破損している場合は交換		
33	ラップ側ホース	—	各1			○			
34	フィルタエレメントの確認・交換	—	1			○	汚れている場合は、清掃または、交換		
35	オイルクーラー	3 6 1 2 0-9 2 6 0-0 0 1	1			○			○

付表

No.	交 換 部 品	名称	員数	備考	点検時期		交換時期の目安(どちらか早いほう)		
					作業毎	100時間 または 1200個	200時間 または 2400個	500時間 または 6000個	1000時間 または 10000個
▼ストレッチ									
36	タイミングベルト	3 0 1 0 8-5 2 4 1-0 0 0	2			○			○
37	ローラチェーン	0 3 6 2 1-9 4 0 0-3 2 0	2	#40x32 エンドレス		○			○
38	ベアリング	0 4 1 1 0-4 0 6 0-0 4 0	4	6004 2RS CM SR		○			○
39	ガススプリング	1 1 3 8 6-1 3 4 3-0 0 0	2			○			○
▼グリップカッタ									
40	ナイフ	6 8 1 0 5-5 2 2 2-0 0 0	2			○	○		
41	スポンジ	6 6 1 0 1-5 1 4 4-0 0 0	2			○	○		
▼電装									
42	パトライト(電球)	3 8 1 0 5-9 3 9 1-0 0 0	4	12V5W	○		○		
43	パトライト	—	各1			○	破損している場合は交換		
44	ホーン	1 1 3 6 3-8 3 8 0-0 0 1	1			○			
45	ロール側センサ	—	各1			○	○		
46	ラップ側センサ	—	各1			○	○		
47	電源コード	—	各1			○	破損している場合は交換		
48	ロール側ハーネス	—	各1			○			
49	ラップ側ハーネス	—	各1			○			
50	ヒューズ15A	0 0 9 0 0-0 1 0 0-1 5 0	1	コントロールボックス1用	—	—	切れた場合は交換		
51	ヒューズ10A	0 0 9 0 0-0 1 0 0-1 0 0	1	コントロールボックス2用	—	—			
52	ヒューズ30A	0 0 9 0 0-0 1 0 0-3 0 0	1	電源コード用	—	—			
▼シェアボルト									
53	シェアボルトアッシ ジョイント用	0 1 1 5 8-0 0 8 0-4 5 A	10本セット	M8×45 8T M8ナイロンナット	—	—	切れた場合は交換		
54	シェアボルトアッシ ベルトローラ用	0 1 1 5 8-0 0 8 0-3 5 A	10本セット	M8×35 8T M8ナイロンナット	—	—			

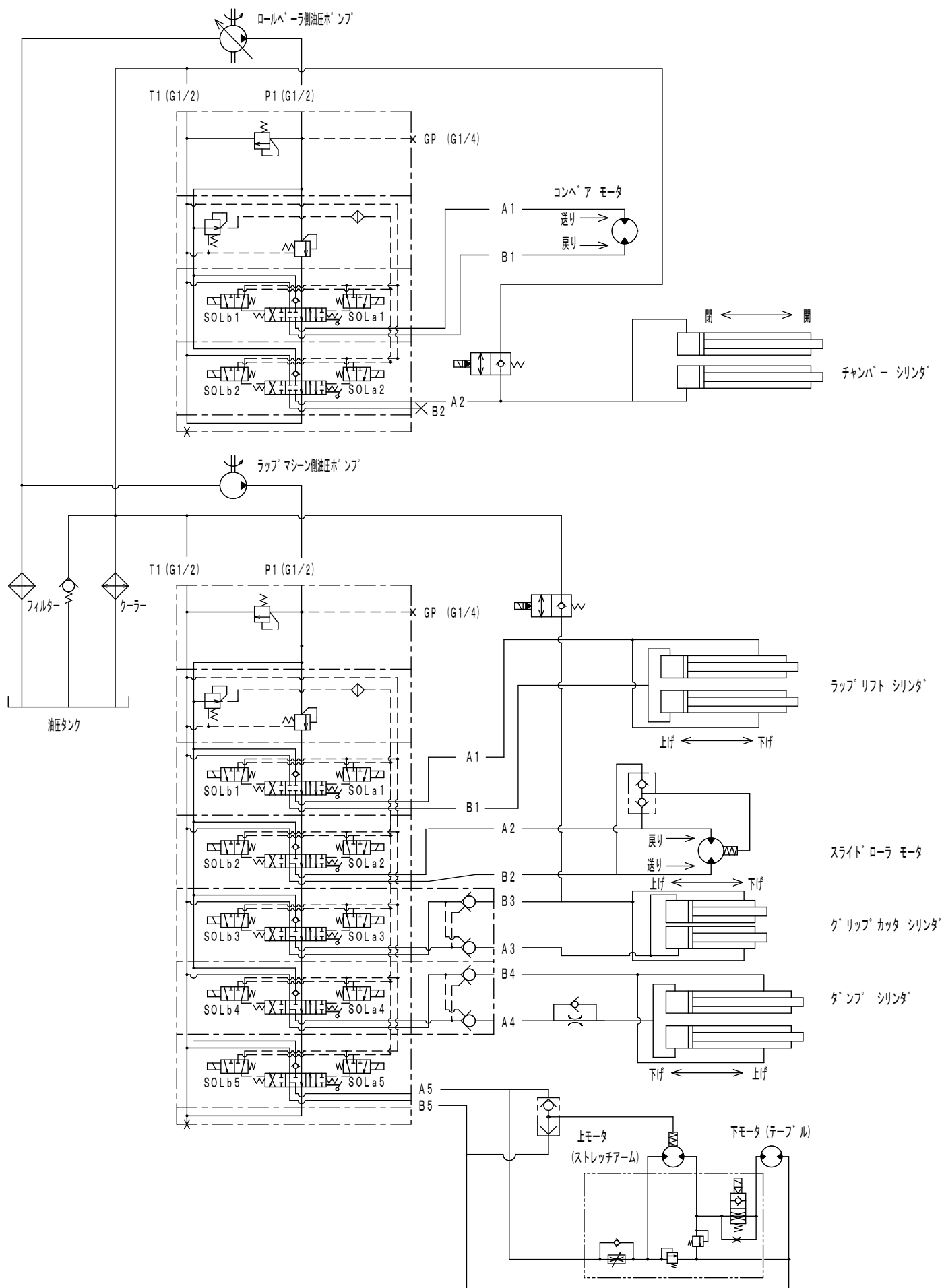
※交換時期は目安であり、使用状況などで変わりますので、注意してください。

3. オイル

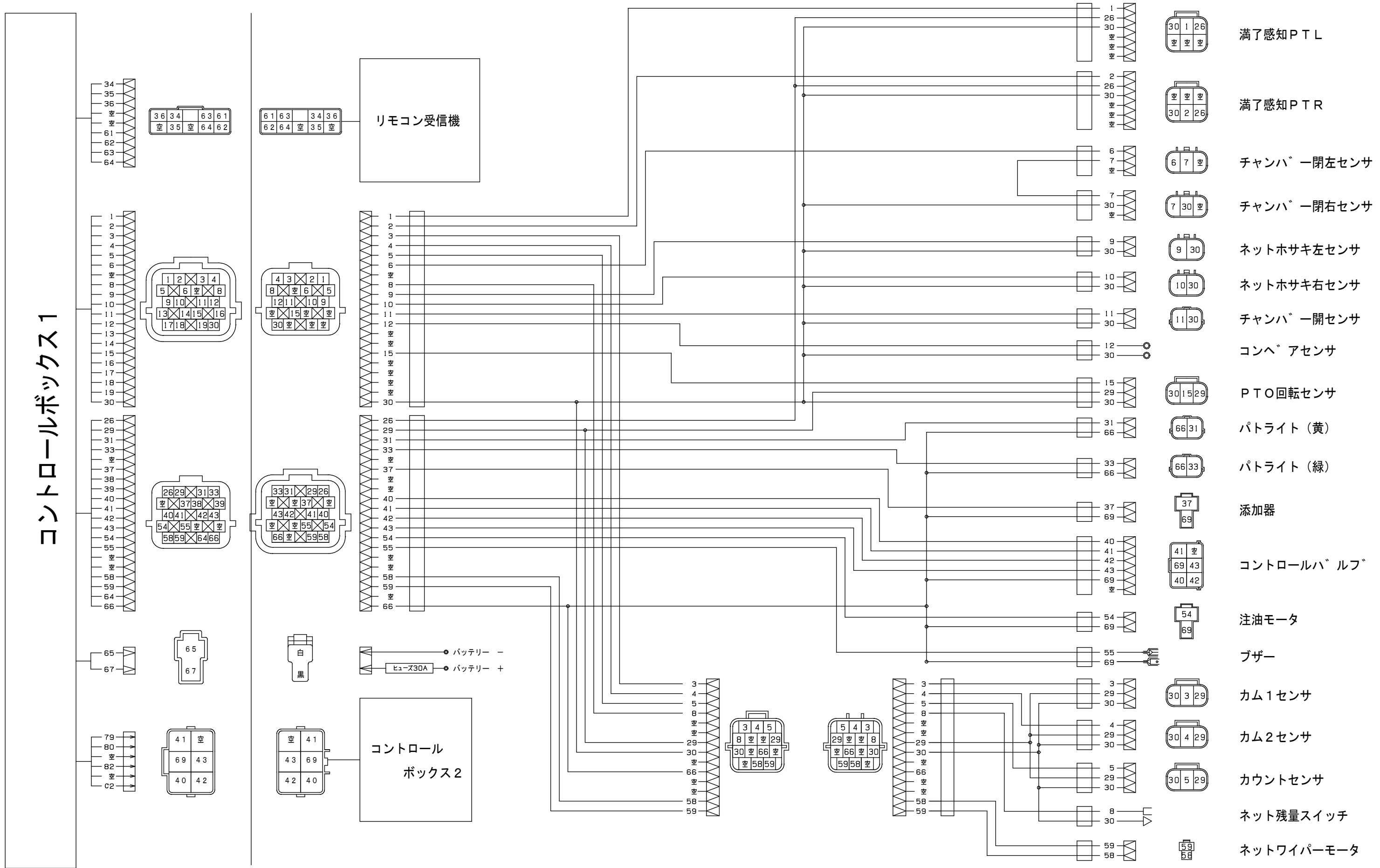
交 換 部 品	名 称	員 数	備 考	点検時期	交換時期の目安(どちらか早いほう)
					200時間 または 2400個
ミッション	ギアオイル #90		約0. 6リットル	作業毎	
油圧作動	取扱説明書 P.59参照		約30リットル	作業毎に量を点検 (不足の場合は継ぎ足し)	○
タイトチェーン	エンジンオイルSAE5W-30,10W-30相当		約4リットル	作業前に補給	—

※交換時期は目安であり、使用状況などで変わりますので、注意してください。

付表 4 油圧回路図



付表5 電気回路図（コントロールボックス1）



付表6 電気回路図（コントロールボックス2）

